

第5章 遺物

第1節 遺構出土遺物 (図版第36~54、第42~76図)

1 住居出土遺物

SH 1・2 出土遺物 (第42図1~5)

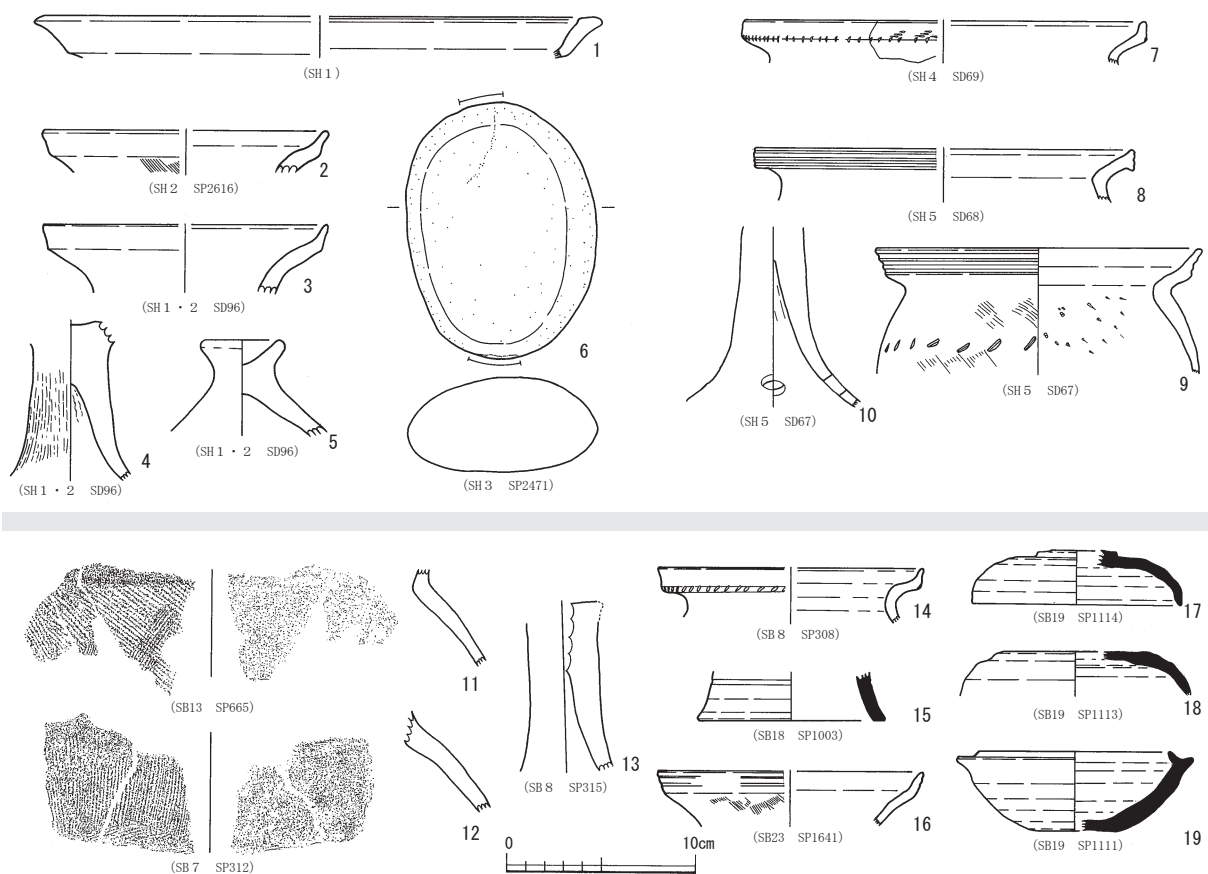
SH 1内からは、弥生土器の高坏の口縁部片 (第42図1) が出土している。口縁端部に平坦面をつくるものである。

SH 1・2のSD96から、弥生土器の壺の口縁部片 (第42図3) と考えられるものと、弥生土器の高坏の脚部上半 (第42図4)、蓋のつまみ部分 (第42図5) が出土している。3は開いた頸部から有段となる口縁部である。4はSD 2から出土した高坏の脚部と同じように単純に「ハ」の字に開く、有段とはならないタイプのもと考えられる。

SH 2のSP2616からも、第42図3と類似した口縁部 (第42図2) が出土している。ここでは壺の口縁部として図化した。先のものと比較すると頸部の立ち上がりの器壁が、壺の頸部とするにはやや厚い。台付の器種の脚台の可能性はあるが、本遺跡周辺ではこのような脚台となる事例は少ない。

SH 3 出土遺物 (第42図6)

SH 3のSP2471から、磨石類が1点出土した。両端に敲打痕が認められる。磨痕は明らかでない。



第42図 遺物実測図1 (縮尺1/4)

SH 4 出土遺物（第 42 図 7）

SH 4 の SD69 から、弥生土器の甕の口縁部片（第 42 図 7）が出土している。受口状口縁で、立ち上がりに刺突列点文を加える。

SH 5 出土遺物（第 42 図 8～10）

SH 5 の SD67 から、弥生土器の有段口縁甕の口縁部から胴部上半（第 42 図 9）が出土している。有段の立ち上がりは明確で、外に開いて立ち上がる。胴部上半にはヘラの刺突列点文がめぐる。SD67 からは高坏の脚部上半（第 42 図 10）も出土している。SH 2 の高坏と同じように、「ハ」の字に開くタイプであろう。

SH 5 の SD68 からは有段口縁甕の口縁部片（第 42 図 8）が出土している。口縁の立ち上がりがほとんどなく、有段口縁としては型式的に古いタイプである。

2 掘立柱建物出土遺物

掘立柱建物の柱穴からは、微細片ながらも土器が僅かに出土している。器形が把握できるものを中心に、図化を試みた。しかしながら、異なる時代の土器が混在して出土する例もあるため、提示した土器資料が掘立柱建物の帰属時期を示すものとは一概には言い切れないことを断っておく。

SB 7 出土遺物（第 42 図 12、第 43 図 1）

第 42 図 12 は、SP312 から出土した土師器の甕頸部片である。外面がタテハケ調整である。なお、図示しなかったが、別の柱穴からは回転ヘラ切り痕を持つ須恵器無台坏の微細な底部片が出土している。

第 43 図 1 は、SP318 から出土した柱根である。芯持ち材を用いており、横断面が略円形を呈する。基底面には、左側より斜めに切り込まれた加工痕を残す。

SB 8 出土遺物（第 42 図 13・14）

第 42 図 13 は、SP315 から出土した高坏の脚部上半である。表面が赤味の強い色調で、本遺跡の弥生土器の高坏の色調とは全く異なる。器壁もかなり厚く、胎土も異なる。表面の磨滅が著しく、調整が全く不明で時期の判別ができない。

第 42 図 14 は、SP308 から出土した弥生土器の受口状口縁甕の口縁部である。口縁端部が内傾し、立ち上がりに刺突列点文を加える。

SB13 出土遺物（第 42 図 11）

第 42 図 11 は、SP665 から出土した土師器の甕頸部片である。外面がナナメのハケ調整で、その上に僅かに残る頸部への立ち上がりにはヨコナデ調整を施す。11 と SB 7 出土の第 42 図 12 の甕は口縁部等明確な時期を示す部分はないが、SD 2 で出土している弥生土器の胎土とは全く異質なものである。周辺での類例や器壁の厚み、長胴ではなく、やや丸くなると考えられる器形等から、古墳時代終末期も含めた古代前半の非ロクロ成形の土師器の甕であると考えられる。

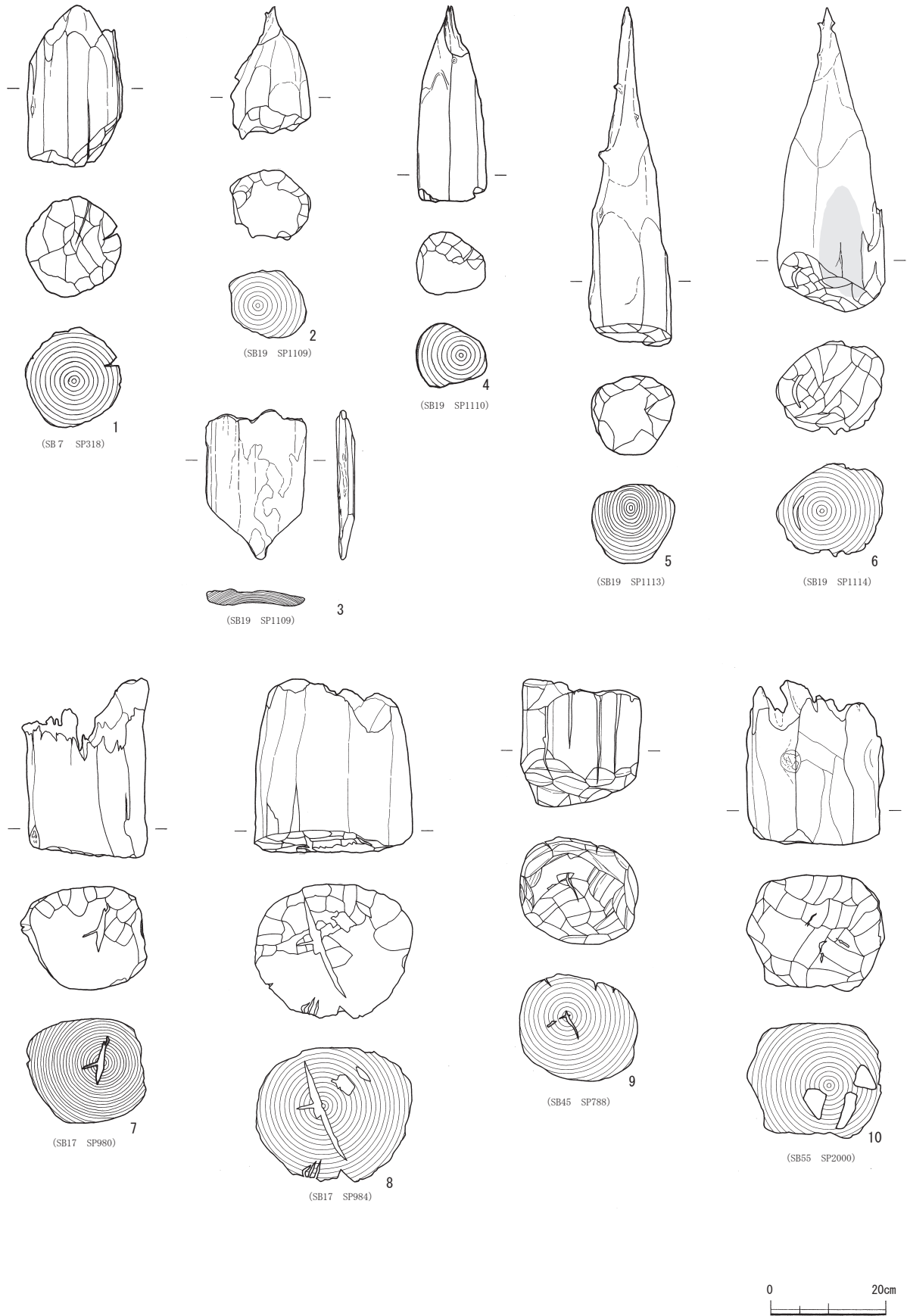
SB17 出土遺物（第 43 図 7・8）

第 43 図 7・8 は、SP980・984 から出土した柱根である。7 は芯持ち材を用いており、横断面は略方形を呈する。8 も芯持ち材を用いており、横断面は楕円形を呈する。両者ともに、基底面は平坦に整えている。

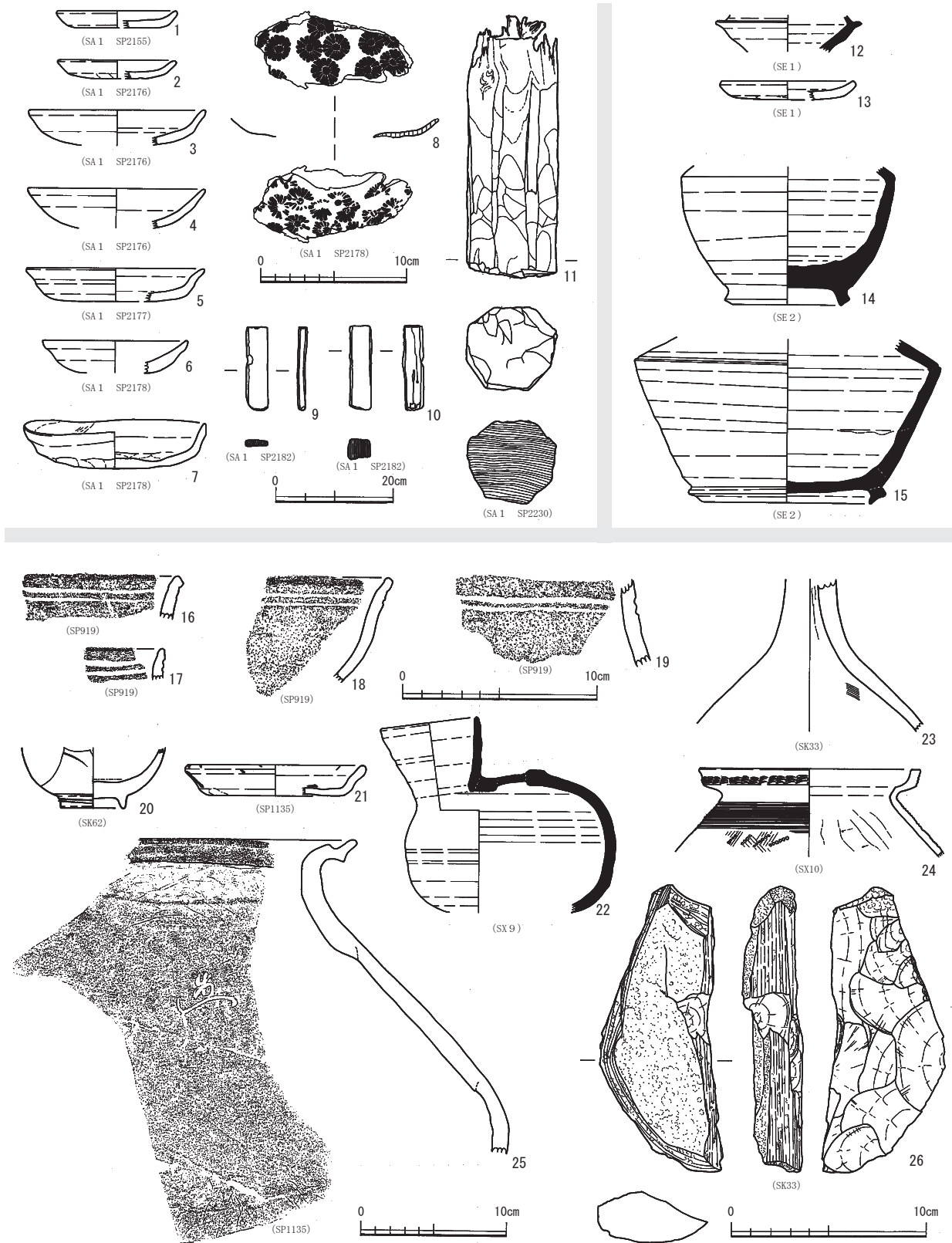
SB18 出土遺物（第 42 図 15）

第 42 図 15 は、SP1003 から出土した須恵器片である。端面が平坦となることから、壺等の脚台の一部である可能性が高い。

第1節 遺構出土遺物



第43図 遺物実測図2 (縮尺1/10)



第44図 遺物実測図3 (縮尺 1~8・12~15・20~25:1/4, 9~11:1/10, 16~19・26:1/3)

SB19 出土遺物 (第42図 17~19、第43図 2~6)

第42図 19はSP1111から出土した須恵器の坏身、第42図 17はSP1114から、第42図 18はSP1113から各々出土した須恵器の坏蓋である。坏身・坏蓋ともに「坏H」とされる7世紀代のものである。

第43図2・4～6は、SP1109・1110・1113・1114から出土した柱根である。いずれも芯持ち材を用いている。横断面は、不整な扇形を呈する。2・4・5は基底面を平坦に整えるが、6は左右より斜めに切り込まれており、尖り気味となる。

第43図3は、SP1109から出土した礎板である。平面形は五角形を呈し、下端は左右両側面から斜めに切り落とされている。

SB23 出土遺物 (第42図16)

第42図16はSP1641から出土した弥生土器の壺の口縁部である。開いた頸部から有段となって立ち上がる。器台の受け部に多いタイプであるが、器台とするには器壁が薄く、口径も小さいので壺と判断して復元した。

SB45 出土遺物 (第43図9)

第43図9は、SP788から出土した柱根である。芯持ち材を用いており、横断面は略方形を呈する。基底面には、周囲より斜めに切り込まれた加工痕が明瞭に残る。

SB55 出土遺物 (第43図10)

第43図10は、SP2000から出土した柱根である。芯持ち材を用いており、横断面が略六角形を呈する。基底面には、周囲より切り込まれた加工痕が明瞭に残る。

3 柵列出土遺物

SA 1 出土遺物 (第44図1～11)

SA 1を構成するSP2155・2176・2177・2178から、土師皿・漆器・木製品および柱根が出土した。

土師皿は、大皿と小皿が存在する。第44図1・2は、口径8cm前後をはかる小皿である。体部は、平底の底部から見込みを押さえて短く立ち上がる。このため身の作りは浅い。第44図3・4・6・7は、口径10～12cm前後をはかる土師皿の大皿である。体部は、丸味を帯びた底部から見込みを押さえて、外傾しながら立ち上がる。口縁部下外面にはマワシナデを施すが、マワシナデの強弱により見込みが折れるものと緩やかなものがある。第44図5は口径12cm前後をはかる大皿で、口縁部下外面の強いマワシナデのため体部中程で外折する。若狭地域では土師皿の編年が確立されていないため、永平寺町諏訪間興行寺遺跡の分類・編年案に参照すると、いずれも13世紀半ばから後半に属する。

第44図8は漆器である。底部を中心とした小片である。腐朽のため木胎が僅かしか遺存していないうえに、器形に歪みが生じており器種を明確に特定できないが、底面が広く作られていることから皿の可能性はある。内外面には黒漆地に朱漆で型押しした菊花文を施す。内面は4単位の菊花文を菱形状に配して1組とし、それを器面に展開させている。外面は朱漆が剥落しているため明確ではないが、菊花文を重複して密に配する。

第44図9・10は小型の板材である。第44図11は柱根である。芯去り材を用いており、横断面は略八角形を呈する。基底面は、平坦に整えられている。風蝕により不明瞭ではあるが、表面にはチョウナ痕と推定される加工痕が認められる。

4 井戸出土遺物

SE 1 出土遺物 (第44図12・13)

SE 1からは、須恵器の坏身が1点と土師皿が1点出土している。第44図12の坏は特徴的な口縁端部を欠くものの立ち上がりは明瞭で、「坏H」と呼ばれる7世紀代のものである。第44図13の土師皿は、体部が平底の底部から見込みを押さえて短く立ち上がる小皿である。SA 1出土の小皿と同時期と考えら

れ、13世紀半ばから後半に属する。

SE 2 出土遺物 (第44図14・15)

SE 2からは、長頸壺と考えられる高台が付く胴部下半(第44図14)と、広口の壺と考えられる高台が付く胴部下半(第44図15)の、2点が出土している。14は大きさの割に底部の器壁が厚く、全体にやぼったい感じがする。15は屈曲する胴部の最大径の上に沈線をめぐらす

5 土坑・柱穴出土遺物

SK33 出土遺物 (第44図23・26)

第44図23は、「ハ」の字に開く弥生土器の高杯の脚部上半である。裾近くまでであるが、円形の孔の部分は残っていない。

第44図26は、ガラス質安山岩製の石核である。角礫の母岩から節理に沿って剥離した板状剥片を素材とする。側面の自然面を打面、腹面を作業面とし、背面は全面自然面に覆われている。

SK62 出土遺物 (第44図20)

第44図20は、肥前系磁器の染付椀である。呉須にて、内面見込みと高台外面には2条の界線を、体部外面には草花文を描く。細片のため明確ではないが18世紀前半頃に属すると推定される。

SX 9 出土遺物 (第44図22)

第44図22は、須恵器の平瓶である。底部を欠くが、ほぼ全形がわかるまでに復元できた。丸く器高が高く、小さめのものである。胴部天井部のロクロ成形の穴を粘土の円盤で塞ぎ、その脇に小さな円形浮文を貼り付ける。

SX10 出土遺物 (第44図24)

第44図24は弥生土器の甕であり、受口状口縁を呈する。口縁の立ち上がりに櫛描の刺突列点文をめぐらせ、胴部上半には櫛描直線文の直下にも櫛描の刺突列点文を加える。

SP919 出土遺物 (第44図16～19)

第44図16～19は、縄文土器である。16～18は2条の沈線をめぐらす口縁部片。16・17は同一個体と考えられる。18の沈線は16・17に比べ細く浅い。19は2条の沈線をめぐらす胴部片である。

SP1135 出土遺物 (第44図21・25)

第44図21は土師皿である。口縁部下外面の強いマワシナデのため、体部の中程で外折する。第44図25は越前焼の甕である。口縁部が上方に立ち上がり、口縁端部内面に凹線をめぐらす。体部には、花押状の刻文を施す。いずれも13世紀後半に属する。

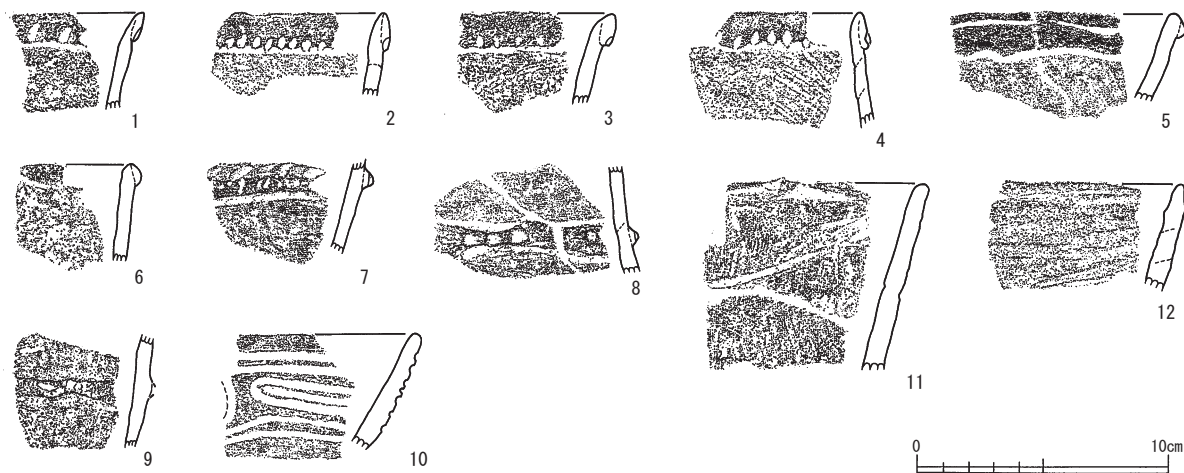
6 河川・溝出土遺物

SD 1 出土遺物 (第45～52図)

縄文土器 (第45図)

縄文時代晩期後葉に位置付けられる土器が少量出土した。出土地区は6区にまとまっている。いずれも小破片で、器形全体をうかがえる個体は認められない。

第45図1～8は突帯土器の系譜で捉えられる資料である。いずれも深鉢とみられる。1～6は口縁部破片で、突帯は口縁端部に接する。突帯の形状には低平で幅広のもの(1～4)と断面半円形のもの(5・6)がある。前者は突帯というよりむしろ肥厚口縁と呼ぶべき形状を呈し、下端に沿って米粒状の刺突列を持つ。口縁端部は突帯上端と一体をなし、尖り気味である。一方、後者の突帯は刻みや刺突を持たず、口縁端部は丸味を帯びている。第45図7～9は頸胴部破片である。7・8は断面三角形



第45図 遺物実測図4 (縮尺1/3)

状の突帯を施す。9は突帯が剥落しており、形状は不明。7の突帯には、垂直ないしやや右方向から施した断面V字の刻みが認められ、突帯の上方には整形時のものとみられる爪痕が残る。一方、8の突帯には、工具をねかせて右方向から押しつけることによりD字を呈する刻みを施している。9にもD字の刻みの痕跡が残る。これら突帯文土器の胎土は、概して径2mm程度までの砂粒を多く含む。器面調整は3・4に突帯施文前の斜位条痕が確認できる。

第45図10は沈線で工字文状の文様を描出した浅鉢。大洞A・A'式に類似する。外面に赤彩の痕跡が残る。胎土は砂粒が少なくきめ細かい。

第45図11・12は無文深鉢である。11は外面に板状工具で縦位のナデを施し、内面は横位条痕後にナデを施している。12は内外面に幅広の横位条痕を施す。胎土は突帯文土器と同様に砂粒を多く含むが、雲母を多量に含む点で異なっている。

須恵器 (第46～48図)

SD1からは、須恵器が大量に出土している。このため、墨書土器等の特殊な土器以外は、口径等の遺存状況が良いものを対象に図化した。出土した須恵器は、6世紀代にまで遡るものが一部見られるが、主体となるのは7世紀前半から8世紀前半を中心とした時期のものである。また、9世紀代まで下ると考えられるものは、墨書土器として提示した2点以外は図化できていない。

また、円面硯も越前地域や周辺での事例等から、SD2で主体となる古代後半の墨書土器と同じく9世紀初頭を中心とする時期のものではなく、8世紀前半のものである可能性が高い。ここでは坏蓋・坏身・堤瓶・甗・壺・高坏・鉢・甕等の順に、特殊な土器以外はまとめて説明していく。なお、坏以下、壺・鉢・甕等の器種名、坏身の細分類名は奈良文化財研究所による平城宮跡の調査報告を参考にした。

更に、須恵器の時期等については、越前地域と若狭地域では様相が異なると考えられるが、若狭地域では同時期のまとまった資料の報告がないこともあり、越前地域の茱山崎遺跡・今市岩畑遺跡および乗兼・坪江遺跡等の同時期と考えられる遺跡の類例を参考にし、『シンポジウム 北陸古代土器研究の現状と課題』の田嶋編年で補足した。

図化した器種の内訳は、坏蓋は22点(第46図1～15・48～54)、坏身は33点(第46図16～47・55)、甗は2点(第47図8・9)、皿は1点(第46図56)、瓶・壺は8点(第47図1・6・7・10、第48図4～7)、高坏は4点(第47図2～5)、鉢は2点(第47図11、第48図8)、甕は6点(第47図

12～14、第48図1～3)、円面硯の1点(第46図57)の合計79点である。

① 坏蓋(第46図1～15・48～54)

坏蓋はつまみのあるもの(第46図48～54)と、つまみの無いもの(第46図1～15)がある。坏蓋でも高台坏に伴うと思われるものはいずれもつまみが付くか、付くと思われるものである。丸く器高の高い天井部に、口縁端部が立って面をつくるもの(第46図48～51)、やや低くなるもの(第46図52)、器高は高いが天井部が平坦で、口縁内面に小さいかえりがあるもの(第46図53)、そして器高が低く扁平なもの(第46図54)の4タイプがある。最後の扁平なタイプは外面の天井部に「黒」または「田」にもう1字が加わる墨書の一部が残る。つまみの無い蓋には口縁端部が屈曲して段となるもの(第46図1～3)3点と、屈曲しないでそのまま口縁となるものがある。後者は口縁がやや開くもの(第46図4～6)と、口縁が直立するもの(第46図7～15)の2つのタイプがあり、口縁が直立するタイプは口径が小さくなる。

② 坏身(第46図16～47・55)

坏には、無台坏と有台坏がある。無台坏は口縁の立ち上がりが明確で、完全な平底になるものは少なく、丸味のある底部のものが多い。比較的直線的に立ち上がるもの(第46図16～21)と、立ち上がりは明瞭ながら丸く大きく外反し全体に丸みのある器形となるもの(第46図22～26)の、2タイプに分類できる。無台坏でへらの線刻があるものはこの前者のタイプで、底部外面に「+」または「×」印のへら描があるもの(第46図47)、底部内面に「-」印のへら描があるもの(第46図55)である。また、平底がやや明瞭なもの(第46図27～29)は、口縁端部がやや内傾するのが特徴となっている。底部を欠く深い身の坏(第46図30)は高坏の可能性もある。口径の小さい平底は「坏G」と分類されているもの(第46図31・32)であろう。口縁にかえりがついて立ち上がる「坏H」とされるもの(第46図33～36)は、集落遺跡での出土例が少なく、主に群集墳等に供献されている事例が多いものである。ただし若狭地域の群集墳でいくつか確認されている宝珠型つまみを持つ坏蓋は、本遺跡では確認されていない。坏蓋には口縁部のみからの復元し図化しているものもあるので、存在していた可能性もある。しかし、いわゆる「坏H」に宝珠つまみを持つ坏蓋が伴う事例は、敦賀も含めた若狭湾沿岸の遺跡、特に集落遺跡では極端に少ないとの指摘もある。また口縁が屈曲して段となる坏蓋に対する杯身には「坏H」とされるもの(第46図34・35)が対応するとも考えられるが、若狭地域周辺での事例からは無台坏(例えば第46図16～21等)の可能性も考えられている。

有台坏は、貼り付けられた高台から丸みを持ってから立ち上がり直線的に開くもの(第46図37・38・40・42～45等)が多いが、やや丸みのある立ち上がりのもの(第46図39・41)もある。全体に開きが浅い割には器高が高い。

③ 皿(第46図56)

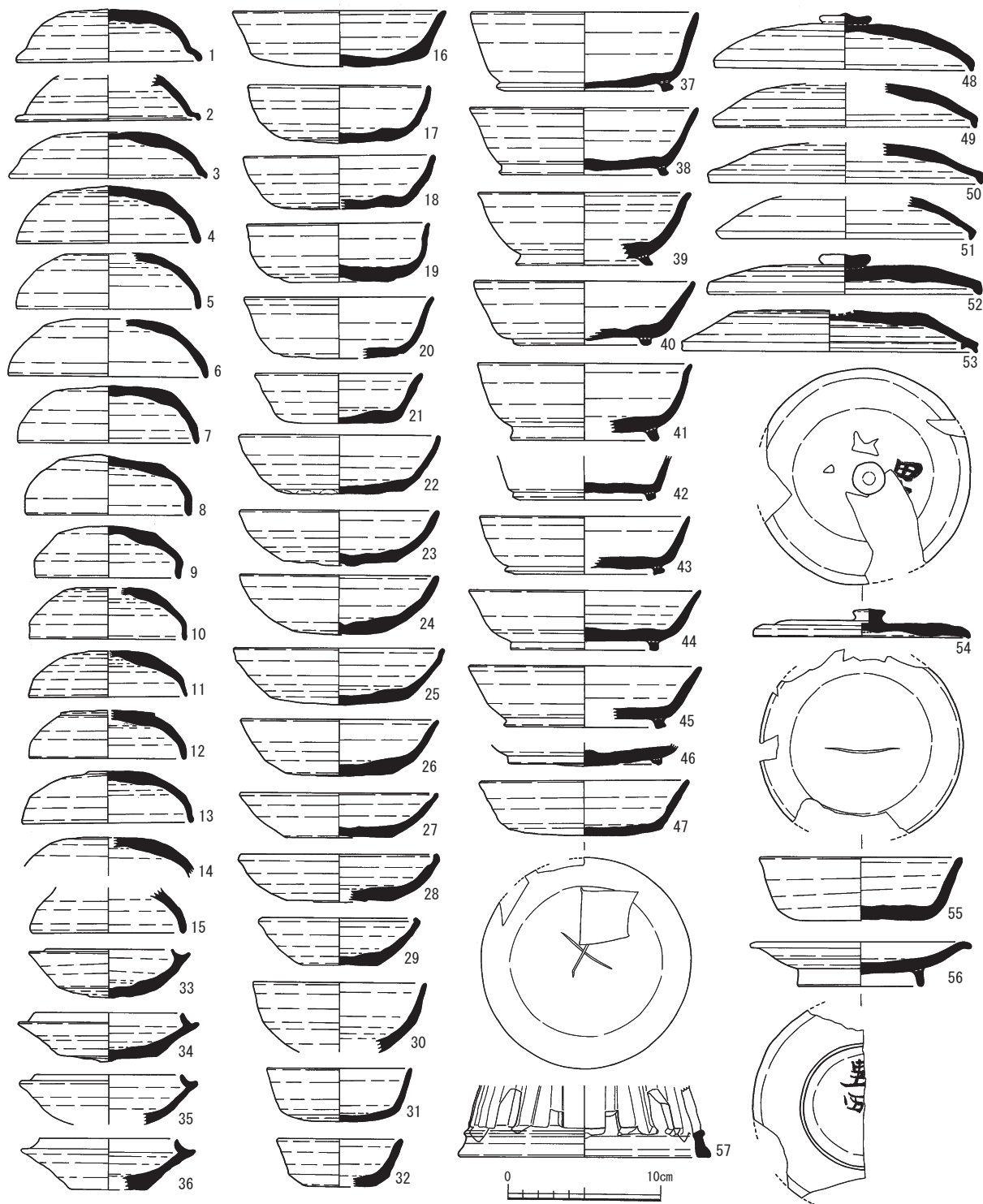
皿で図化できたのが1点ある(第46図56)。高台が付くもので、底部外面の高台の内側に「黒田」の墨書が残る。

④ 甗(第47図8・9)

甗は口縁部を欠く頸部以下の胴部(第47図9)と、口径がやや大きい、伸びる頸部に密なカキ目があることから甗の口縁と推定したもの(第47図8)の2点である。

⑤ 瓶・壺(第47図1・6・7・10、第48図4～7)

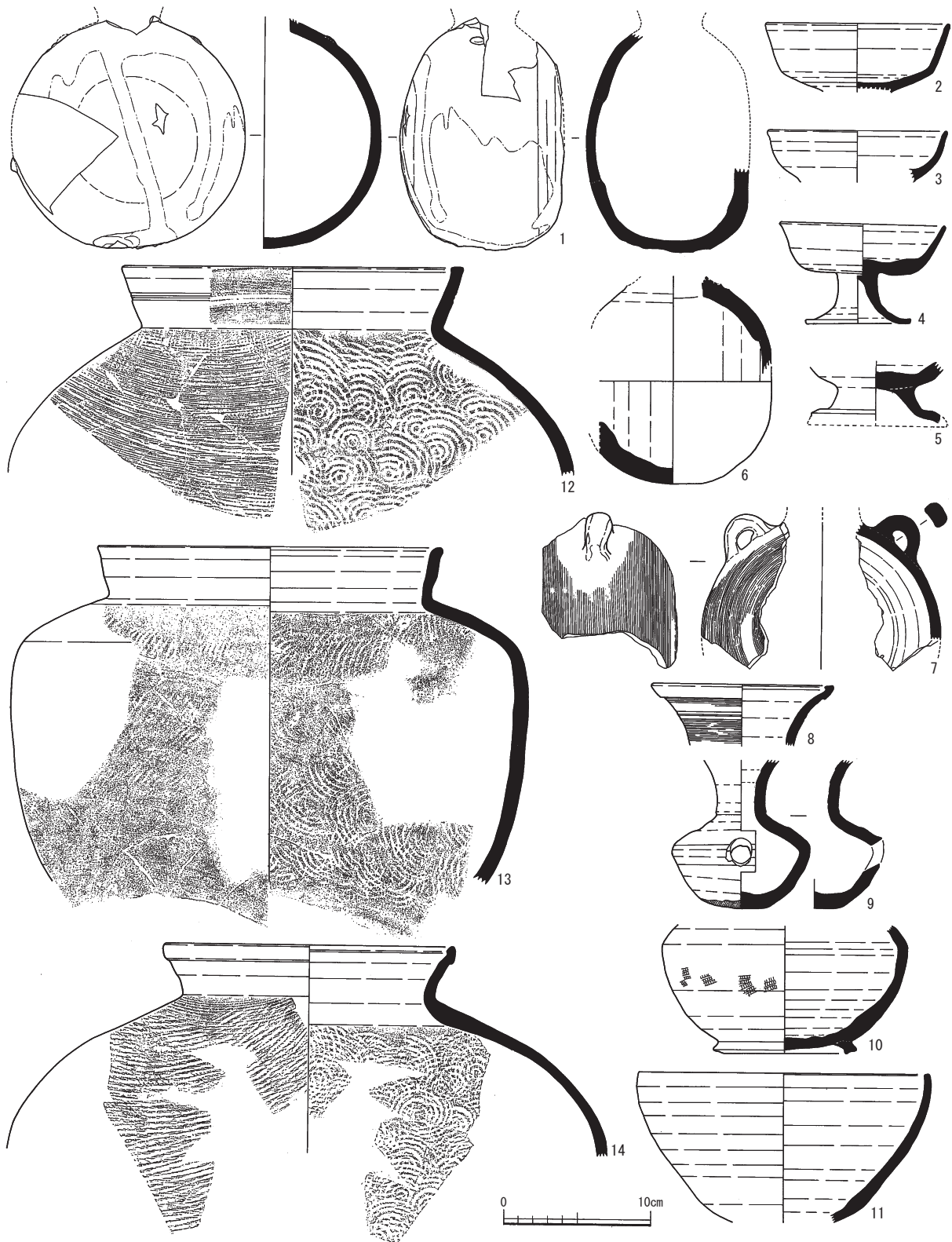
瓶類には提瓶と横瓶に平瓶がある。提瓶はいずれも口縁部を欠く、胴部のみの3点である。円環状の



第46図 遺物実測図5 (縮尺1/4)

把手があるもの (第47図7)、把手が形骸化して小さなボタン状になったもの (第47図1)、破損のため把手の有無が不明でやや胴部の形状が球形に近いもの (第47図6) がある。横瓶は口縁部周辺のみが残っているが、小さい口径に頸部も短く、胴部の開きが大きくなるもの (第48図4) である。有段で丸みのある口縁が特徴である。平瓶はいずれも口縁部を欠くもの (第48図5・6) であるが、全体に丸みのある胴部となりそうである。

壺は高台の付く胴部下半のみのもの (第47図10) と、口縁部と底部を欠く、胴部中ほどのもの (第

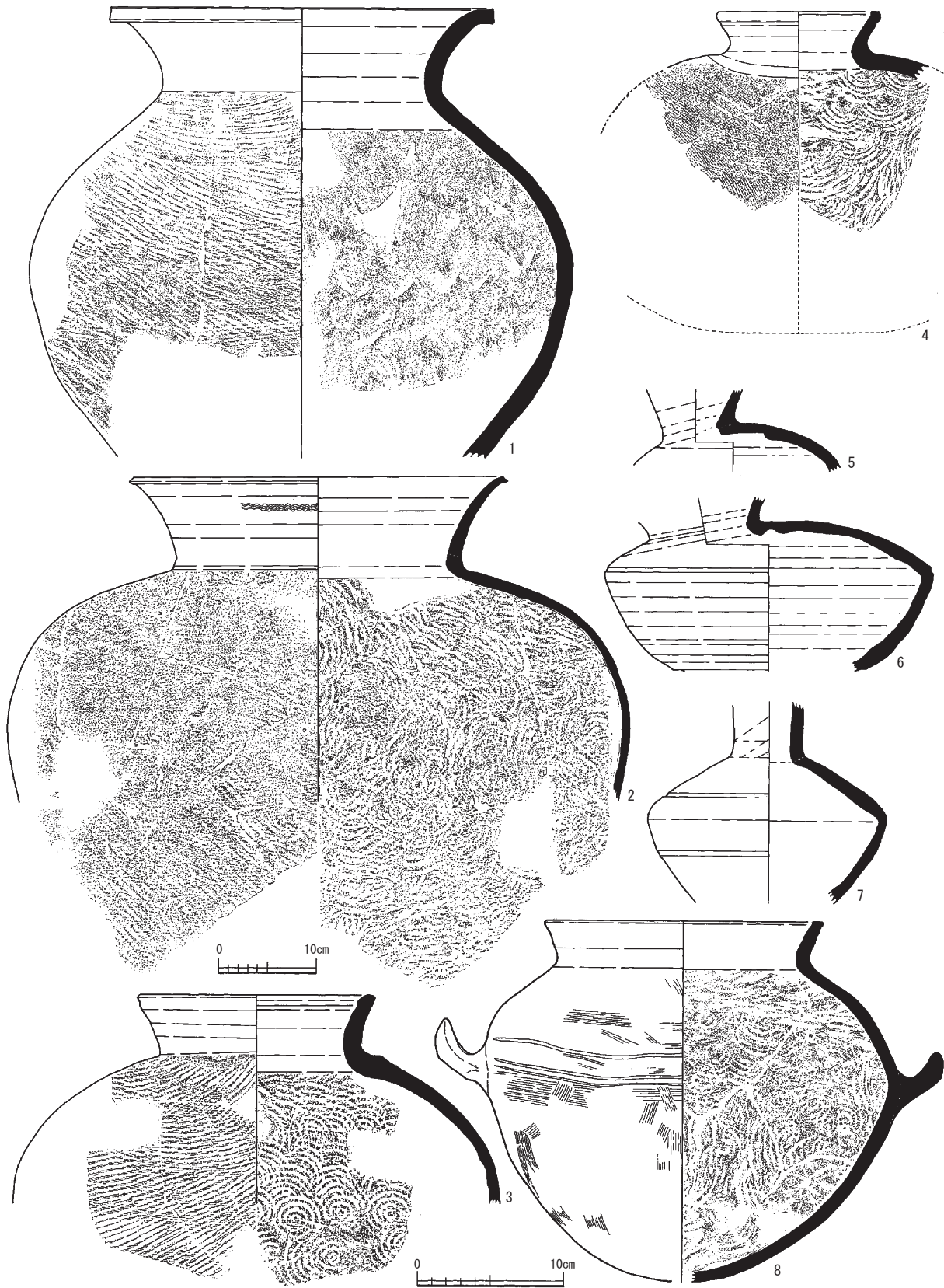


第47図 遺物実測図6 (縮尺1/4)

48 図7) である。いずれも同じように長頸壺と呼ばれるものであろう。

⑥高坏 (第47 図 2~5)

高坏は無台坏に脚が付くもので、完形に復元できたもの (第47 図4) は、筒状に伸びた脚が「ハ」



第48図 遺物実測図7 (縮尺 1・3~8:1/4、2:1/6)

の字状に開いて、端部となる。脚部分のみ残されたものには脚端部で一度段を作るようなもの(第47

図5)もある。この他に明らかな無台坏や、高坏として復元した先の個体(第47図4)との比較から、高坏の坏部と判断したもの(第47図2・3)が2点ある。

⑦鉢(第47図11、第48図8)

鉢には底部を欠く鉄鉢に近い器形のもの(第47図11)があるが、鉄鉢の特徴である口縁が内傾、または内湾せずにはほぼ直立し、端部を平坦としている。このような器形の鉢は周辺での類例が見当たらないが、これを鉄鉢の器形として分類することはできないであろう。この他に甕のような器形に把手が付くもの(第48図8)がある。把手が付く以外は次に説明する甕にほぼ類似する器形と調整である。

⑧甕(第47図12～14、第48図1～3)

甕はいずれも底部を欠いた6点を図化した。口縁部から胴部上半だけ図化した状態であるが、大きさ、形状ともに個体差が大きい。特に口縁部については、胴部に比して小さめで外に開き、口縁端部を丸くするもの(第47図13、第48図3)、同じく口縁端部を押えて平坦とするもの(第47図12)、そして外側に張り付けて有段にするもの(第47図14)、大きく外反する口縁部に垂直な平坦面をつくるもの(第48図1)、斜めに平坦面をつくるもの(第48図2)等、個々に異なる。胴部も全体に丸みのあるもの(第47図12・14、第48図1・3)と肩が張るもの(第47図13)がある。胴部の調整も外面のタタキを一部ナデ消すもの(第48図2)、タタキの後カキ目で一部消すもの(第47図14、第48図1)、全体に消すもの(第47図12)、そしてタタキを全く消さないでおくもの(第48図3)があり、内面は当て具の青海波文をナデ消すもの(第48図1)は1点で、残りの5点はほぼ全体に残す。

⑨その他(第46図57)

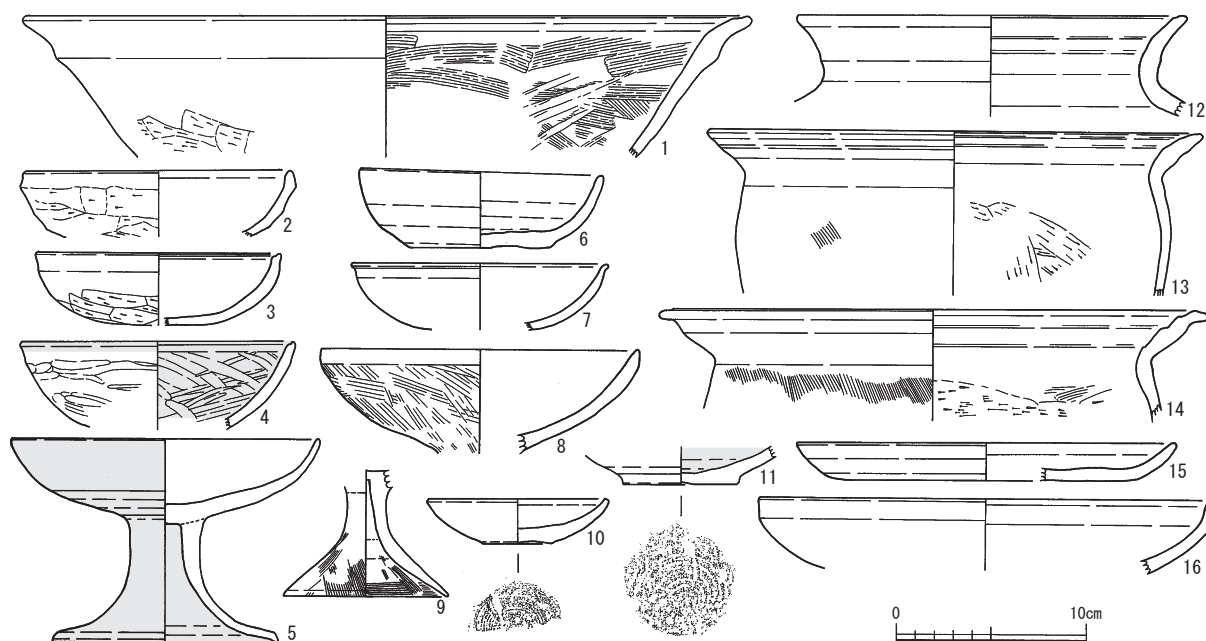
この他に特殊な器種として、透脚の円面硯がある(第46図57)。「ハ」の字に開く脚端部のみの出土で、研面は残されていない。透部分の間隔が狭く、脚の数も多く復元されることから円面硯の分類では古いものであろう。

土師器(第49・50図)

須恵器と同時期の土師器は、須恵器で図化できたほどの点数は無い。製塩土器・移動式置竈を除けば、碗や高坏に煮沸具の甕等の須恵器と同時期と考えられるものから、時代が異なる可能性のものも含めても16点(第49図1～16)しかない。これは須恵器ほど土師器の遺存状況が良くなく、図化に耐えるまでに復元できるものが少ないこともあるが、出土する全体量も確かに少ないように感じられる。これらには弥生土器、もしくは古墳時代前半の古式土師器の可能性を残すものも3点(第49図8・9・16)あるが、SD2で図化したように、明らかに弥生土器と考えられる器形ではなかった。なお、出土量が僅少であるため、ここで提示したい。

最初に高坏と考えられる3点について説明しておく。高坏の脚とされるもの(第49図9)は脚が単純に「ハ」の字に開き、弥生土器または古式土師器では一般的な器形となるものである。坏部の2点は、口縁端部をヨコナデ調整でつまみ上げる(第49図8)か、更に伸ばして立ち上げるもの(第49図16)で、周辺の弥生土器の高坏には類例のないものである。前者は口径が16.8cmと小さく、後者は24.0cmとやや大きい。後者は胎土からは弥生土器の可能性のあるものの、前者の口径が小さいものと脚部の9についても、古代の土器の調整では例外となるハケ調整であることが問題である。むしろ、古墳時代前期後半から中頃の土師器である可能性が最も高い。しかし、同時代の土器が明確ではないのでここで取り上げた。今後の検討では、古代の土師器でなくなる可能性が高いと考えられる。

古代の土師器についても、須恵器と同じく器種毎に概説する。



第49図 遺物実測図8 (縮尺1/4)

①甕 (第49図12～14)

甕は頸部から丸く立ち上がる口縁のもの(第49図12)と、口縁内面が波打つように段々となる青野型甕が2点(第49図13・14)ある。前者の丸く立ち上がる口縁の内面にも弱い段々が僅かに残されているが、他の2点ほどは明確ではない。いずれも口縁部付近のみの図化で、胴部等全体が不明なため他の事例との比較は難しい。

②鉢 (第49図1)

鉢は1点のみ(第49図1)の図化である。胴部から大きく開き、明確な頸部の屈曲がなく、そのまま外反する口縁となる。

③椀 (第49図2～4・6・7)

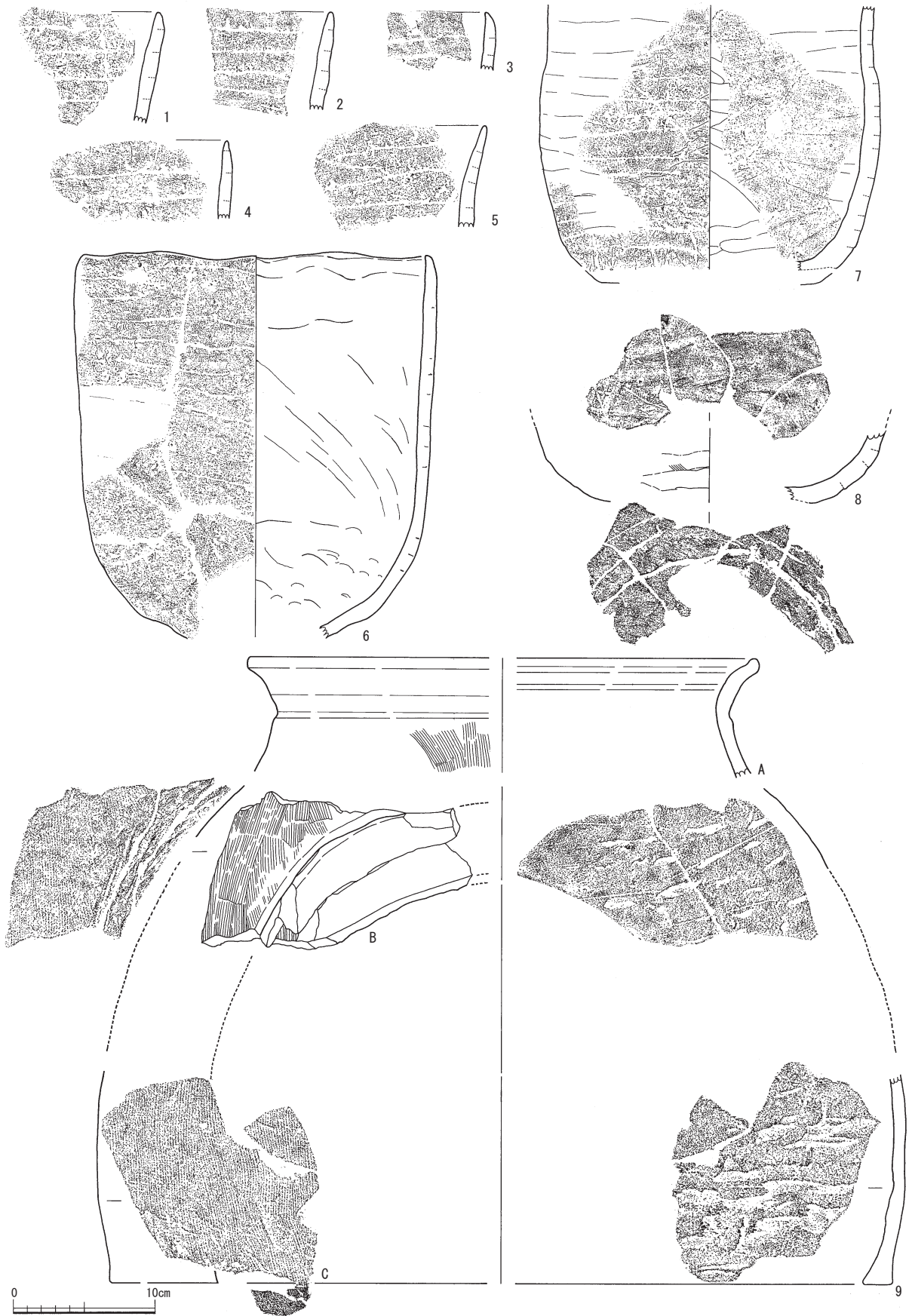
椀は5点ある。平底に復元したもの(第49図6)はロクロ成形である。底部が完全に残っていないため確実ではないが、丸底の底部となりそうなものは、底部をヘラ削りとするもの(第49図2・3)と、内外面をミガキ調整するもの(第49図4)の2種類ある。また、口縁の端部が小さく屈曲して外反するもの(第49図7)は、遺存の状況が良くないので調整は明確ではないが、後者のミガキ調整と考えられる。

④高坏 (第49図5)

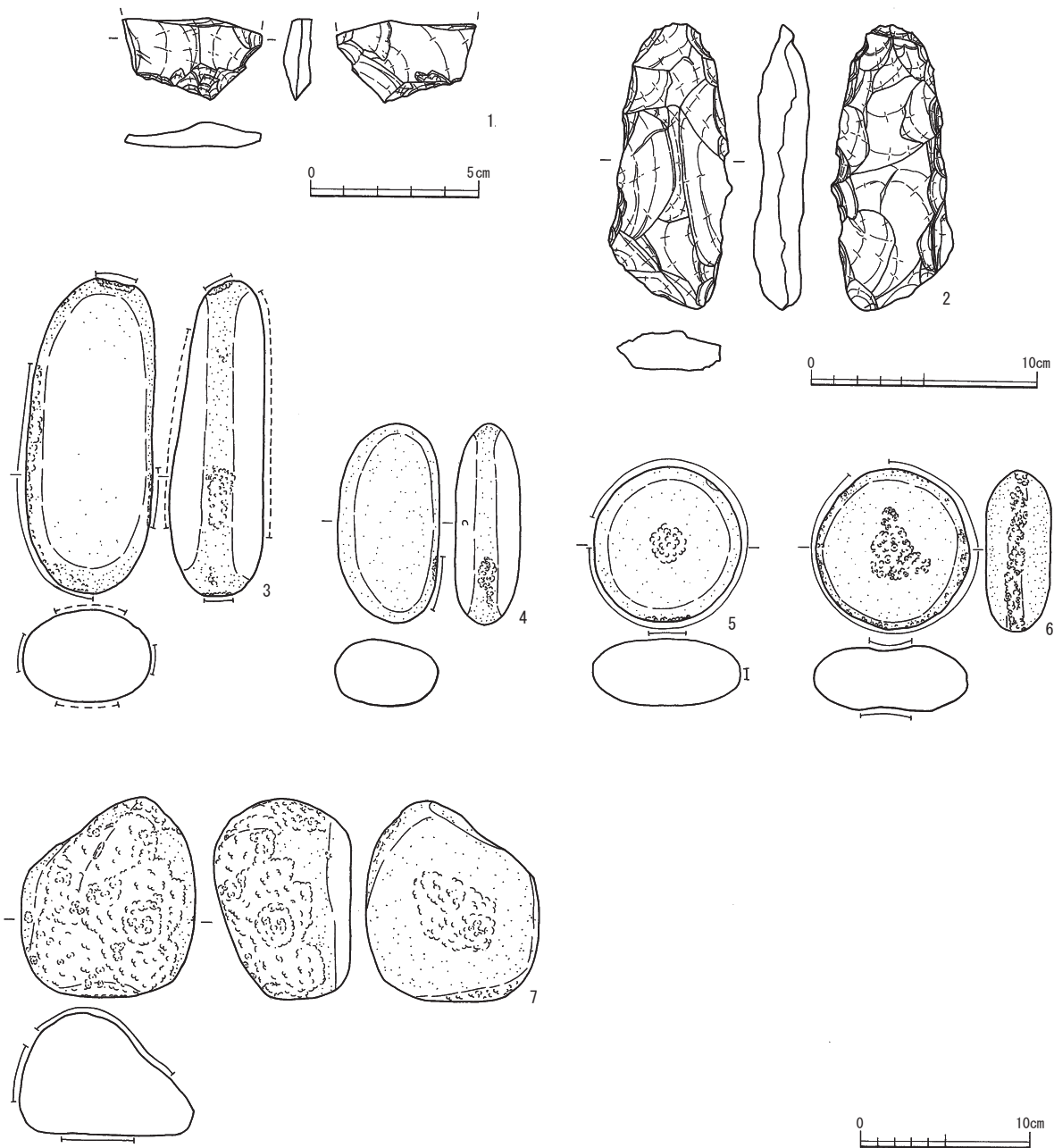
高坏は外面全面と脚部内面を黒色処理されたもの(第49図5)がある。椀と同じような丸い坏部から棒状に伸びた脚が外反する。

⑤製塩土器 (第50図1～8)

本遺跡は海浜部からは山越えて4kmほど離れた内陸部に位置するが、製塩土器が一定量出土している。製塩土器は大量に出土する製塩遺跡でも器形がわかるまで復元できる個体は少ないが、本遺跡ではそれほど多くはない出土量ながらも、底部の中央を欠くだけの状態で復元できたものがある。ここでは特徴的な口縁部と、その底部のいくつかを図化した。口縁部は、いずれもその先端を先細りさせるものである。また、口縁端部が内傾するもの(第50図1・3・4)と、口縁部全体が外反するもの(第50図5)があるが、土器製作時の焼き歪みの可能性もある。最初に述べたように図上で底部の一部を欠くまでに



第50図 遺物実測図9 (縮尺1/4)



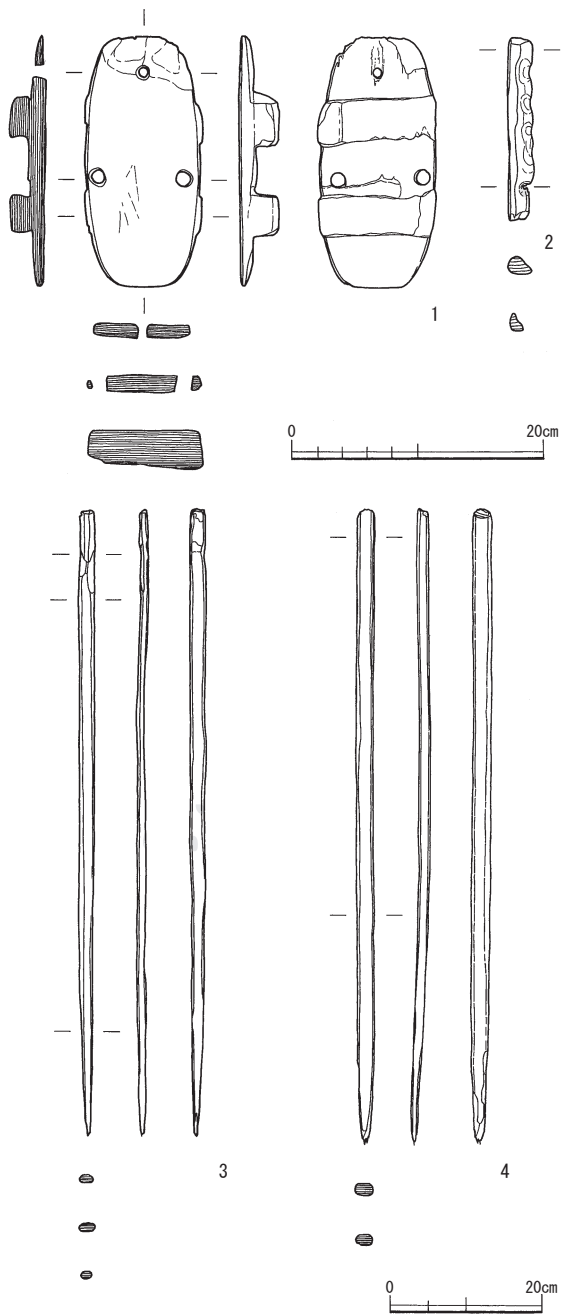
第51図 遺物実測図10 (縮尺 1 : 1/2、2 : 1/3、3 ~ 7 : 1/4)

復元したもの(第50図6)は、完全な平底ではないが、自立が可能な安定したような丸底から直立して胴部となり、そのまま口縁となる。口縁端部は先細りする。底部のみ復元したもの(第50図8)からも、明らかに平底ではなく、安定した丸底であることが判断できる。口縁部も底部の中央も欠き、胴部のみの復元のもの(第50図7)も、胴部から底部へ変化する部分が残し、こちらからも同様の底部であることがうかがえる。

ここで図化した土器の特徴はやや厚手の器壁ではあるが、輪積みされる粘土帯の幅が、これまで確認されているものより狭く2cm前後である。また丸底から平底へ移行する状況がうかがえる。

⑥移動式置竈(第50図9)

土製品として移動式の置竈の各部位が出土している。この中で3点の破片が胎土や色調が類似することから同一個体と判断し、1個体として復元した。竈の口縁部分(第50図9A)は残存部分が少ないた



第52図 遺物実測図11

(縮尺1・2 : 1/6、3・4 : 1/10)

いずれも主面は摩耗している。3・4は棒状礫を利用したもので、端部や端部寄りの側面に敲打痕を形成する。5・6は扁平な円礫を利用したもので、ほぼ全周にわたって敲打痕が認められる。主面中央部にも敲打痕があり、6では浅い凹みを形成する。7は歪な円礫を利用したもので、ほぼ全面に敲打痕が認められ、平坦面では中央部に浅い凹みを形成する。

木製品 (第52図)

第52図1は、連歯式の下駄である。平面形は細長い樽形を呈し、鼻緒を通す径約1.1～1.5cmの円孔(壺)を設ける。前壺は前歯と器体上端の間の、器体中軸線上に設ける。後壺は後歯よりも前に位置し、後歯に接して設ける。前壺の周囲は、履き込んで擦り減ったために浅く凹む。上端の左隅から右側縁に

め口径は確定できないが、35cm前後になると思われる。口縁内面が段状を呈するもので、いわゆる青野型甕に伴うものである。底が貼り付く窓の上部(第50図9B)は、その窓の部分が直立したところから湾曲して、天井に近くなる部分と考えられる。この底の存在で、移動式置竈であると判断した。竈本体の裾の部分(第50図9C)は端部を厚くし、幅広の接地面を持つ。竈本体は外面をタテハケ、内面に輪積み痕を明瞭に残すものの、ヨコ方向のケズリを粗く行う。なお、この復元案については、小浜市木崎遺跡で出土しているものを参考にした。

⑦その他(第49図10・11・15)

その他として、糸切りの底部の皿(第49図10)、生焼けの須恵器であろう皿(第49図15)等がある。また、糸切りの底部のみであるが、SD2で出土した古代の須恵器と同じような時期となる土師器の椀と考えられるもの(第49図11)がある。

石器(第51図)

打製石斧1点、二次加工のある剥片2点、磨石類6点、石皿類2点が出土している。いずれも縄文・弥生時代の所産と考えられるが、個々の時期比定は困難である。

第51図1は二次加工のある剥片である。欠損しており元来の形状は不明。板状剥片の縁辺に階段状の細かい剥離痕がある。第51図2は短冊形の打製石斧である。刃部は偏刃をなし、刃縁は摩耗している。側辺は片側(左正面図の左側)のみ基部近くまで摩耗している。第51図3～7は磨石類である。3を除いて明確な磨痕は認められないが、

かけて凹んでおり、その形状から推定すると右足に履かれていた下駄と考えられる。

第52図2は、火錐臼である。横断面が略三角形を呈し、器表面が摩耗しているため明確ではないが右側面の4箇所径約1.5cmをはかる炭化した凹みが遺存する。

第52図3・4は、横断面が楕円形もしくは隅丸長方形を呈する棒材であり、下端を削って鋭く仕上げる。杭として使用したものと推定される。

SD 2 出土遺物 (第53～75図)

縄文土器および弥生時代前・中期の土器 (第53～56図)

5・6区の下層・最下層を中心にまとまって出土した。縄文時代晩期後葉に位置付けられる土器が主であるが、一部弥生時代前期・中期にまで下るものも含まれる。弥生土器に含まれる土器については、後述する弥生時代の中心となる後期の土器群とは時間的に隔絶し、かつ縄文時代晩期末との区分が不明確な資料も存在するため、関連性を考慮してここで提示して概説する。出土土器の大部分は小破片だが、器形を復元できた個体も数点ある。口縁部および有文の破片を中心に図示し、条痕調整のみの資料を含む無文の体部破片については、遺存状況の良好なものや特徴的なものを抽出して掲載した。

第53図、第54図1～12は突帯文土器ないしその系譜で捉えられるものである。大半は深鉢と考えられるが、口径の小さい口縁部(第53図22)は壺の可能性もある。

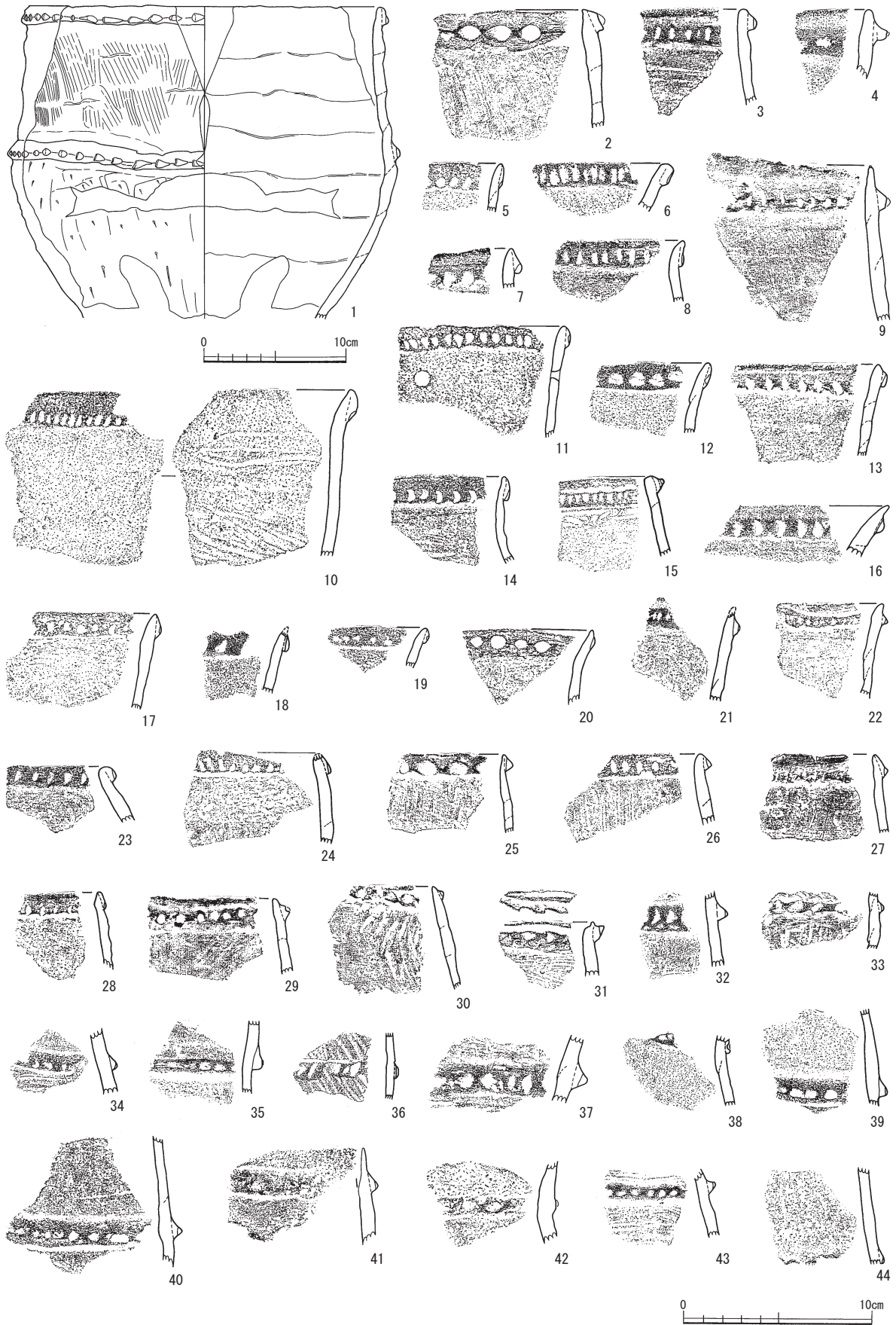
第53図は突帯に刻目や刺突を施すもので、1や2等のように断面三角形や半円形をなす突帯を貼り付け、ヘラ状工具でD字やO字の刻みを施すものと、10や11等のように突帯が低平かつ幅広のため肥厚口縁状を呈し、棒状工具や半截竹管状工具による刺突列を持つものがある。前者は1や胴部片(32～44)の存在から二条突帯となる可能性が高く、口縁端部の処理等も含め近畿地方の編年と対比すれば、突帯文土器の後半に位置づけられる。頸部外面に板状工具による縦位の擦痕を持つ例が多い。一方、後者は一条突帯が主となるようで、頸部外面は平滑なナデ調整である。内面もナデ調整が多いが、10のような条痕調整もある。これらの類例は、小浜市丸山河床遺跡や府中石田遺跡、京都府舞鶴市浦入遺跡等で出土しており、突帯文系土器の最末期と想定されている(伊藤2011)。

第54図1～12は無刻目の突帯を施すもので、1・2・4・6のように、口縁部に高く明瞭な断面三角形の突帯を持つ例が目立つ。1・2は口縁端部をつまんで外側に引き伸ばすように整形している。内外面はナデ調整を施しており、4の外面には先行する縦位条痕が確認できる。

第54図13～27は沈線や浮線文で文様を描出する土器である。13は深鉢の口縁部で、二条の沈線を密接してめぐらす。14～17は平行沈線間に上下対向する三角形の陰刻を施して工字文状とする浅鉢で、陰刻に挟まれたレンズ状の陸部には沈線を充填する。嶺北地域で多くみられる広義の浮線文土器であり、18や19も同類であろう。一方、20は陽刻によって文様を描出した狭義の浮線文土器である。頸部に幅広の無文部、外反する口縁部にはいわゆる口外帯を有す。胴部文様は、上部が平らな凸レンズ状の浮文部を横位に連結し、上下2段で構成する。更に、その下位には同心円文あるいは渦巻文を配している。21は同一個体の胴部片である。

第54図28～37、第55図は無文土器もしくは無文部の破片で、多くに条痕調整が認められる。外面の条痕は、細く不揃いな縦位・斜位のものが多いが。口縁部内面では、二枚貝による横位条痕が目立つ(第54図29・30・33～35)。外面に縦位条痕を施した後、口縁部に横位や斜位のナデを施すもの(第55図1・9・10)もある。なお、縦位の羽状条痕を持つ例(第55図27)は、新相を呈する。

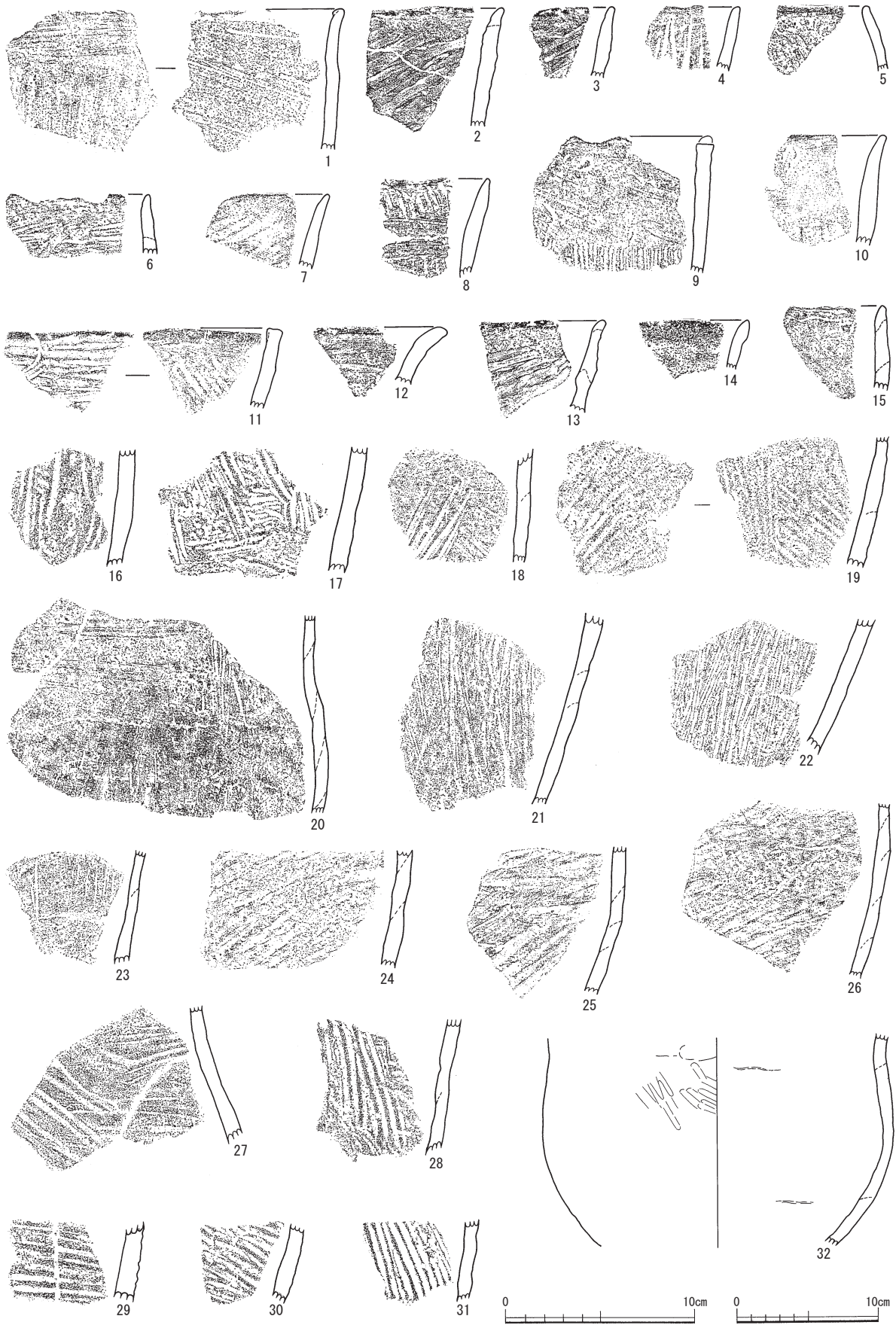
第56図1～6は同一個体とみられる壺形土器である。口縁部に太い突帯を貼り付け、大きな円形の



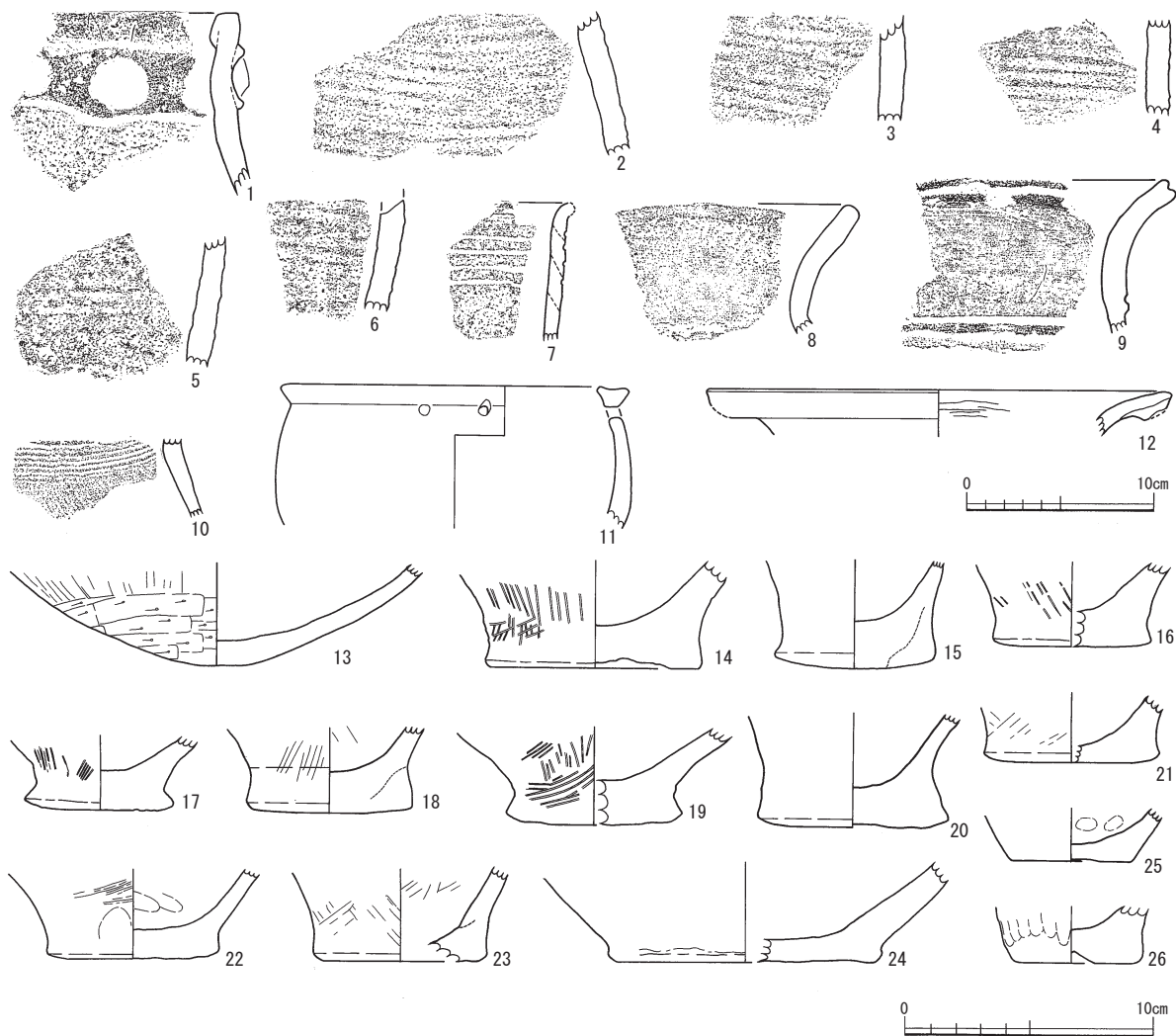
第53図 遺物実測図12 (縮尺 1 : 1/4、2 ~ 44 : 1/3)



第54図 遺物実測図13 (縮尺1/3)



第55図 遺物実測図14 (縮尺 1~31:1/3、32:1/4)



第56図 遺物実測図15 (縮尺 1~11・13~26 : 1/3、12 : 1/4)

押圧を加える。口縁端部は面取りがなされ、胴部には二枚貝による横位条痕が施されている。これらの特徴は東海地方で設定されている檜王式に類似する。第55図11も同類であろう。

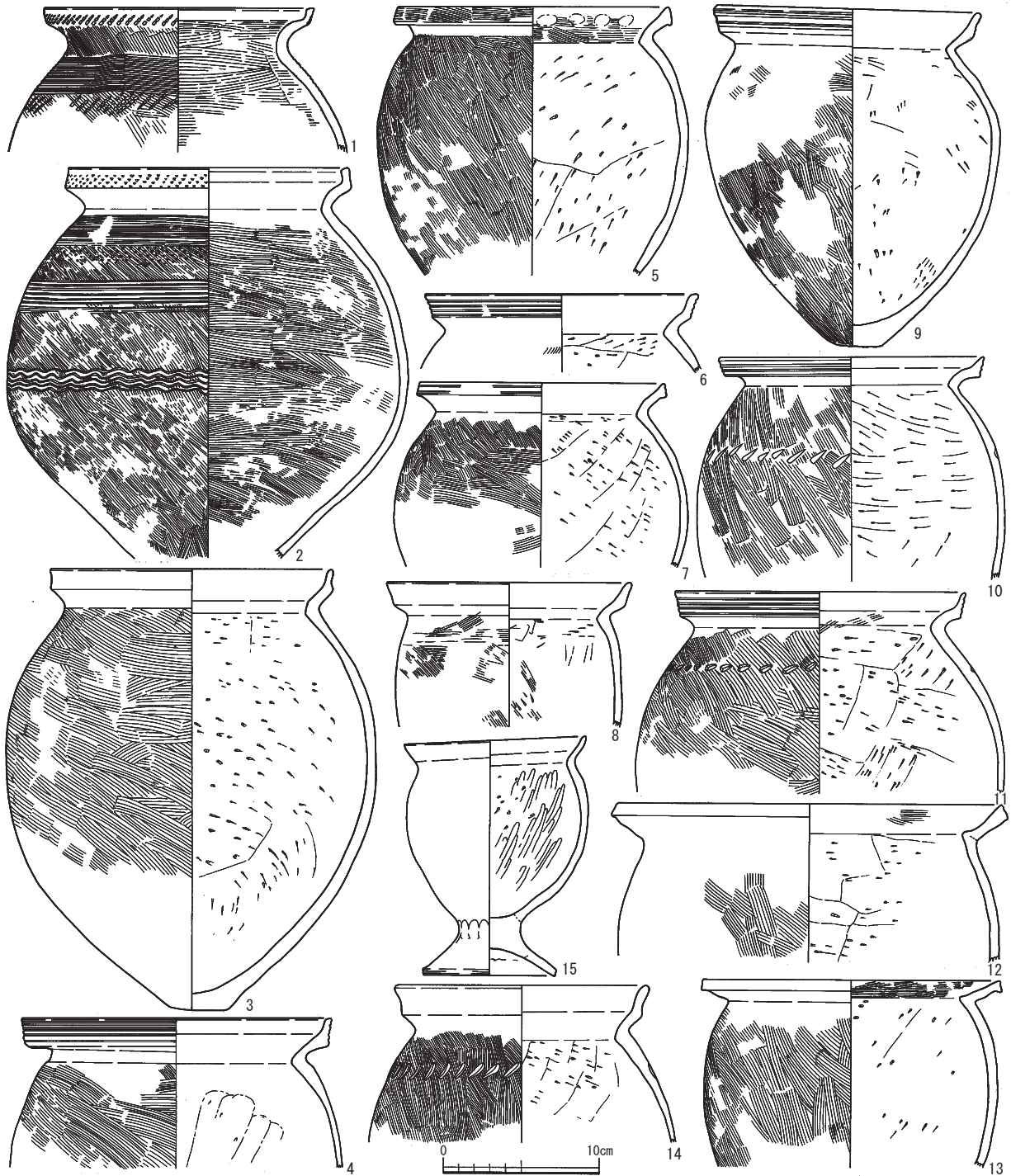
第56図7~12は弥生時代前~中期の遠賀川系および櫛描文系土器である。7は頸部に4条の沈線をめぐらす甕。9は口縁端部に沈線をもつ壺で、頸部は段を形成し、段の上位に沈線を一条めぐらす。

第56図13~26は底部破片である。丸底が1点のみ認められる(13)。底面はケズリ調整であるが、胴部側には縦位条痕が認められる。平底のものにも縦位や斜位の条痕が多く認められる。底側部の突出した例もある(17・19)。

弥生時代後期から古墳時代前期初頭の土器 (第57~63図)

SD 2から出土した弥生土器は、後期が中心である。一部古墳時代前期初頭にまで降る可能性があるものもあるが、それ以降の古墳時代の土器は無いようである。

弥生時代後期の土器については、出土量が大量であるため器形がある程度復元できたものを主体に図化した。内訳は、甕形土器(以下、「甕」と省略)は24点(第57・58図)、壺形土器(以下、「壺」と省略)は41点(第59・60図)、高坏形土器(以下、「高坏」と省略)は27点(第61図、第63図15)、器台形土器(以下、「器台」と省略)は13点(第63図1~8・16~19・21)、台付も含めた鉢形土器(以下、「鉢」と省略)は38点(第62図、第63図9~14)、蓋形土器(以下、「蓋」と省略)は12点(第



第57図 遺物実測図16 (縮尺1/4)

63 図 23 ~ 34)、そして、器種は明確にできなかったが、脚台として2点 (第 63 図 20・22) の合計 157 点について図化した。以下、器種毎に概説する。

①甕 (第 57・58 図)

甕としたものは 22 点 (第 57・58 図) ある。弥生時代後期の若狭湾を中心とする、北陸地方から近畿地方北部にかけての日本海沿岸では、口縁が立ち上がる有段口縁が主体となる。口縁から底部まで復元できた事例から全体の器形を概観すると、器高は口径の 1.2 倍から 1.5 倍程度の倒卵形を呈する。胴部の最大径は中ほどからやや上位に位置し、口径よりも若干大きくなる。底部は自立が何とか可能なほど



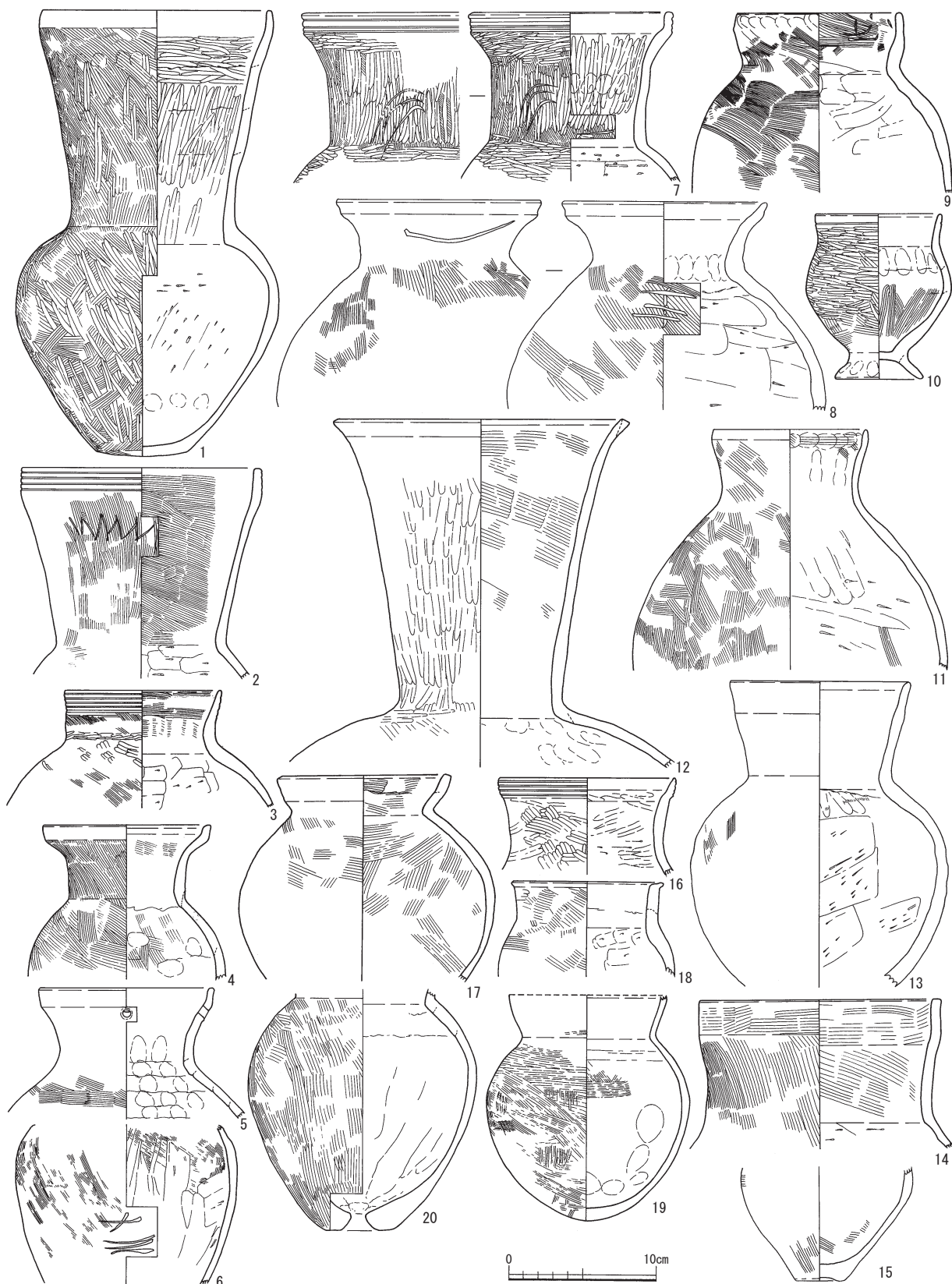
第58図 遺物実測図17 (縮尺1/4)

に胴部に比して小さめである。胴部外面はタテからナナメのハケ調整、内面はケズリ調整が基本である。口縁がまだ立ち上がらずに面だけをつくるもの(第57図7・12・13)から、上端を摘み上げて僅かに立ち上げるもの(第57図10)、そして明確に口縁が有段となるもの(第57図3・4・6・8・9・11・14)まで、有段口縁の変化過程を示している。つまり、有段口縁の形状の違いから、出土土器には時間幅があると考えられる。口縁への施文には擬凹線があるもの(第57図4・6・7・9・10・11)と擬凹線が無くヨコナデ調整で無文のもの(第57図3・8・12・13・14)を基本とするが、1点のみ短い幅でヨコハケをめぐらせるもの(第57図5)がある。無文の口縁では、立ち上がった口縁の中ほどを強く押

さえて口縁を伸ばすのが特徴である。また、図化した以外の有段口縁も、ほとんどが立ち上がった口縁の先端を丸く収めている。北陸地方の弥生時代終末期の標式である月影式は、同じ有段口縁ながらも口縁の先端が外反もしくは先細りする特徴を有しており、本遺跡の特徴とは様相を異にしている。本遺跡のような特徴は西隣の丹後地域の特徴に似ており、このことから越前地域や更に北陸地方全体の影響よりも、丹後地域の影響を受けているものと思われる。口縁以外への施文は胴部上半にヘラ描の刺突列点文をめぐらせるもの（第57図10・11・14）がある。また、有段口縁と同じように口縁部を上へ立ち上げる受口状口縁の甕が2点（第57図1・2）ある。若狭地域の南に接する滋賀県の近江地域で主体となる甕である。口縁部の立ち上った面に刺突列点文をめぐらし、頸部から胴部上半にかけては数段の櫛描直線文と口縁と同様の刺突列点文を加える。底部付近まで復元したもの（第57図2）では、胴部中ほどの最大径の位置に櫛描波状文もめぐらせる。胴部の調整は外面をナナメの、内面はヨコのハケ調整である。本来、北陸地方西端の若狭地域でも、弥生時代後期の口縁の形状は有段口縁が基本となっているが、「く」の字口縁の甕も多く復元できた。口縁の形状を「く」の字として一括りにしてもその形状には大きな変化がある。その最大の特徴である口縁から胴部の間にある頸部の屈曲も、明確に「く」の字に屈曲するもの（第58図1・4・5・7・9）が主体となるが、屈曲がややあまいもの（第58図2・3・8）や、丸い屈曲のもの（第58図6）等がある。また、この屈曲の形状に一部関係するかのよう、口縁の開き具合も小さく垂直に近いもの（第58図1～3・8）がある。更にその口縁部の調整もハケ調整のもの（第58図3・5・7）やヨコナデ調整だけのもの（第58図1）、またはヨコナデ調整かハケ調整のち指で押さえるもの（第58図4・6・9）までである。胴部の調整は9個体のうち、外面はハケ調整、内面はケズリ調整のものが6点（第58図3～7・9）、3点が外面と同じくハケ調整のもの（第58図1・2・8）である。底部は有段口縁と同じ、自立が可能か不可能かのぎりぎりのもの（第58図5・9）が一般的であると考えられているが、安定した平底（第58図4）や、底部に穿孔がある有孔のもの（第58図8）もある。つまり、単純な口縁形状の「く」の字甕でも、器形や調整において差異があり、個体差が認められる。これは越前地域の事例であるが、集落遺跡出土の甕の主体が「く」の字であった鯖江市長泉寺遺跡でも、同様の状況が確認されている。また平底を基本とするが、台付甕も1点復元している（第57図15）。この台付甕は口径が11.7cm、器高も15.4cmと、図化できた甕の中では極端に小さい。口縁の形状も単純な「く」の字ではなく、やや有段口縁を意図したように内湾する。内面の調整もケズリではなくミガキ調整に近い。台付甕そのものが若狭地域はもちろん、北陸地方でも甕では数が少なく、珍しいものである。

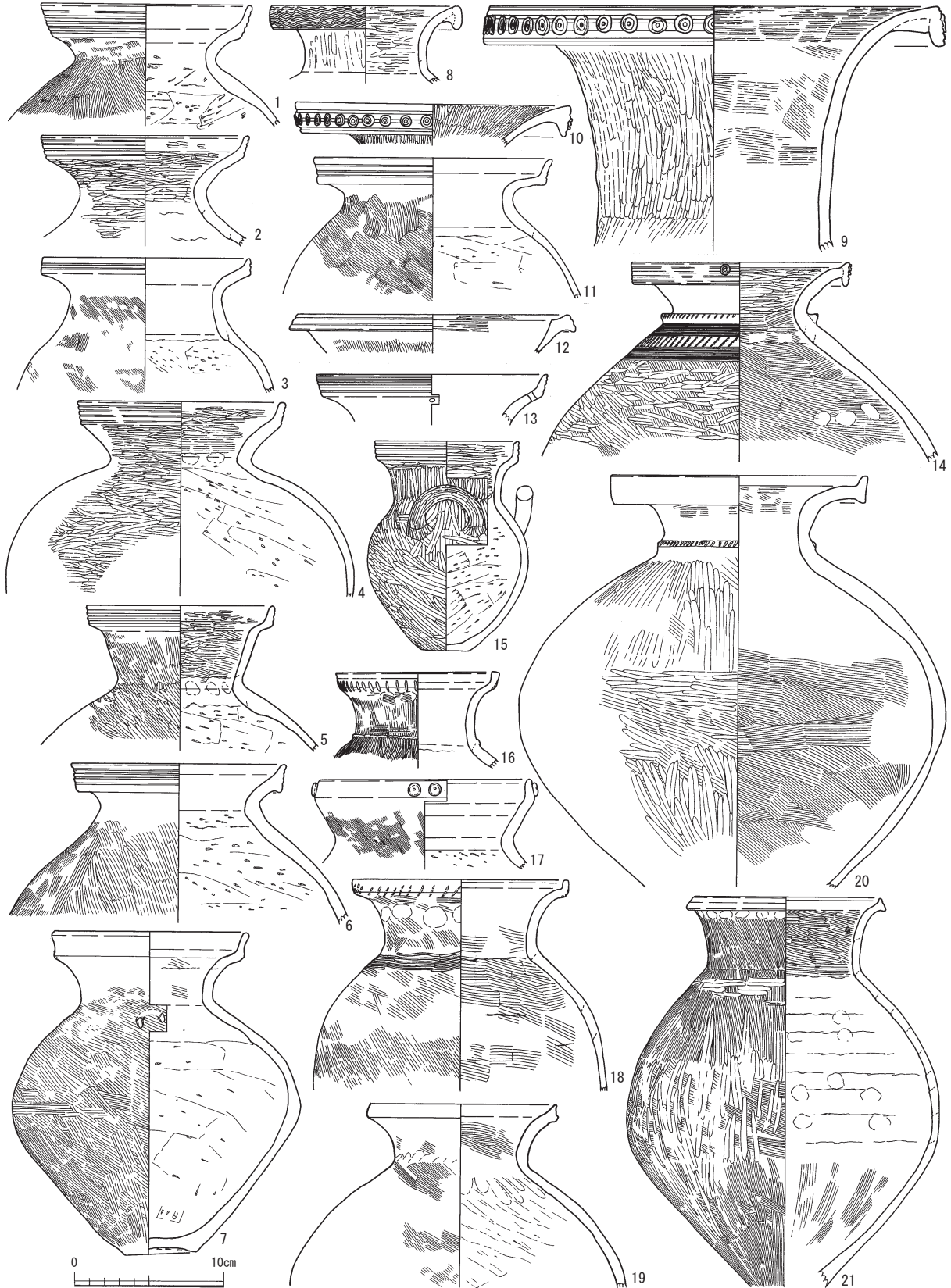
②壺（第59・60図）

壺は、口縁が頸部から直立してそのまま口縁端部となるものと、有段口縁を呈するものの2つのタイプに分類できるが、甕以上に個体差が大きい。前者には頸が長くなる長頸壺と頸部からそのまま口縁端部となる短頸のもの、またその中間的なものがある。短頸の壺は、内湾する口縁をその特徴として具える（第59図9・11）が、直立した口縁端部の上端面を押えて面をつくるもの（第59図18）が1点図化している。長頸でも有段口縁となるもの（第59図4・7・8）は、北陸地方南西部でも越前地域に多く見られる。なお、このうちの2点にはヘラ描の記号文がある。1点は、弧を上にしたヘラ描の3重弧線を頸部の二方向に記すもの（第59図7）である。もう1点は、弧を下にしたヘラ描の弧線を頸部に、その反対の胴部上半に縦位の直線に3本の平行直線を重ねるヘラ描を記すもの（第59図8）である。畿内では有段の口縁ではなく、単純口縁の壺である長頸壺の頸部に記されるものが多いが、北陸地方では



第59図 遺物実測図18 (縮尺1/4)

有段口縁となるものによく見られる。また口縁の有段が明確ではなく、有段口縁の特徴である擬凹線を施文するだけのもの (第59図2・3・16) や、小さく立ち上げて無文のもの (第59図4・5・8・14)、



第60図 遺物実測図19 (縮尺1/4)

口縁部のヨコナデ調整で小さな屈曲の面をつくるもの (第59図1・9・11・13) がある。これらの壺は胴部が図化したものから判断すると、長胴となるもの (第59図6・15・20) が多い。また、胴部下半に

3本の横位のへら描が並ぶもの(第59図6)もある。底部は、穿孔があるもの(第59図20)は例外と考えられるが、基本的には小さいながらも平底になるもの(第59図15)と考えられる。

短頸の壺に脚台が付くもの(第59図10)は、他の壺より小さく、胴部外面をヨコミガキとするもので、こちらも珍しいタイプであろう。

有段口縁としたものは頸部の長さは様々であるが、屈曲は明瞭である。有段口縁にも擬凹線のあるもの(第60図1～6・11～15)と、無文のもの(第60図7・20)、小さくつまみ上げた無文の有段口縁に2個1対の円形浮文を四方向に貼り付けるもの(第60図17)がある。無文の有段口縁は中型であり、頸部に小さな盛り上がりの突帯をめぐらせる(第60図20)。このなかには口縁部の立ち上がりに孔をあけ、蓋とセットになると思われるもの(第60図13)や、胴部上半に把手を横位につけるもの(第60図15)もある。また有段口縁であるが、口縁端部に平坦面をつくるもの(第60図16・18)は、近江地域の受口状口縁の影響で、立ち上がる口縁の下端に櫛描やへら描の刺突列点文を加える。2点とも頸部に櫛描直線文をめぐらせ、受口状口縁の甕に類似する。明確な有段口縁にはならないで、口縁端部を僅かに上下に拡張するものも2点ある(第60図19・21)。

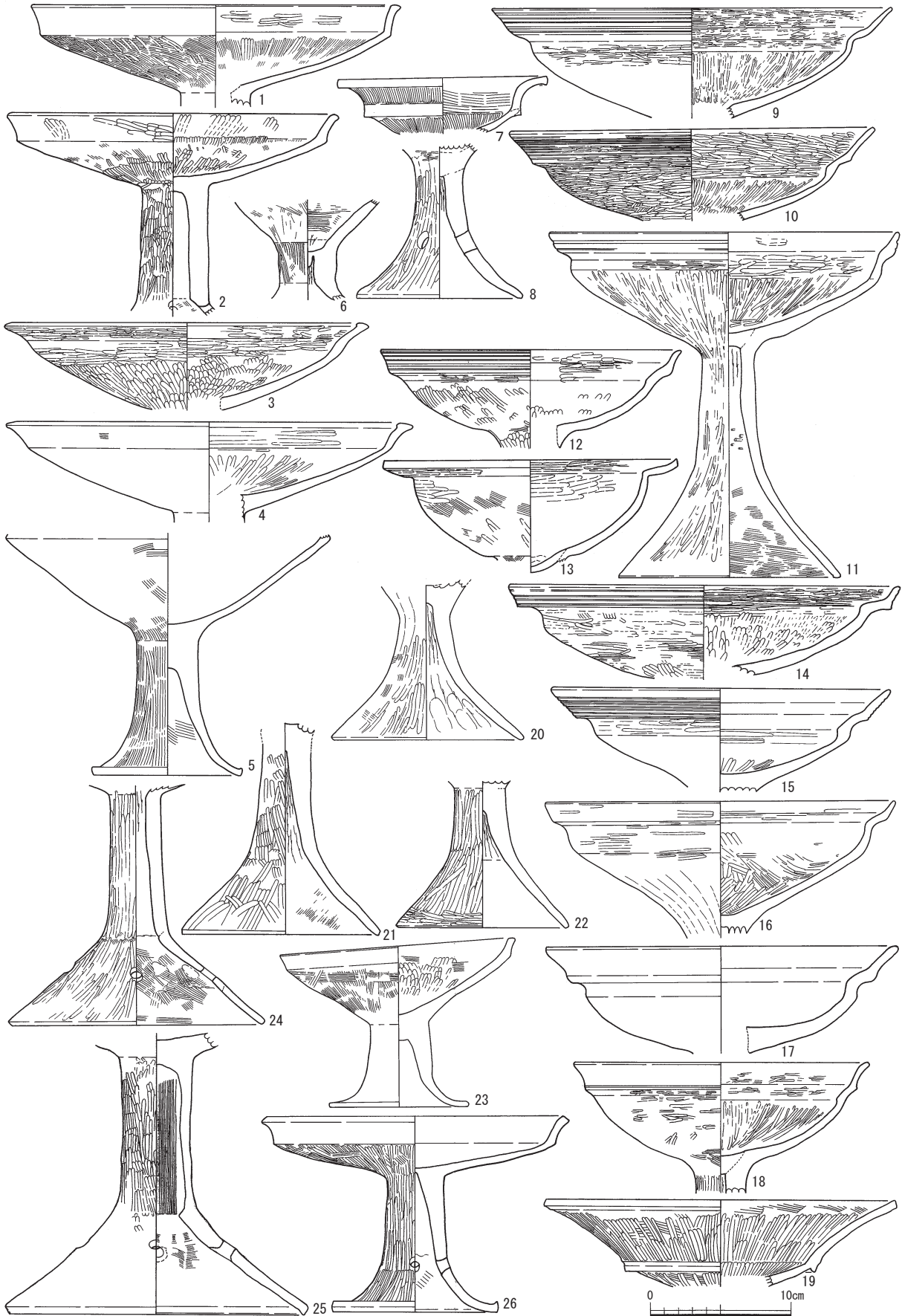
頸部が長く伸びる大型のもの(第60図9)は垂下する口縁に擬凹線をめぐらせ、円形浮文を全面に貼り付ける。この大型の壺は胎土が他の土器と明らかに異なり、大阪府の生駒山西麓産のものと考えられる。大型の壺には、前者のように口縁が垂下しないで、そのまま小さく開いて口縁端部となるもの(第59図12)もある。残存する部位から判断して、最大径が胴部上半になると思われる。

口径がやや小さい同じような口縁には、円形浮文を全面に貼り付けるもの(第60図10)や、櫛描波状文をめぐらせるもの(第60図8)もある。口縁を垂下するが頸部が長くないもの(第60図14)はその垂下させた口縁に擬凹線を施し、一部に円形浮文を貼り付ける。頸部に刻みを加えた突帯をめぐらせ、その下に櫛描直線文、櫛描刺突列点文、更に櫛描直線文と密に施文する。東海地方から近江地域に類例の多いタイプの壺である。長胴の胴部が主体となるなかで、底部は無いが丸い胴部から屈曲した頸部がすぐに屈曲して内湾する口縁部となる壺(第59図17)と、丸底のもの(第59図19)は、その特徴から弥生時代に属するものではなく、古墳時代にまで下る可能性が高い。

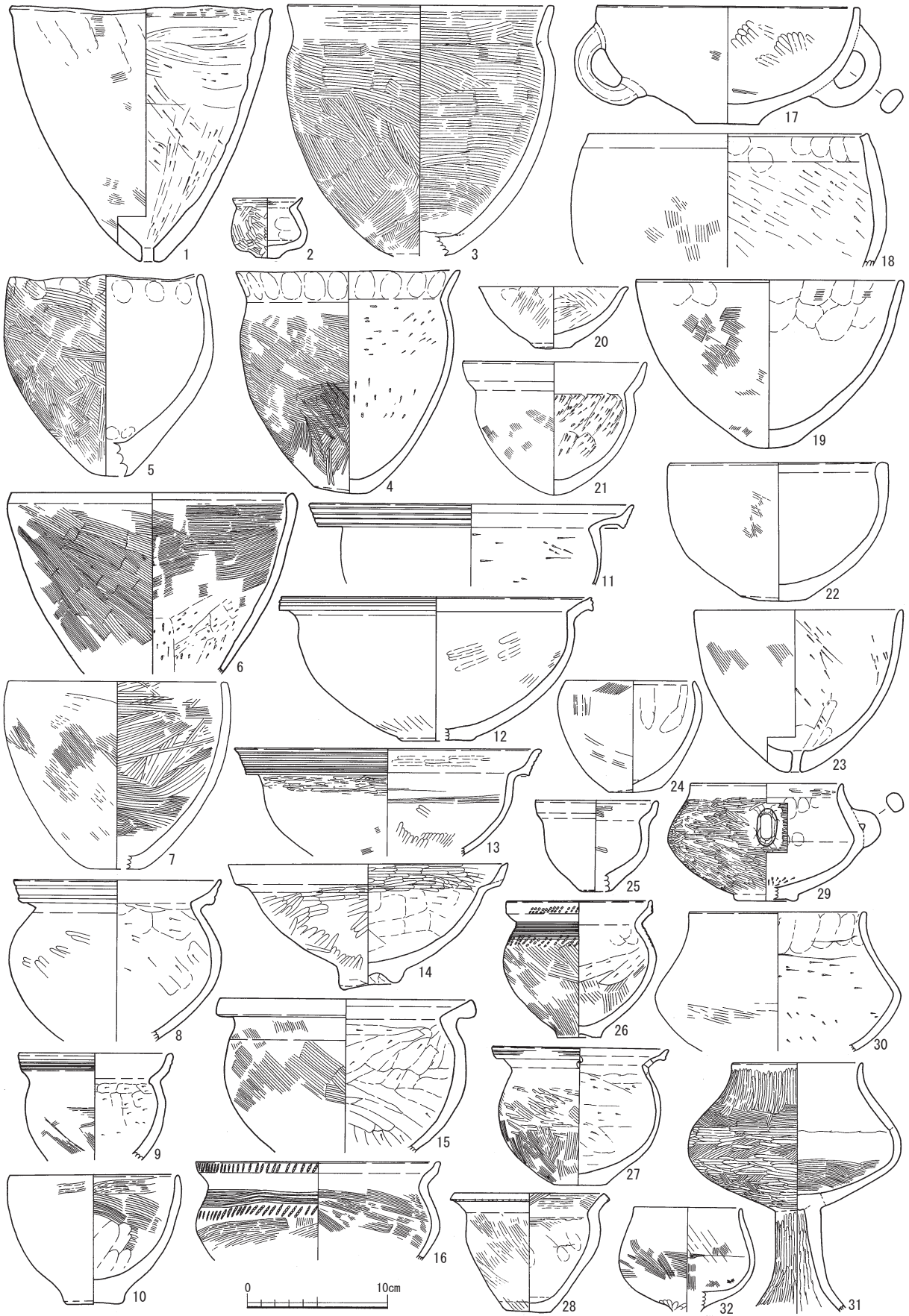
有段口縁の更に内側に平坦面のあるもの(第60図12)は、このような口縁の形状の壺は無く、有段口縁でも鉢となる可能性がある。

③高坏(第61図、第63図15)

高坏は坏部の口縁が直線的に立ち上がるものと、有段口縁となるものの、大きく2種類である。口縁がより直立に近く立ち上がるもの(第61図1・2・23・26)は、口縁端部に平坦面をつくる。外に開くものは、口縁端部の内面が肥厚するもの(第61図3)と、内外両面に肥厚するもの(第61図4)がある。有段口縁には甕・壺・鉢と同じく擬凹線のある有文のもの(第61図9～12・14・15)と、無文のもの(第61図16～18)、更に同じ坏部の形状で口縁が有段にならずに外に開くもの(第61図13)の3つに分類できる。口径が15cmと小さいが、高坏と考えられるもの(第61図7)、坏部の立ち上がりに突帯をめぐらし、口縁が大きく開くもの(第61図19)等は1点ずつ図化できた。高坏の脚は、棒状に伸びた脚がそのまま「ハ」の字に外反するもの(第61図5・8・11・20～26)ばかりで、有段になるものは図化できなかった。ただし、脚の開きが大きいもの(第61図11・20～22・24・25)、太い棒状から小さく開くもの(第61図23)、開いた脚端部が上へ小さくはねて面をつくるもの(第61図26)等、脚部の形状に幾つか変化がある。残存状況が異なるので全てで確認できていないが、脚には円形の孔が



第61図 遺物実測図20 (縮尺1/4)



第62図 遺物実測図21 (縮尺1/4)

あるのが一般的で、確認できたものは四方向のもの（第61図24～26）が多く、三方向のものは1点である（第61図8）。最も出土の多い中型の高坏の孔があく位置は越前地域の高坏と比べると、より下に位置するきらいがある。越前地域では棒状の脚から端部へ開く屈曲部付近に設けるものが多いが、若狭地域の事例は屈曲部より下の位置に設けるものが多い（第61図24・25）。また、脚の棒状の長さも越前地域よりはやや長めで器高が高くなる。小型の高坏（第63図15）は、台付鉢にも似るが、脚が長く伸びることから高坏とした。鉢と同じように椀状の坏部を呈する。

④器台（第63図1～8・16～19・21）

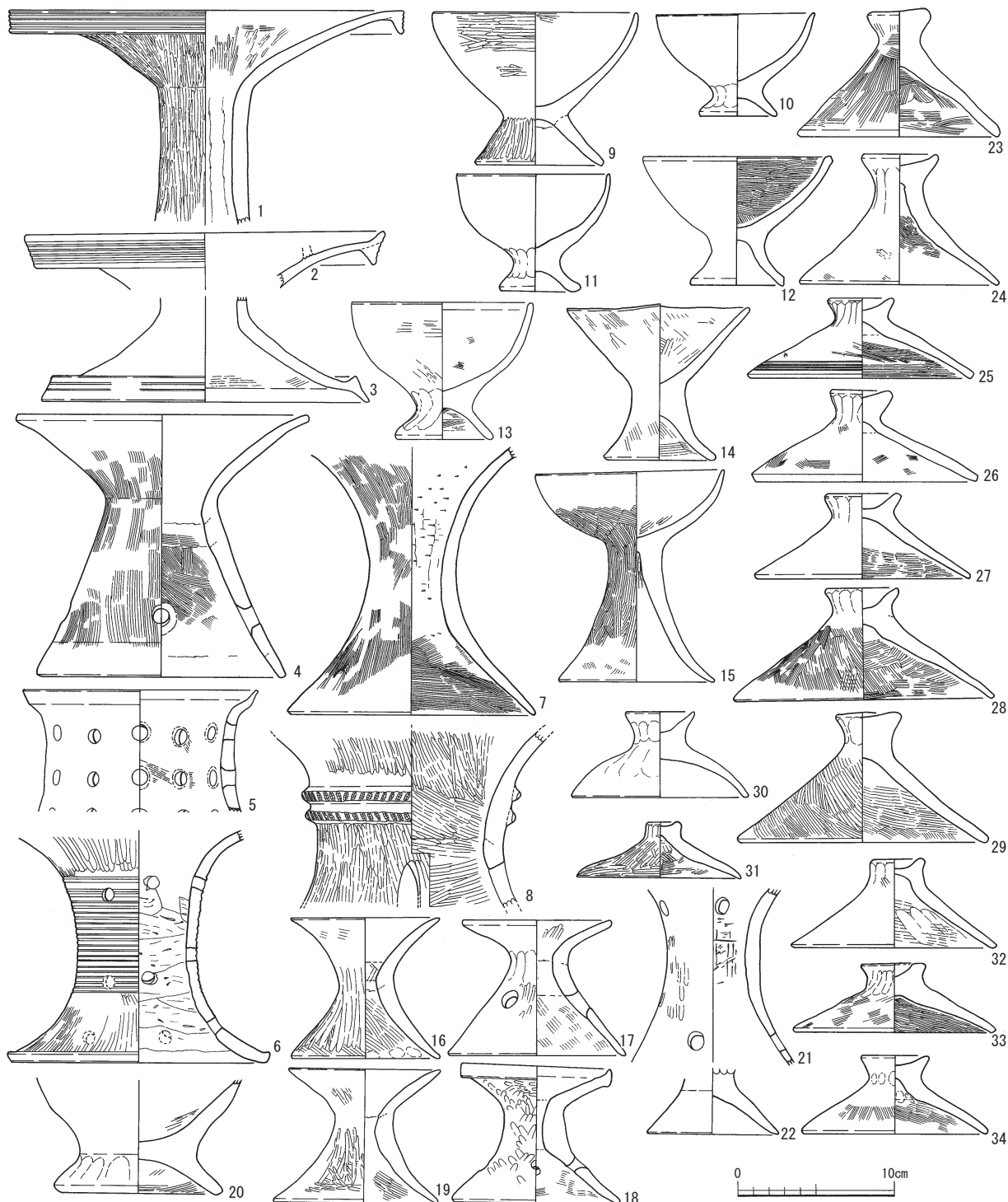
器台は口縁帯の有段になるか、垂下するものが一般的な器形と考えられているが、前者は脚となる部分が、後者についても受け部のみで完形に復元したものはない。受け部は大きく開いた口縁端部が垂下するもの（第63図1）と、有段となった口縁部に垂下する部分を加えてより口縁帯を幅広くしたもの（第63図2）の2点のみで、口縁帯に擬凹線を施文する。ただし後者には受け部の内面中央に粘土の剥離の痕跡があり、装飾器台となる。その脚の部分と考えられるもの（第63図3）は、脚裾の有段にも擬凹線が施文される。器台で唯一完形に図化できたもの（第63図4）は、大きく開いた口縁が有段にも垂下もせずそのまま端部となるもので、受け部との境となる屈曲部も大きく、脚部もそこから脚端部へと直線的に伸びる。同じように脚が有段とならないで、筒部以下が復元したもの（第63図7）は、これまでの事例から、受け部が有段になるものと推定される。太い筒部に20条以上のヘラ描直線文をめぐらすもの（第63図6）も、受け部の口縁部を欠く。その太い筒部の上下に2段、脚部に1段の円孔を入れる。受け部も脚部もなく、その間の筒部のみの復元が2点ある。1点はその上下に入れ子状に円孔があるもの（第63図21）で、脚部は有段とならないが、受け部は有段になると思われる。もう1点は、器台ではなく他の器種となる可能性もあるもの（第63図8）で、刺突列点文による刻みを加えた2条の突帯の下に、縦長の楕円形の透かしの一部が残る。小型の器台は4点復元している。上下が同じように開くもの（第63図16・19）、脚部より受け部が小さくなるもの（第63図17）、受け部の口縁端部を小さく立ち上げ面をつくるもの（第63図18）がある。

器台でも、北陸地方から近畿地方北部の日本海側に特有な装飾器台の受け部の口縁部がある（第63図5）。立ち上がりに径1.0cm弱の円孔を3段にめぐらせる。

⑤鉢（第62図、第63図9～14）

鉢は底部からそのまま立ち上がり口縁となる砲弾型の器形の直口鉢と、有段口縁が主体である。直口鉢は、底部を穿孔した有孔鉢とも呼ばれるものが越前地域等の事例では鉢の基本器種であると考えられるが、明らかに底部に孔が残るのは2点（第62図1・23）しか図化できなかった。その他は底部を欠損するもの（第62図3・5・6・7）、小さいながらも平底を呈するもの（第62図4・10・22・24）である。同じような直口鉢の器形がある越前地域では、口縁部に面取り等がなされないために平滑にならず、「雑なつくり」であるもの（第62図1・5）が多いとの認識がある。今回図化したものには口縁を僅かではあるが屈曲させたり（第62図3・4）、指押さえ等で整えたりするもの（第62図18・19）があり、直口鉢として「雑なつくり」として定型化していないものである。このような状況は曾根田遺跡県道調査区で先に報告した鉢でも同じで、若狭地域では孔をあけない鉢が主体であり、直口の有孔鉢が定型化していない丹後地域の様相に近い可能性がある。

口縁が直口ではなく有段等立ち上がるものは、有段口縁で擬凹線を施文するものと、無文のもの、または有段口縁とは呼ばずに受口状口縁と呼ぶべきものがあり、甕と同じ分類となる。口縁の立ち上がり



第63図 遺物実測図22 (縮尺1/4)

が無いもの (第 62 図 12・15・28) は端部に平坦面つくり、立ち上がりの屈曲が明瞭なもの (第 62 図 8・11・13・27) には擬凹線が施文されるものが多い。立ち上がりの屈曲が明瞭では無いものには、比較的小型の 3 点 (第 62 図 9・21・25) がある。受口状口縁を呈するもの (第 62 図 16・26) は、口縁に櫛描刺突列点文、頸部から胴部上半に櫛描直線文・櫛描刺突列点文を施しており、甕の施文と同じとなる。ここでは鉢として分類したが、ミガキ調整を基本とし、口縁がすぼまる無頸壺とも呼べる個体がある。これには台が付くもの (第 62 図 31・32) と平底のもの (第 62 図 29) がある。把手が付くものはタテに

つく(第62図29)。また、これとは異なるが、完全に口縁が開いた鉢にも大きな把手がつくものもある(第62図17)。また有段の頸部に孔があり、蓋が付くと判断されるもの(第63図27)や、このタイプのミニチュアと考えられるもの(第62図2)もある。

鉢でも台付鉢となるものは6点が完形に図化した。いずれも椀状の坏部に脚台がつくもの(第63図9～13)と、坏部が椀状ではなく直線に開くもの(第63図14)の2タイプがある。脚との接合に明瞭な指押さえを残すものが3点ある(第63図10・11・13)。小さな脚(第63図22)も、台付鉢の脚の可能性はある。また脚の大きさ等が異なるが、やや大型となる脚台と想定されるもの(第63図20)も、台付鉢と考えられる。

⑥蓋(第63図23～34)

蓋はつまみの部分も指押さえを残す等、飾りのないものである。「ハ」の字に覆い部分が開く形を基本とする(第63図23～29・31～34)が、台付鉢を反転させた椀状の覆いとなるものが1点(第63図30)ある。

須恵器(第64～66図)

坏蓋は8点(第64図1～5、第65図1・2・4)、杯身は23点(第64図6～11・24～33・50～53、第65図3・7・11)、椀は20点(第64図34～41・44～49・54～57、第65図6・9)、皿は26点(第64図12～23・42・43、第65図5・8・10・12)、壺・瓶類は7点(第66図4～6・8・10～12)、甕は3点(第66図1～3)に、甗・高坏・刻書土器の各1点(第65図13、第66図7・9)ずつ、合計82点を図化した。以下、器種毎に概説するが、墨書土器等については改めてに一項設けて説明する。

①坏蓋(第64図1～5、第65図1・2・4)

坏蓋は、全体に器高の低い扁平なものが多い。つまみのあるものは2点(第64図1・2)で、明らかにつまみがないものが3点(第64図4、第65図1・2)である。

②無台坏(第64図6～11・24・25)

底部が平坦で安定したもの(第64図9・10)と、やや丸い不安定なもの(第64図6～8)の5点である。また凹凸が若干あるが、安定した平底で丁寧なヨコナデ調整で口縁を立ち上げる1点だけ形が異なるもの(第64図11)がある。

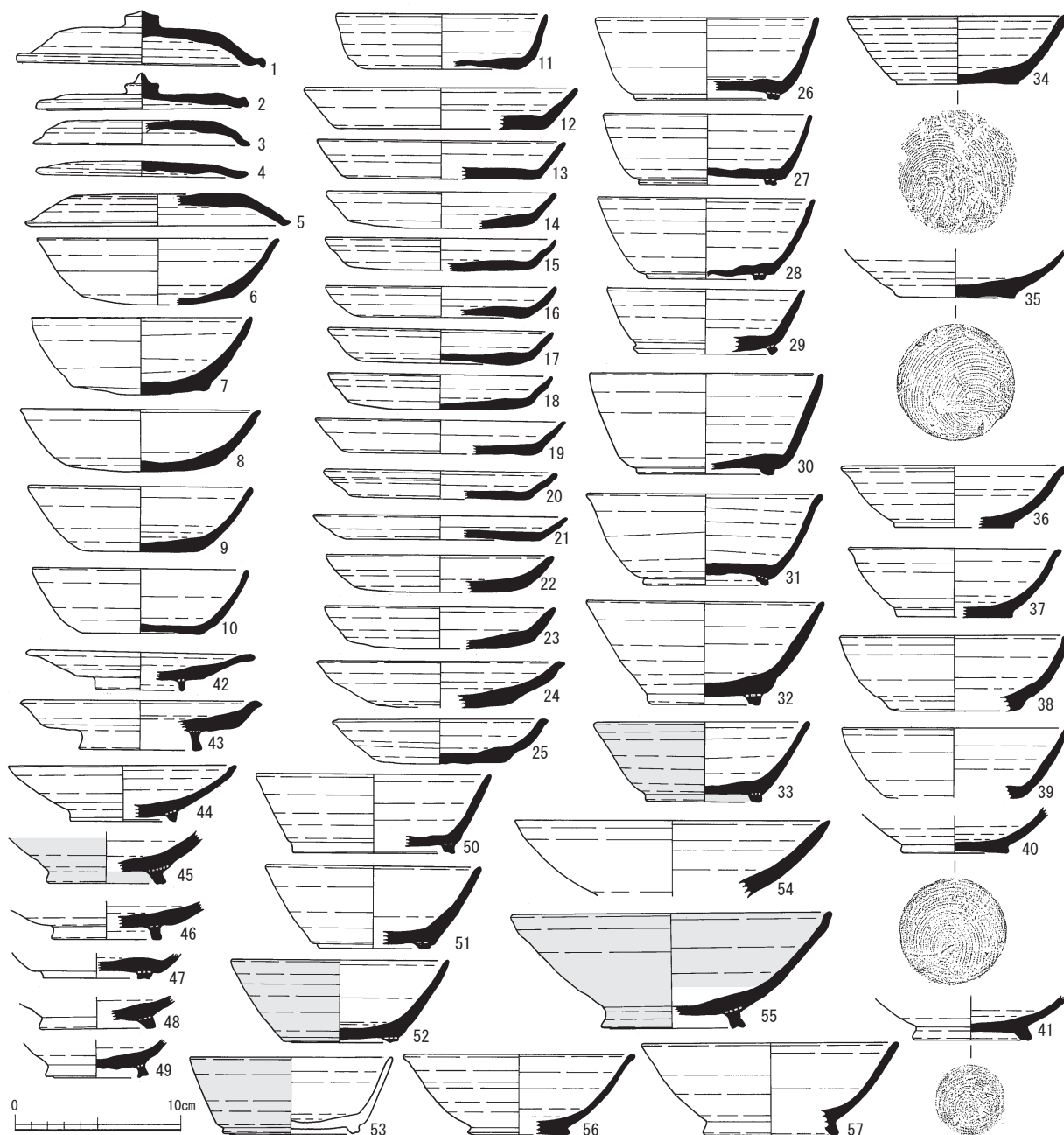
また、皿の形状に近いもの(第64図24・25)も、平底の底部からの立ち上がりが短いものの、皿に分類する口縁とは異なるのでここに分類した。

③有台坏(第64図26～33・50～53、第65図3・7・11)

底部から横に伸びてから口縁へ直線的に立ち上がるもの(第64図26～31)と、横に伸びないでそのまま椀のように「ハ」の字状に開く口縁となるもの(第64図32・33・50～53、第65図3・7)がある。後者は、この後に説明する高台が付く椀との違いを明瞭にできないが、口径が高台付椀より小さく、明らかに無台坏に分類されるものの口径に近いので、ここに含めた。この中で1点だけ、焼成が不良で土師器のような軟質の胎土のもの(第64図53)がある。

④椀(第64図34～41・44～49・54～57、第65図6・9)

椀は、貼り付けの高台を持つもの(第64図54・55、第65図6・9)と、糸切りの平たいベタ高台のもの(第64図34～37・40・56・57)があり、前者の高台が付く椀が、後者の糸切りの高台の椀より口径が大きいものが多い。また、浅い皿のような坏部のもの(第64図44～49)がある。なお、糸切りの底部に高台を貼り付けるもの(第64図41)が1点だけある。



第64図 遺物実測図23 (縮尺1/4)

⑤皿 (第64図12～23・42・43、第65図5・8・10・12)

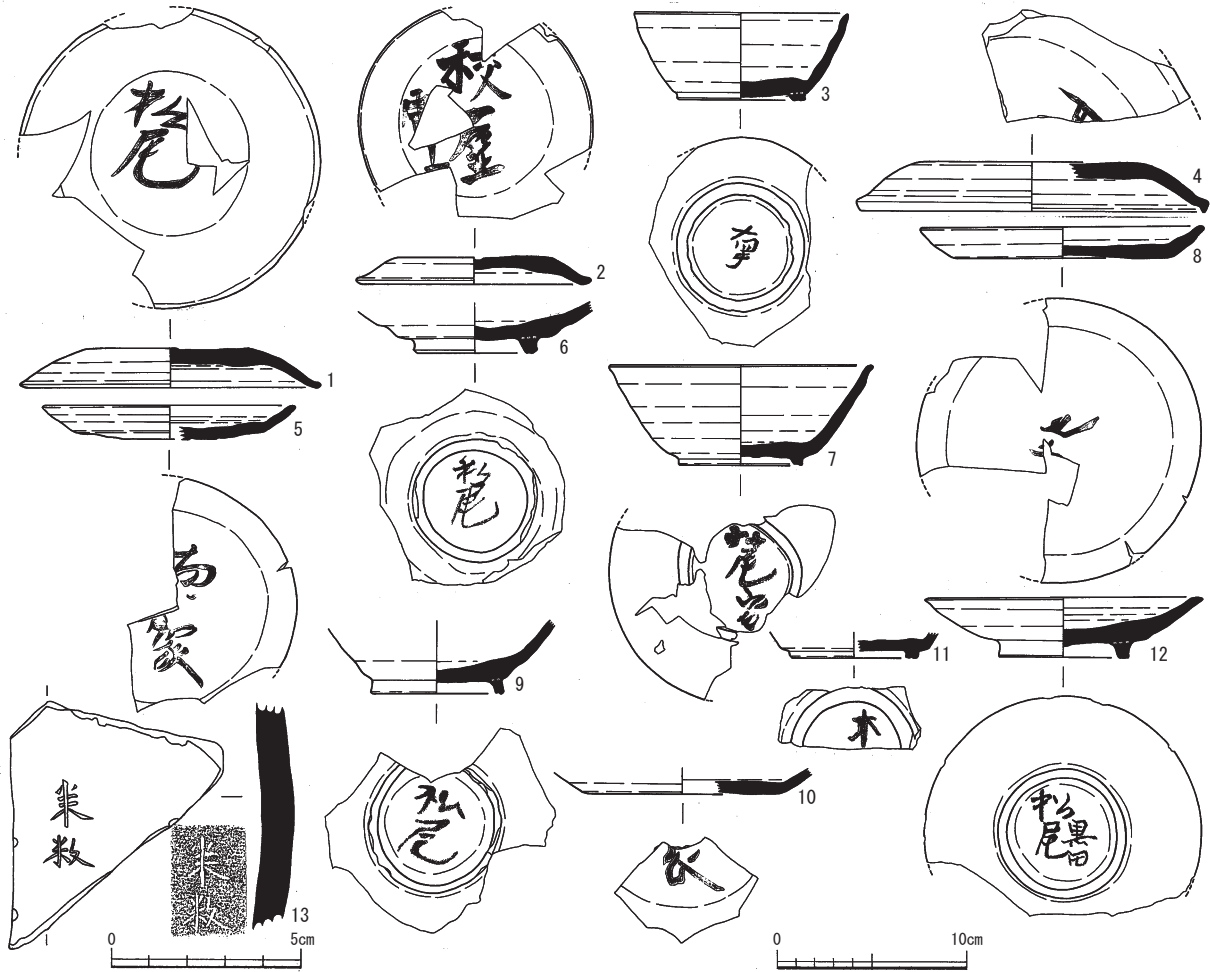
平たい底部から口縁が「ハ」の字に開く扁平なもの(第64図12～23、第65図5・8・10)が主体となり、これに高台が付くもの(第64図42・43、第65図12)が3点ある。

⑥壺・瓶 (第66図4～6・8・10～12)

壺・瓶として図化できたのは、口縁が3点(第66図4・5・6)、胴部以下の底部を中心とする部分が3点(第66図10・11・12)である。瓶の耳の部分で図化できたもの(第66図8)は、耳の部分そのものが大きく、ここで図化した瓶等の個体とは異なる。

⑦甕 (第66図1～3)

甕は大型の口径で沈線の間には楡描波状文のあるもの(第66図3)と、文様のないもの(第66図1・2)



第65図 遺物実測図24 (縮尺 1~12:1/4、13:1/2)

が2点である。

⑧高坏 (第66図9)

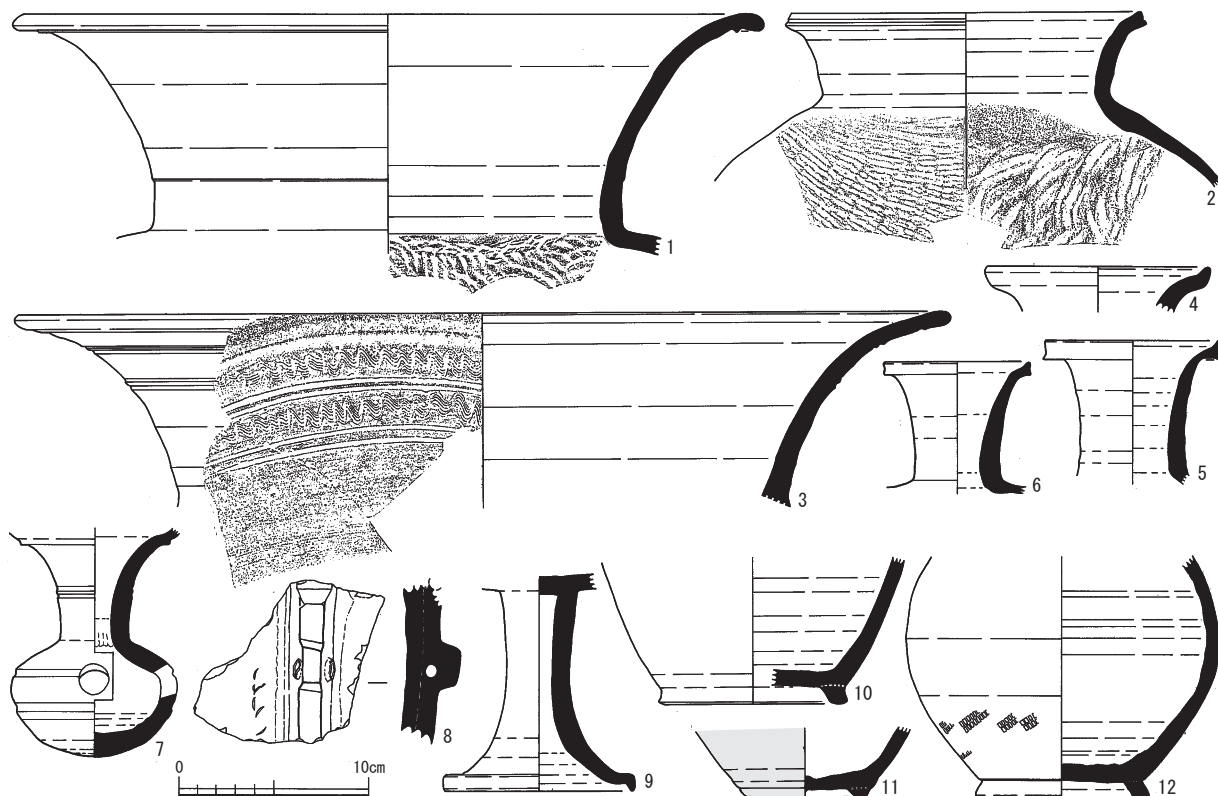
高坏の脚 (第66図9) を1点図化した。長く伸びる脚部であり、SD 2出土須恵器の主体となる9世紀代に見られる「高盤」として分類されるものではないだろうか。

⑨その他 (第66図7)

口縁の一部を欠く甕 (第66図7) は、主体となる須恵器とは時期が合わない。周囲からの紛れ込みであろう。SD 1から出土している甕よりやや古い時期のものである。

⑩墨書土器・刻書土器 (第65図1~13)

墨書土器は須恵器全体の点数からするとやや多い12点 (第65図1~12) が図化できた。その器種と墨書の部位は、坏蓋の外表面3点 (第65図1・2・4)、有台坏の底部外面の高台内3点 (第65図3・7・11)、碗の底部外面の高台内2点 (第65図6・9)、皿の底部外面3点 (第65図5・8・10)、高台が付く皿の高台内1点 (第65図12) の合計12点である。杯身・碗の高台内に「松尾」の墨書されたものが2点 (第65図6・9)、坏蓋の外表面には1点 (第65図1)、「松尾口」と1字加えたものが1点 (第65図7)、「松尾」と「黒田」を併記したものが1点 (第65図12) と、「松尾」の墨書が半数近くを占める。他には「口家」 (第65図5) や「木」 (第65図11)、「衣」 (第65図10)、「口屋」・「唐口」を併記したもの (第65図2) 等もある。字句が不明なものが3点 (第65図3・4・8) ある。なお、ここで坏蓋



第66図 遺物実測図25 (縮尺1/4)

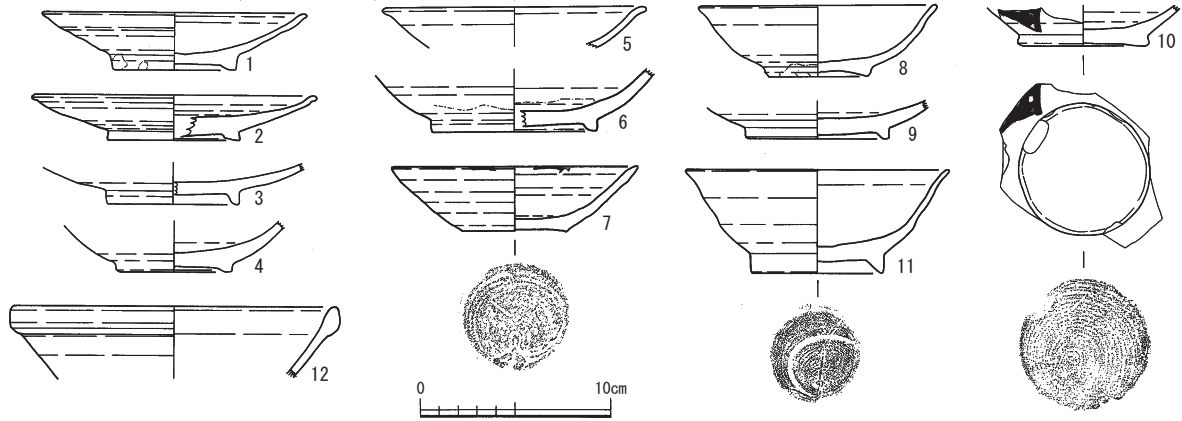
とした3点は、口縁への立ち上がりが非常に緩く、口縁が大きく開くもので、皿である可能性もある。しかし、墨書土器以外の明らかに皿に分類できるものとは口縁の形状が異なるため、坏蓋に分類した。この他に墨書土器ではなく、「口数」のヘラ描の刻書もある(第65図13)が、坏身や坏蓋等とは異なり、明らかに器壁の厚いものである。破片も刻書の周辺のみで器種等は特定できない。

施釉陶器(第67図1~6・8・9・11)

緑釉陶器を7点、灰釉陶器を2点の合計9点(第67図1~6・8・9・11)を図化した。なお、第67図11は表土から出土したものでSD2とは直接係わらないが、他の施釉陶器との比較・検討のため、敢えてここに提示した。

緑釉陶器では高台が付く皿(第67図1~5)と椀(第67図6・8)がある。皿も椀も内湾気味に口縁へと立ち上がり、口縁部は小さく外反する。胎土が非常に堅緻で青味のある色調のものは皿(第67図1)と椀(第67図8)に1点ずつあり、緑釉の発色もやや灰色がかかった深い緑色を呈している。施釉の残りも良い。これに対して、胎土が先のものより全体的に軟質なものは皿(第67図2~5)と椀(第67図6)があり、緑釉の発色が明るいもの(第67図2・5)と、発色がくすむもの(第67図3・4・6)とに分かれる。施釉の残りはあまりよくなく、剥落している部分がある。高台は削り出しを基本とするが、1点だけ貼り付け高台の可能性のあるもの(第67図3)がある。このような特徴から、軟質な胎土のものは隣接する近江地域で生産されたもの、堅緻な胎土のものは丹波篠窯か東海産と考えられるが、地理的な条件から前者の占める割合が高いと考えられる。

灰釉陶器は、底部の高台部分から横へ大きく開くと考えられる皿(第67図9)と、高台部分から丸く内湾しながら口縁となる椀(第67図11)のそれぞれ1点ずつである。前者の高台は削り出しで、後者は底部を回転糸切りののちに高台を貼り付ける。前者には施釉部分が見られないが、須恵器の調整・



第67図 遺物実測図26 (縮尺1/4)

胎土には類似せず、施釉陶器に近く、非常に堅緻な胎土であることから、灰釉陶器と判断した。また、後者は施釉陶器特有の薄手のつくりではなく、厚くて重いつくりである。高台の貼り付けも、その痕跡を残す部分がある等、雑なつくりであり、施釉もほとんどが剥がれている。持った実感も灰釉陶器としては非常に重く感じる。更に高台の断面形が接地面を先端とする三角形を呈しており、初期の山茶碗を想起させる特徴を持つ。しかし、山茶碗は灰釉陶器の系譜から出現したとされる現段階の理解のなかでは、その区分については明確にできないし、若狭地域周辺での出土事例もない。類例を重視すると11を山茶碗と特定することはできないと考えたが、その可能性を否定することはできない。2点とも、同じ福井県でも越前地域で出土する東海地方で生産された灰釉陶器とは明らかに異なるものではある。現段階では後者が灰釉陶器か山茶碗であるかの問題も含めて、ここで灰釉陶器とした2点については産地の推定ができないとしておく。

貿易陶磁器 (第67図12)

貿易陶磁器として白磁の椀(第67図12)が1点ある。底部を欠き、口縁部付近のみである。口縁が玉縁状を呈する特徴から、大宰府出土の白磁椀IV類に相当する。

土師器 (第67図7・10)

土師器は、糸切り底の椀(第67図7・10)2点を図化した。完形に図化したもの(第67図7)は、糸切りされた平底の底部から立ち上がって口縁部となる。厚みのある底部のもの(第67図10)は、一度立ち上がった底部から口縁へ立ち上がる。体部に墨書が確認できるが、判読できるほど体部は残っていない。ちなみにこの土器のみ胎土が堅緻で、色調が須恵器特有の灰色を呈しており、底部には糸切りの痕跡を残す。10世紀前後に土師器ではあるが須恵器に近い胎土のものに、よく墨書土器が見られることから、ここでは10を焼成状態が非常に良好な土師器の椀であると判断した。

なお、第67図7は表土からの出土であるが、比較・検討のため、ここに提示した。

石器 (第68～70図)

スクレイパー類4点、二次加工のある剥片1点、打製石斧3点、磨製石斧1点、磨石類11点、石皿類2点、砥石3点、石製品2点が出土した。下層・最下層出土として取り上げたものが多い。出土土器から縄文時代晩期から弥生時代後期の所産と考えられるが、個々の時期比定は困難である。

第68図1・3～5はスクレイパー類である。1は扇形を呈す板状剥片の一側縁を刃部とし、刃部を除く周縁に礫面を残す。刃部は両面調整で、角度のない鋭利な刃縁を作出している。3は明瞭な刃部加工

第1節 遺構出土遺物



第68図 遺物実測図27 (縮尺1/3)



第69図 遺物実測図28 (縮尺1/4)

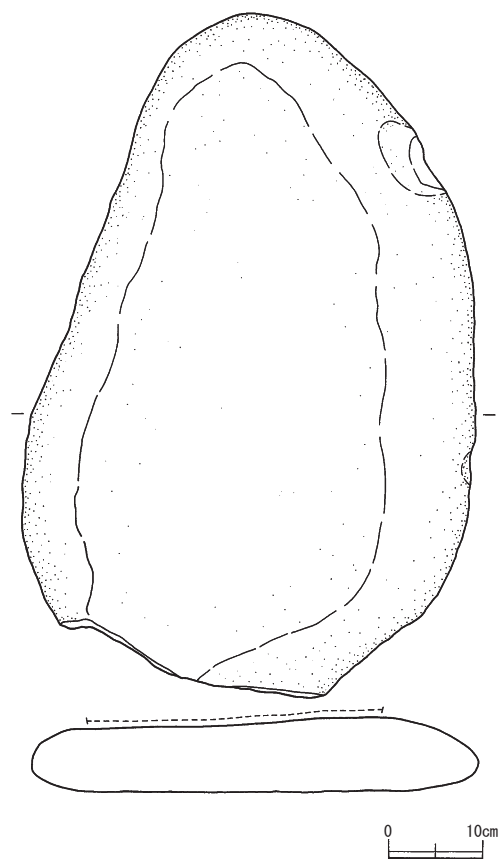
は認められないが、鋭利な縁辺部に刃こぼれ様の剥離痕を観察できる。礫面を広く残す背面は摩耗しており、使用による手ズレ痕と考えられる。4は片面に礫面を残す薄い板状剥片を素材とし、素材剥片の打面側を片面調整により直線的な刃部としている。5は棒状円礫から剥離した板状剥片を素材とする。略長方形を呈し、長辺の一方に礫面を残す。刃部はもう片方の長辺に設け、やや内湾する。第68図2は二次加工のある剥片とした。大形の板状剥片の周縁に、粗い二次加工が認められる。第68図6～8は打製石斧である。いずれも短冊形の範疇で捉えられる。6は円礫の表面から剥離した肉厚の剥片を素材とし、片面に広く礫面を残す。刃部再生を行っているようであり、偏刃をなす。7は節理の発達した石材から得た板状剥片を素材とする。両側辺は垂直方向の打撃によって内湾させている。8は全体的に風化が著しい。第68図9は磨製石斧の基部と考えられる。片主面が平坦面をなす。第68図10は石剣の未成品と考えられる。第68図11は石刀もしくは石剣であり、一端を欠いている。第69図1～12は磨石類である。1・2は扁平な円礫を利用したもので、両主面中央部には敲打の集中による凹みを形成する。敲打痕は周縁にも認められ、2ではほぼ全周にわたって平坦面を形成する。1・2ともに両主面の凹みを取り巻く磨痕を持つ。3は断面が略三角形をなす棒状礫を利用したものの。主面では敲打痕が長軸方向に帯状をなし、凹みも形成する。敲打痕は側辺にも認められ、一部には磨痕も有する。4～12は敲打痕のみ認められるもの。8は多面体を呈し、各面に敲打痕を有す。磨痕は明らかでないが、平坦面は磨っている可能性が高い。11は断面が略方形を呈し、各面に敲打痕や凹みが認められる。凹みには断面V字の溝状をなすものがある。整った形状や他の磨石類にはない緑色で軟質の石材を用いている点からみて、石棒等の石製品を転用した可能性が高い。第69図13、第70図は石皿である。いずれも扁平な自然礫をそのまま利用しており、平坦もしくは使用によって若干凹んだ磨面を持つ。第69図14・15は砥石である。14は角柱状をなし、正裏面および両側面を砥面とする。各砥面は緩やかな凹面をなし、長軸方向の線状痕が認められる。更に正面の中央部には断面V字の溝を形成している。

木製品（第71～75図）

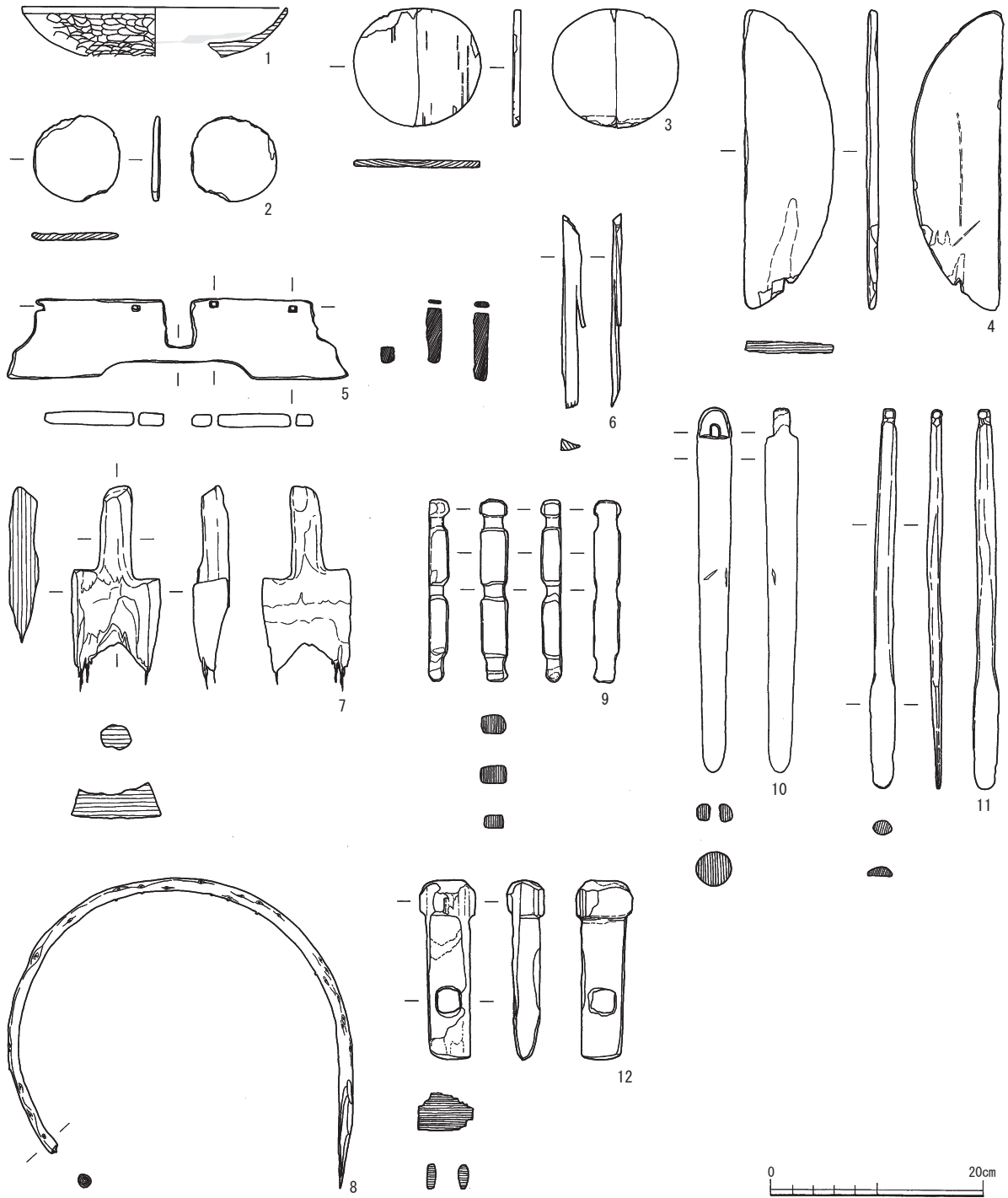
木製品については、形状から使用用途を類推して大まかに分類を行った。しかしながら、転用や破損等により本来の形状をとどめず、用途が明確に特定できないものも多数存在する。また、器表面に風蝕がおよんでいるため、加工の痕跡が判読できない資料が大部分を占めている。木製品の時期は、共伴する土器から多くは弥生時代後期に帰属すると推定されるが、一部は古代にまで下る可能性がある。

①容器類（第71図1～5、第72図、第73図1・2）

第71図1は、皿である。口縁部外面に面を形成し、体部外面には細かな横位の削りを施す。内面には、底部を中心に焦痕が認められる。



第70図 遺構実測図29（縮尺1/8）



第71図 遺物実測図30 (縮尺1/6)

第72図1～3は、原材を円筒状に削り貫いた桶の側板である。第71図4のような、円形の底板を底部にはめて使用したものと考えられる。

第72図1は歪みが生じているが、復元径で約30 cmをはかり、器体下端には底板を固定するために径約0.5 cmの目釘穴を穿孔する。目釘穴には目釘の一部が遺存する。第72図2は歪みが生じているが復元径が約28 cm、第72図3は同じく復元径約34 cmをはかる。両者ともに内面下端に底板を固定するための緩やかな段を作り出す。段はあまり明瞭なものではなく、器体下端において器壁内面が緩やかに盛り上がり、下端に向かってすぼまる形状をなす。この段で底板を受けるものと推定される。なお、第72図2

の下端にはどのように機能していたのか不明だが、径約0.5 cmの目釘穴を穿孔する。目釘穴は貫通せず器壁の中程で止まり、目釘の一部が遺存する。第72図3の上部には握り部が円筒形を呈する把手を作り出す。把手は、容器本体よりも内側に傾いて削り出されている。

第71図2～4は円板であり、桶の底板と推定される。第71図2は径約8.1 cmをはかる小型の底板である。第71図3は上下が僅かに短い楕円形を呈し、長軸約12.0 cm、短軸約11.3 cmをはかる。第71図4は、大型の底板ではあるが一部のみが遺存する。遺存部を基に復元すると、第71図3と同じく楕円形を呈すると考えられ、復元径が長軸約30 cm、短軸約25 cmをはかる。なお、いずれも器体側面には目釘を打ち込むための穿孔が認められない。このため、底板ではなく蓋として使用された可能性もある。

第71図5は台形状を呈する板材で、器体中央には長方形の欠き込みを有する。上端には欠き込みの左右に、長軸約0.5～0.7 cm、短軸約0.6 cmをはかる方形孔を各々2箇所設け、下端の中央部は湾曲しながら浅く削り込む。上端の方形孔は別の部材と結合するためのものと推定され、組み合わせ式の箱状容器（指物）の脚の可能性はある。

第72図4～7、第73図1は、刳物の槽である。第72図4～6は平面形が長方形を呈するが、4・5の内面は浅皿状に浅く凹む。このため、器壁内面の立ち上がりは湾曲して緩やかであり、平面上における内面四隅の仕上げも角を持たず丸味を帯びている。第72図4は底面に脚を削り出す。遺存部から推定して、底面の四隅に設けられていたと考えられる。脚の長軸は器体の長軸に平行しており、長側面の形状は歪な逆台形状を呈する。第72図6は、器壁内面の立ち上がりが底面から明確に折れて直線的である。平面上における内面四隅の仕上げも角を持たせており、全体的に箱状の器形を呈する。第72図7、第73図1は、平面形が舟形状の隅丸長方形を呈する槽である。第72図7は器壁の立ち上がりが、内外面ともに緩やかな浅皿状を呈する。第73図1は、長軸が90 cmをこえる大型品である。底面からの器壁の立ち上がりは外面では外傾しながら直線的に立ち上がるが、内面では湾曲して緩やかに立ち上がる。底部には欠損しているものの脚を削り出しており、恐らく底面の四隅に設けられていたようである。脚は遺存部から判断して、円筒状の脚であったと考えられる。

第73図2は、底面に略長方形を呈する脚を削り出した板材である。破損しているため本来の形状はうかがえないが、脚付きの槽の底部になる可能性がある。脚の長側面の形状は逆台形状を呈する。

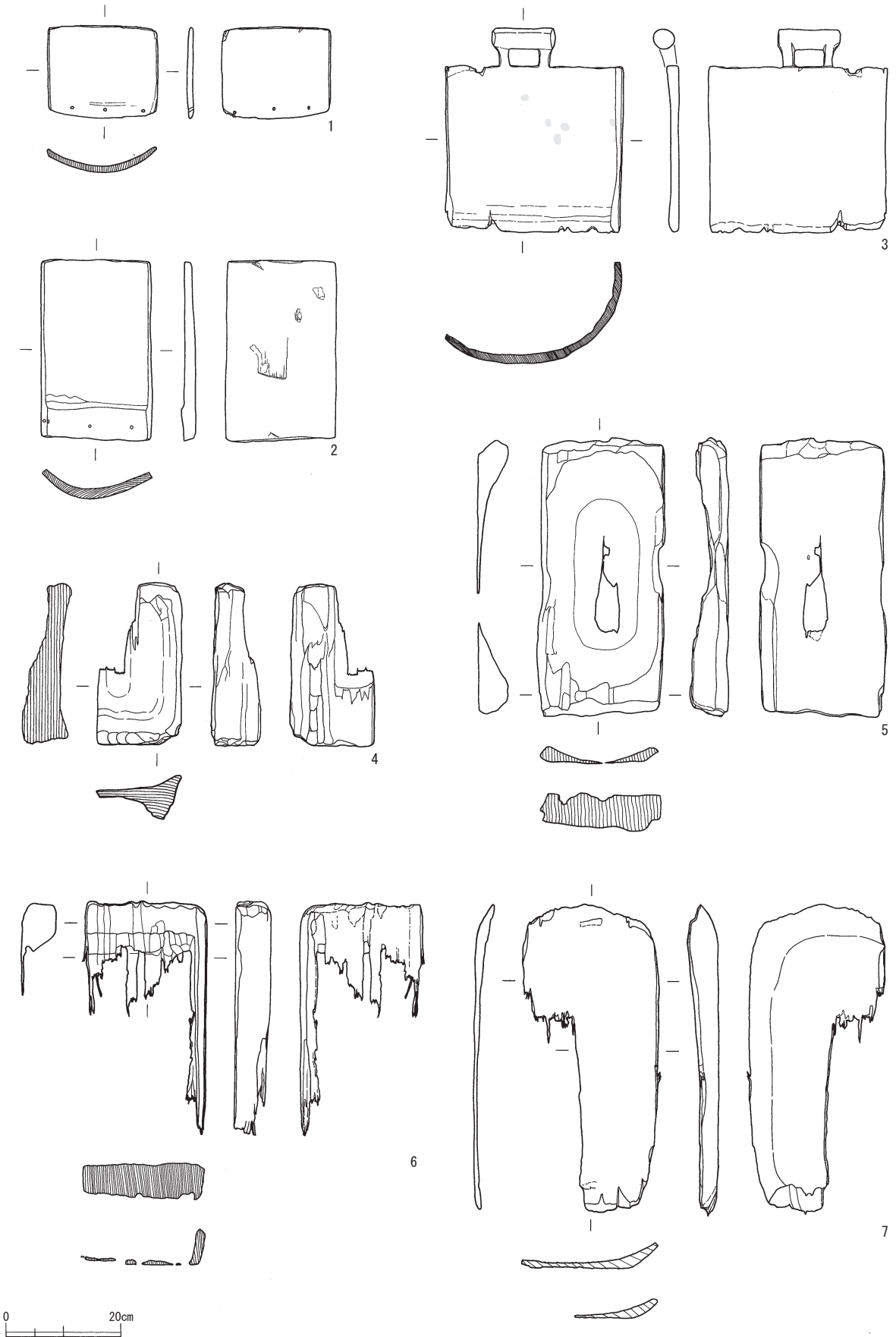
②農工具・漁撈具・狩猟具・接続具・祭祀具・栓材・用途不明品（第71図6～12、第75図7・8）

第71図6は左側縁を欠損するが、右側縁には下方から切り込みを入れて逆棘を作り出す。斎串であろうか。

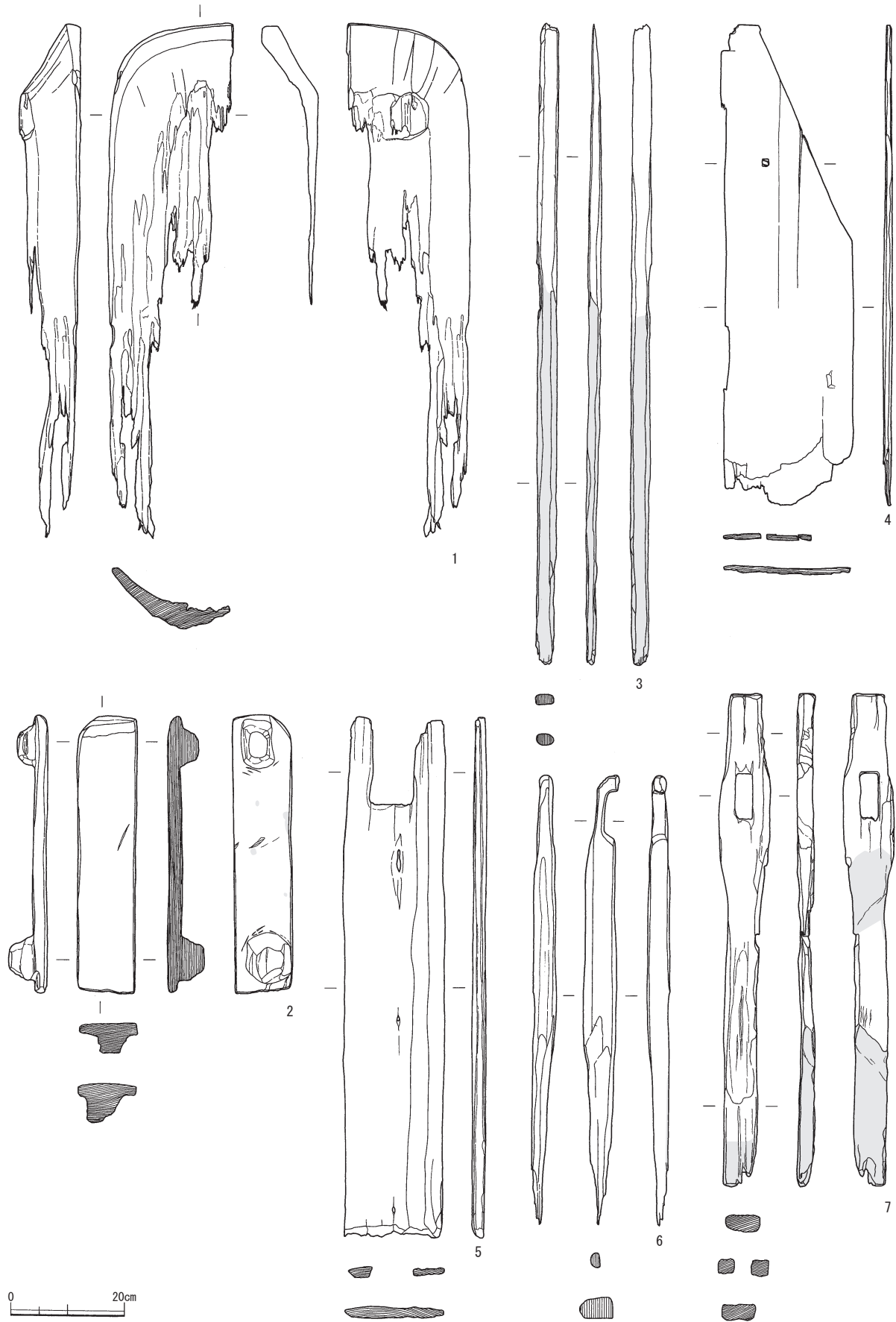
第71図7は、杓状具である。把手は横断面が扁平な楕円形を呈する棒状を呈する。下端の先端部を欠損しているため、身の形状は判然としないが、遺存部は下端に向かってすぼまっていく。身の内面は破損のため明確ではないが浅く削り込んでいるようである。アカトリもしくはモミスクイの類と推定されるが、明確な用途は特定できない。

第71図8は、細い枝材を湾曲させて円形に仕上げる杵材である。器表面の細かい枝を払い、器体の右端を削って鋭く仕上げる。なお、削りは表面の片面のみである。器体の左端は、破損して折れている。玉網もしくは田下駄の杵材と推定される。

第71図9は、両端および器体中央に抉りを設ける板材である。裏面には抉りを設けず平滑に仕上げている。厚みがあるものの、別の二つの部材を固定するための接続具と推定され、抉り部は緊縛用の紐掛けと考えられる。



第72図 遺物実測図31 (縮尺1/10)



第73図 遺物実測図32 (縮尺1/10)

第71図10は上端に半円状の削り出しを設け、その中に長軸約1.2cm、短軸0.8cmをはかる方形孔を穿つ。器体は下方に向かってすぼまり、下端を丸く仕上げる。上端の半円状突起は別の部材に差し込んで使用するための加工と考えられ、容器等の柄であった可能性がある。

第71図11は、篋状具である。柄の上端には抉りを入れて突起状に削り出ししており、器体の下半には平面形が長楕円形を呈する篋状部を持つ。篋状部の裏面は平滑に仕上げられており、横断面は扁平な半円形を呈する。

第71図12は、器体上部に円頭状の突起を作り出し、突起下は長方形を呈する栓材である。器体下部には、長軸約3.0cm、短軸約2.4cmをはかる方形孔を設ける。器体の下端は表裏面より削り込まれ、端部が尖り気味となる。形状は宮本分類のA型軸受に類似するものの、器体下部に設けられた孔が略方形を呈することから、扉等の軸受ではなく、別の二つの部材を固定するための栓材と推定される。

第75図7は上端を浅く削り込んで、僅かに鉤状に屈曲する突起を作り出す部材である。用途は不明だが、形状から弓の可能性も考えられる。

第75図8は、内面を削り込んで樋状に仕上げた部材である。右側面は破損のため遺存しないが、横断面はU字状を呈していたと考えられる。内面の底部はやや平滑に仕上げられており、平坦な面を作り出す。器体下部の底面には遺存値で長軸約6.7cm、短軸約4.6cmをはかる方形孔を設ける。形状から木樋と推定され、器体下部の方形孔は別材と結合するための仕口と考えられる。

③板材・棒材（第73図3～7、第74図、第75図1～6・9・10）

建築部材を中心とした板状および棒状の部材を一括する。用途が類推できるものも僅かに存在する。

第74図1は、長軸が約141.7cmをはかる大型の板材である。左右両側縁を欠いているが、本来は長方形を呈する一枚板であったと推定される。器体中央の右側縁には長軸約9.7cm、短軸約2.7cmをはかる長方形孔を設ける。器表面には、風蝕の影響か木質の一部と推定される細かな繊維が毛羽立っている。形状から扉板と推定され、右側縁の方形孔は別材で作られた把手の差し込み口、もしくはそのまま引手として利用するための仕口と推定される。

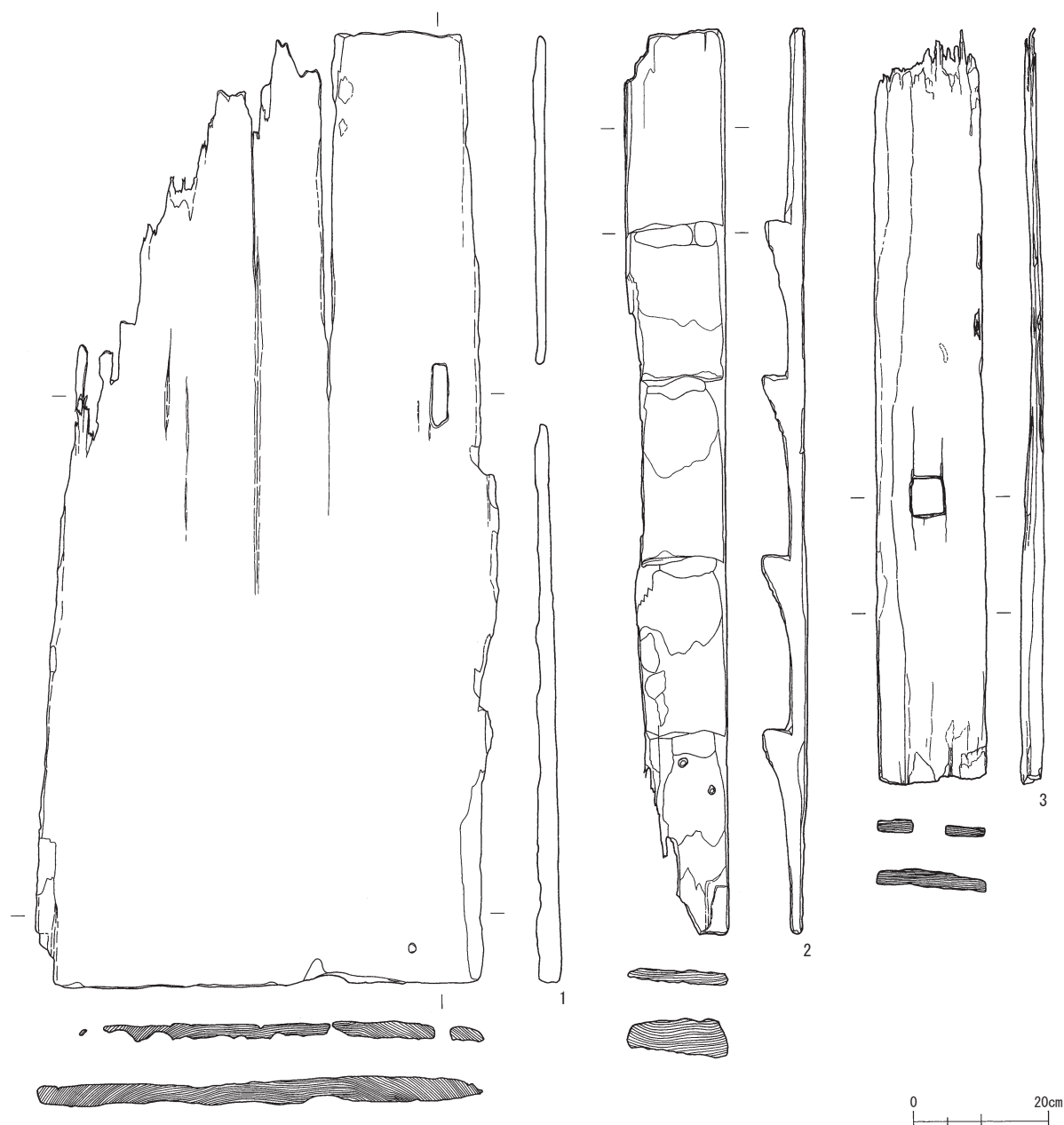
第74図2は、刻み梯子である。厚みのある板材の表面を削り込んで階段部を作り出す。このため、器体の縦断面が鋸歯状となる。下端および左側縁を欠くうえに器面の風蝕が著しい。階段部は4段分が遺存し、蹴上の寸法は約23.0～26.8cmをはかる。階段部の先端も失われている可能性もあるが、踏面の奥行は遺存値で約3.5～4.1cmをはかる。

第73図4は大型の板材で、上端の左側から右側縁中央にかけて斜めに切り落とす。器体の左側上部には一辺約1.0cmをはかる方形孔を設ける。形状から建物の妻板壁として使用された可能性が考えられ、方形孔は壁の構築材と緊縛するための綴り孔と推定される。横位に用いたと仮定すると、多少歪みが生じているものの斜辺の傾斜角は約23.5°をはかり、4寸5分勾配（約24.2°）に近い角度となる。

第73図5は、器体上端に長方形の欠き込みを有する板材である。破損はしているが、上端の欠き込みは長軸約15.2cm、短軸約7.8cmをはかる。建築部材と考えられ、床材もしくは壁材と推定される。

第73図6は破損や転用のため本来の形状は明確ではないが、上端に隅丸の方形孔を持つ板材と考えられる。方形孔は、遺存値で長軸8.2cm、短軸2.2cmをはかる。摩耗のため不明瞭ではあるが、方形孔を設けた箇所の器体の幅が狭く作られた可能性がある。杭として転用されたのか、器体の下半は下端に向かって削り込まれる。

第73図7は、器体の上部に方形孔を有する板材である。方形孔は、長軸約8.3cm、短軸約3.4cmを



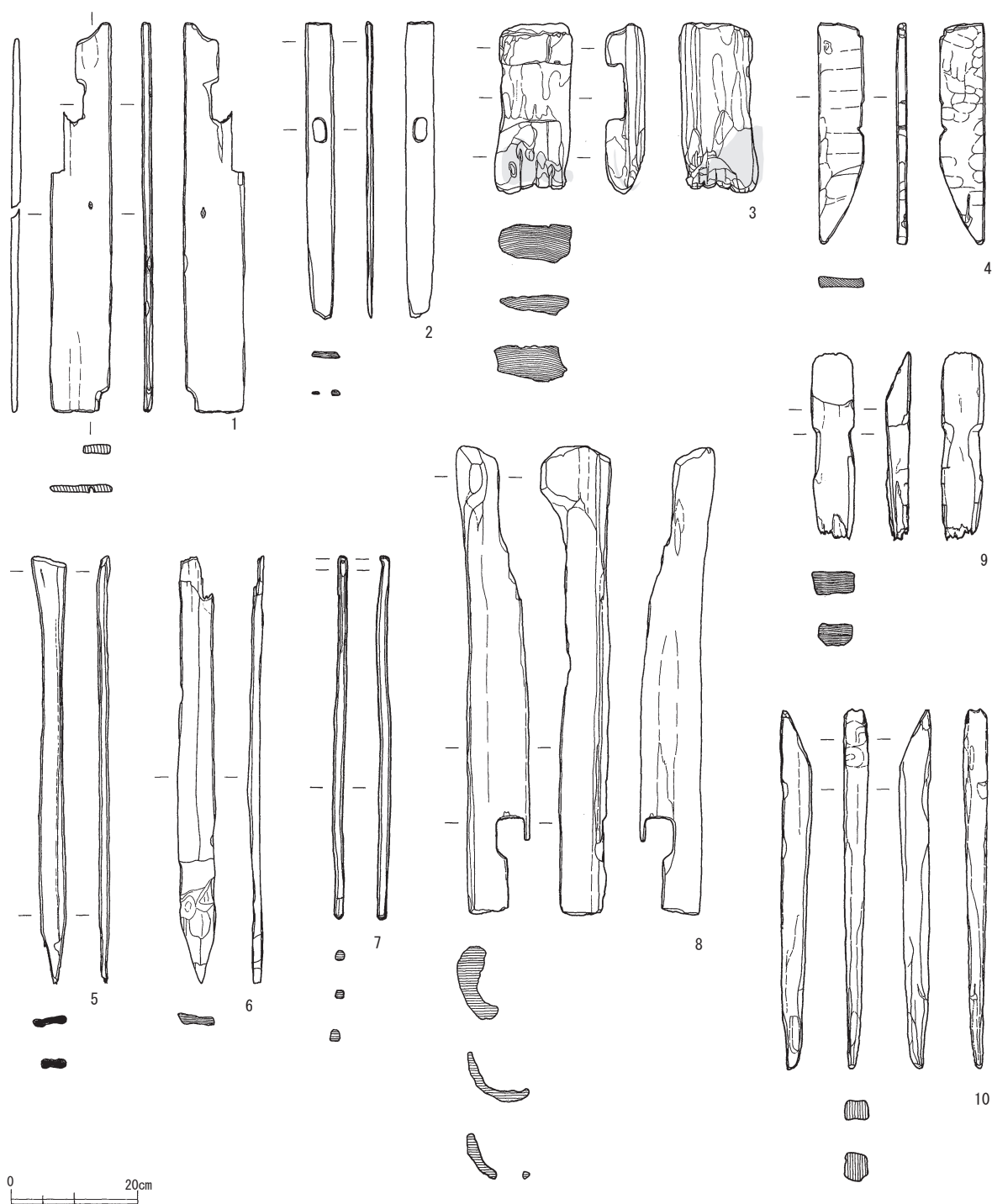
第74図 遺物実測図33 (縮尺1/10)

はかる。方形孔を設けた箇所器体の幅は、広く作られている。また、器体の裏面を中心に焦痕が認められる。

第75図3は、厚みのある器体中央に他の部材を組み合わせる欠き込みを設ける板材である。欠き込みは長さ約9.3cm、奥行約2.9cmをはかる。転用されてはいるが、形状から平梁もしくは根太等の横架材の端部と推定される。

第74図3、第75図1・2は、器体に方形孔を有する板材である。第74図3は上端が欠損しているが器体中央の下半寄りに、長軸約6.3cm、短軸約5.3cmの方形孔を設ける。第75図1は器体上部に遺存値で長軸5.6cm、短軸2.8cmをはかる方形孔を設ける。第75図2は器体中央の上半寄りに、長軸約3.8cm、短軸約2.7cmをはかる方形孔を設ける。

第75図4～6は下端が尖る板材である。第75図4は、器表面を平滑に仕上げている。第75図5・

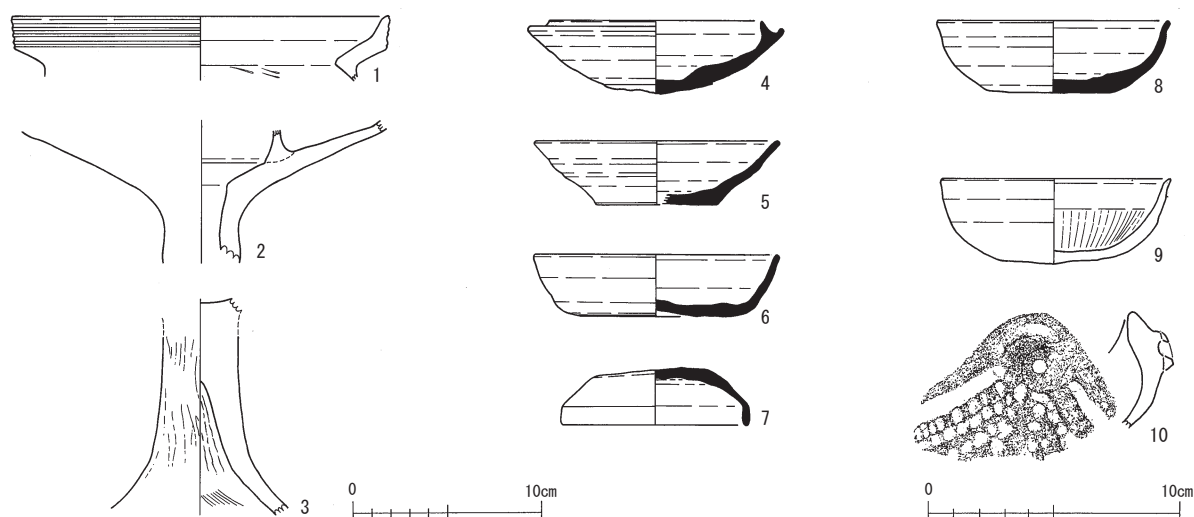


第75図 遺物実測図34 (縮尺1/10)

6は側面および表裏面も削っていることから、矢板状に使用していた部材と推定される。

第73図3は横断面が扁平な多角形を呈する棒材である。上下両端を欠く。器表面には器体下半を中心、焦痕が認められる。

第75図9・10は、断面が略方形を呈する棒材である。両者ともに上端を斜めに切り落とす。9は上端より約11.5 cm下った箇所にて表裏の角を削っており、横断面が歪な八角形を呈する。10は、上端より約11.5 cm下った箇所にて裏面の角を浅く削り込み、段を作り出す。



第76図 遺物実測図35 (縮尺 1～9 : 1/4、10 : 1/3)

SD 5 出土遺物 (第76図1～3)

甕の口縁部、装飾器台の受け部、高杯の脚部の3点を図化した。第76図1は弥生土器の甕である。口縁部は摘み上げるように立ち上がった有段の口縁であり、外面に擬凹線をめぐらせる。頸部は「く」の字に屈曲する。第76図2は、装飾器台である。本来は有段となる器台の受け部の下半であるが、開く受け部の中ほどに器壁の立ち上がりが残っており、装飾器台であることは確実である。残された部分のプロポーシオンから、ここまで貼り付けの位置が中央に近くなるものは、越前地域等の北陸地方に多いタイプではなく、SD 2からも出土しているものと同じく、受け部の口縁帯が斜めに張り付く丹後地域に類例の多いものである。第76図3の高杯はこれまでのものと同じく、「ハ」の字に開く有段とはならない脚の上半部である。

SD13 出土遺物 (第76図4)

第76図4は、須恵器の坏身である。内面にかえりが立ち上がる、「坏H」とされるものである。

SD15 出土遺物 (第76図5)

第76図5は、須恵器の無台坏である。底部の中央を欠くが、その調整が回転ヘラ切りであることは間違いないものである。平底の底部から椀のように大きく口縁が開く。また、ロクロ成形の際のヨコナデが強く、その際の段が明瞭に残る。本遺跡ではこのような坏身の出土は他に確認しておらず、周辺でも類例が見当たらない。

SD24 出土遺物 (第76図6)

第76図6は、須恵器の無台坏である。平底の底部から口縁部にかけて、丸味を帯びて立ち上がる。

SD26 出土遺物 (第76図7)

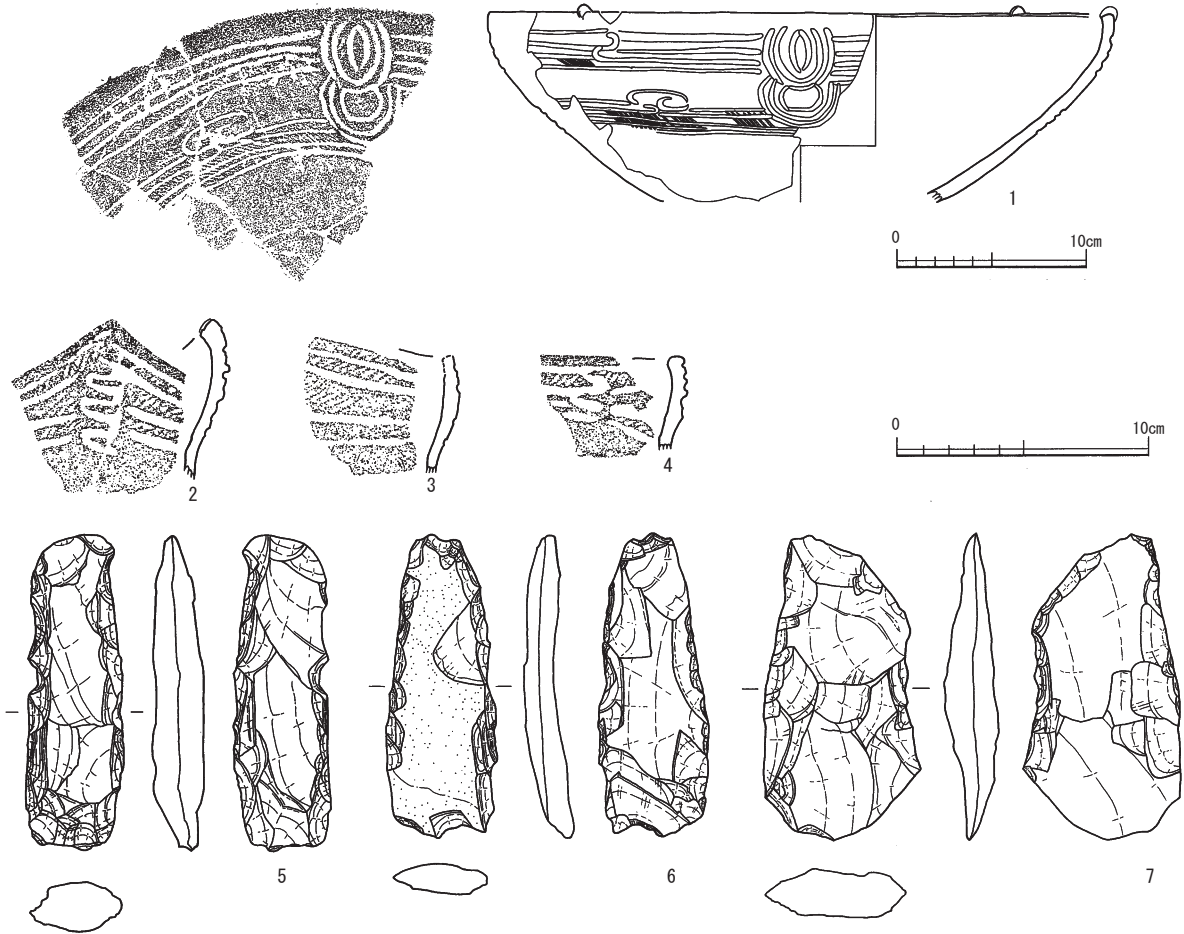
第76図7は、須恵器の坏蓋である。口縁部は立ち上がる。SD13等からも出土している「坏H」等の杯身の蓋である。

SD61 出土遺物 (第76図8)

第76図8は、須恵器の無台坏である。平底の底部から口縁部にかけて、丸味を帯びて立ち上がる。

SD92 出土遺物 (第76図9・10)

第76図9は、土師器の椀である。内面の底部から口縁部に向かって、ヘラ描の暗紋が直線で放射状にのびる。



第77図 遺物実測図36 (縮尺 1 : 1/4、2 ~ 7 : 1/3)

第76図10は、縄文土器である。波状口縁深鉢の波頂部である。波頂直下に円形の突起を配し、中央に刺突を施す。円形突起の両脇から口縁に沿って沈線を引き、その内側に沈線に沿う刺突列を施す。また、円形突起下に垂下する刺突列も認められる。時期は縄文時代後期中葉に位置付けられよう。

第2節 遺構外出土遺物 (図版第52・55・56、第77～81図)

1 遺物出土集中地点出土遺物 (第77図)

3区N13では、狭い範囲から縄文土器と打製石斧がまとまって出土しており、遺構には伴わないもののほぼ同時期に属する可能性がある。

第77図1は、内湾気味に開く器形の浅鉢である。口縁端部には小突起を配す。弧線を重ねた8字状の単位文を配し、4条を基調とする横走沈線帯を二段めぐらす。沈線帯には縄文LRを充填する。第77図2～4は同一個体で、波状口縁深鉢である。口縁部は緩く内湾する。波形に合わせた2条の沈線とほぼ水平な2条の沈線により口縁部文様帯を構成する。波頂部下と波底部下では蛇行沈線が垂下し、沈線帯を区切る。口縁部文様帯には縄文RLを充填する。これらの土器は、加曾利B1式に並行すると考えられ、縄文時代後期中葉に位置付けられる。

第77図5～7は、3点重なって出土した打製石斧である。すべて短冊形を呈す。5は厚手の板状剥片を素材とする。両側辺と刃部を直線的に整形している。6は円礫の表面から剥離した剥片を素材とし、湾曲した側面観を呈す。背面に礫面を広く残す。7は幅広で歪な形状を呈す。調整加工は側辺に集中し

ており、刃部は素材の縁辺をそのまま利用している。

2 遺構外出土遺物 (第78～81図)

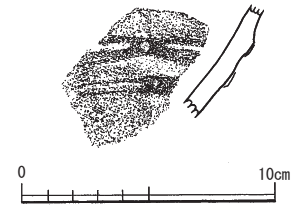
遺物包含層は削平により遺存していなかったが、表土を中心に僅かに土器類が出土した。完形に近い状態まで復元できたもの、また異なる時代や遺構出土土器で類例の無いものについて図化し、まとめた。

第78図は、縄文土器の浅鉢である。陽刻手法でレンズ状の文様を描出し、結節部に押点文を施す。狭義の浮線土器である。

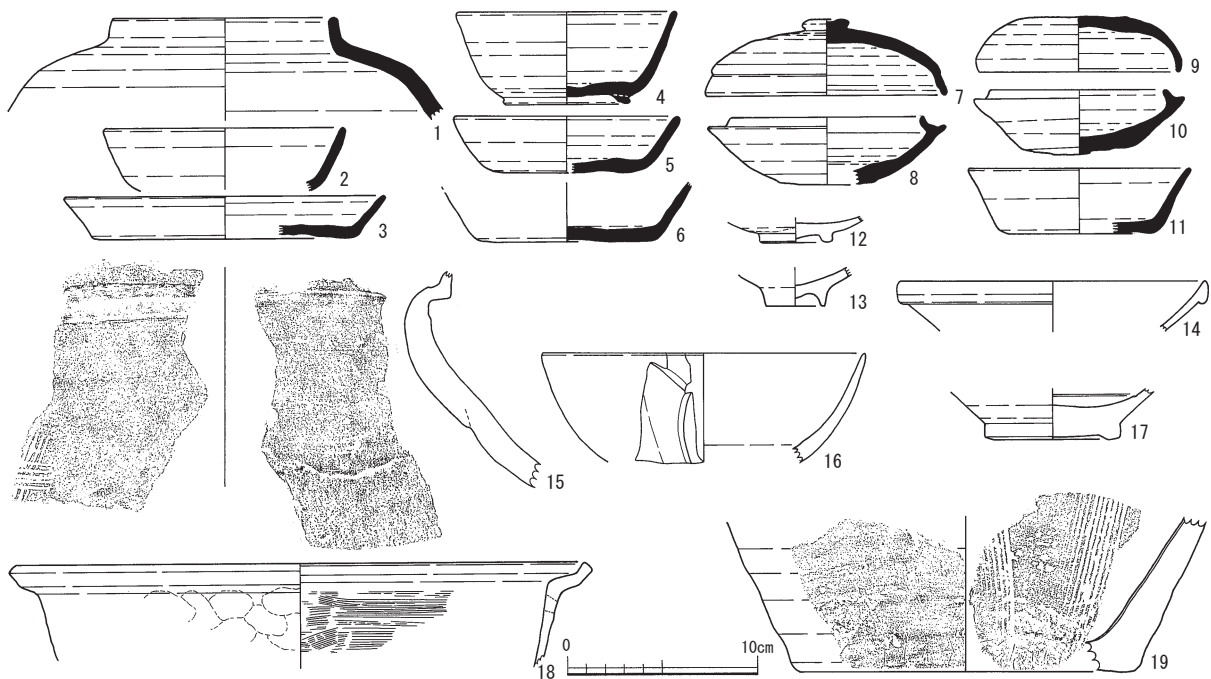
須恵器では、坏蓋・杯身・皿・短頸壺等11点を図化した(第79図1～11)。無台坏は底部のごく一部を欠くもの(第79図5・11)と、口縁部片(第79図2)、口縁部を欠く底部(第79図6)の4点である。また、この無台坏に先行する時期の口縁にかえりのある「坏H」2点(第79図8・10)も、SD1で出土したものと同一タイプで同時期であろう。坏蓋はこの「坏H」とセットになるもので、つまみがあるもの(第79図7)と、つまみが無いもの(第79図9)である。有台坏は完形として図化できた1点(第79図4)のみである。皿は1点(第79図3)で、SD2で出土したものと同一タイプで同時期であろう。壺としては、短頸壺の口縁部付近のみ(第79図1)であるが、このタイプの壺はこれ以外に図化できていない。

貿易陶磁器は、白磁3点、青磁2点が図化できた。白磁は皿の底部(第79図12)と碗の玉縁口縁(第79図14)とがある。第79図14と同一個体かは不明であるが、同タイプの底部(第79図17)が出土している。第79図14・17はSD2出土のものと同様に、大宰府出土の白磁碗IV類に相当する。青磁は鎬蓮弁文を描出する碗の口縁部片(第79図16)と、底部(第79図13)があるが、大きさ等から両者は別個体であろう。16は、大宰府出土の龍泉窯系青磁碗I-5・b類に相当する。

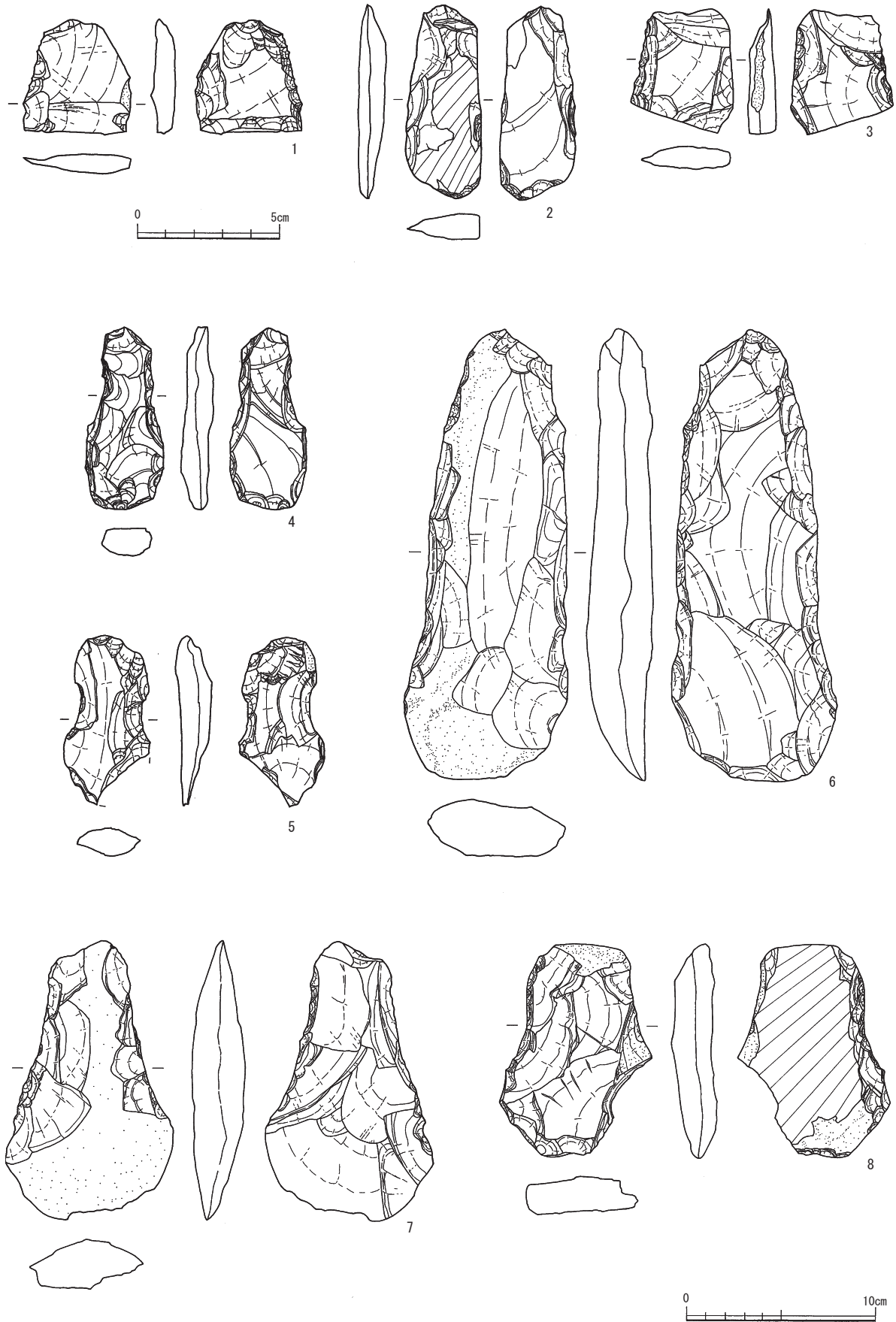
中世の陶器では、越前焼の甕胴部上半片(第79図15)と、摺鉢の底部(第79図19)の1点ずつが図化できた。



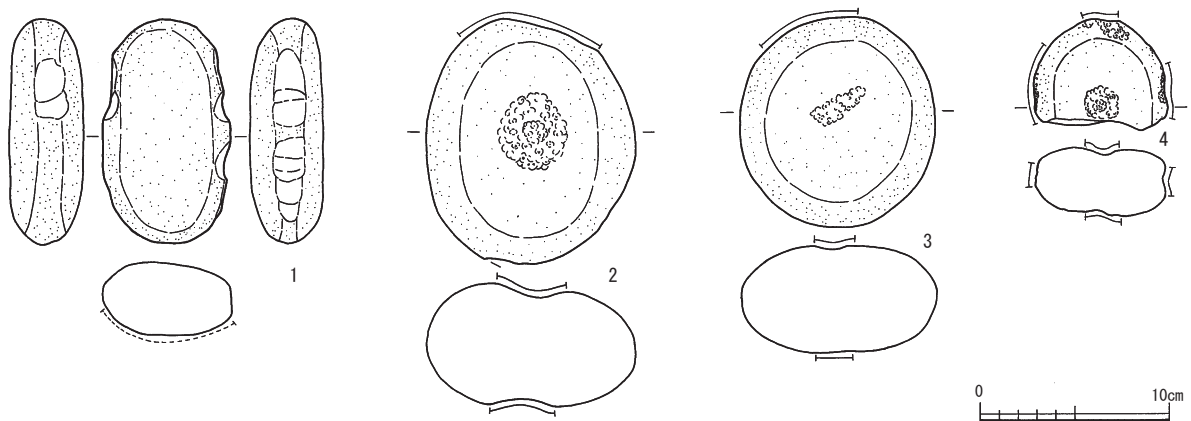
第78図 遺物実測図37 (縮尺1/3)



第79図 遺物実測図38 (縮尺1/4)



第80図 遺物実測図39 (縮尺 1 : 1/2、2 ~ 8 : 1/3)



第81図 遺物実測図40 (縮尺1/4)

その他に、中世初頭の瓦質の鍋（第79図18）が1点だけ図化できた。受口状の有段口縁で、頸部周辺に指押さえを顕著に残し、胴部内面をハケ調整とする、この時期にしか見られない鍋である。

その他に、前述したように第67図7・11の土師器椀・灰釉陶器椀も表土から出土である。

同じく遺構外からは、第80・81図の石器が出土している。スクレイパー類2点、楔形石器1点、打製石斧8点、磨石類7点がある。縄文時代から弥生時代の所産と考えられるが、個々の時期比定は困難である。

第80図1・2はスクレイパー類。1は板状剥片の一側縁を刃部とする。2は略長方形を呈し、一方の長辺に粗い剥離により刃部を作出する。もう一方の長辺は節理による平坦面をなしている。第80図3は楔形石器である。対向する二側辺に、階段状剥離が認められる。第80図4～8は打製石斧である。4は凸状の平面形を呈す。5は両側辺中央部に抉りを持つ。6は出土した同器種のなかで最大のもの。円礫の表皮を素材とし、刃部背面には礫面が広く残る。礫面の形状から刃部は片刃状となる。7・8は撥形を呈すもの。7の刃部背面は礫面であり、腹面側も含め、二次加工は行っていない。

第81図は磨石類である。第81図1は扁平な楕円礫を利用したもので、片主面に磨痕が認められる。両側面に指掛けに適した凹部を作出している。第81図2～4は扁平な円礫を利用したもので、いずれも両主面に敲打の集中による凹部を形成する。敲打痕は周縁にも認められ、4では凹部を形成する。

第4表 土器観察表1 (縄文土器および弥生時代前期・中期の土器)

挿図番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			文様/調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第44図16	縄文後期		3区	N12	SP919				横走平行沈線(多載竹管状工具)/ナデ	ナデ	2.5V6/3 にぶい黄色	2.5V6/3 にぶい黄色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	
第44図17	縄文後期		3区	N12	SP919				横走平行沈線(多載竹管状工具)/ナデ		2.5V7/3 浅黄色	2.5V7/3 浅黄色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	
第44図18	縄文後期	鉢	3区	N12	SP919				横走平行沈線(多載竹管状工具)/ナデ	ナデ	2.5V7/3 浅黄色	2.5V8/3 淡黄色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	
第44図19	縄文後期	深鉢	3区	N12	SP919				横走平行沈線(多載竹管状工具)/ナデ	ナデ	2.5V6/3 にぶい黄色	2.5V8/3 淡黄色	1mm以下の砂粒を多量含む	
第45図1	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目(刺突)突帯/ナデ	ナデ	7.5V85/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	突帯低平 円形を呈す浅い凹部の左端に半月形の刻目
第45図2	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目(刺突)突帯/ナデ	ナデ 輪積み痕	10YR4/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	突帯低平
第45図3	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯/横位条痕	ナデ	7.5V85/3 にぶい褐色	7.5V85/2 褐褐色	2mm以下の砂粒を多量含む	突帯低平
第45図4	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目(刺突)突帯/斜位条痕 突帯上横位ナデ	横位ナデ 輪積み痕	7.5V84/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	突帯低平
第45図5	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				無刻目突帯/縦位条痕?	横位ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	
第45図6	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				無刻目突帯/ナデ?	ナデ?	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	磨滅顕著
第45図7	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯(V)/横位ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む 黒色鉱物多	突帯上方に連続する爪状痕あり
第45図8	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯(D)/横位ケズリーナデ	横位ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む 石英多	外面炭化物付着
第45図9	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				刻目突帯/縦位条痕?→ナデ	ナデ	2.5V6/2 灰黄色	2.5V7/3 灰黄色	2mm以下の砂粒をやや多く含む 石英多	突帯剥落
第45図10	縄文晚期	浅鉢	6区		SD1				横走平行沈線 楕円沈線文/ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂粒少	赤彩の痕跡あり
第45図11	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				縦位ナデ(板)	横位条痕→ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第45図12	縄文晚期	深鉢	6区		SD1				横位条痕	横位条痕	2.5V6/2 灰黄色	2.5V5/1 黄灰色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第53図1	縄文晚期	深鉢	5区	C14	SD2	24.60			刻目突帯(D)2条/頸部縦位ナデ(板) 胴部縦位ケズリ 突帯に沿って横位ナデ 輪積み痕	横位ナデ 屈曲部に先行する横位条痕の痕跡 輪積み痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	内外面炭化物付着
第53図2	縄文晚期	深鉢	5区		SD2				刻目突帯(D~O)/縦位ナデ(板) 突帯上・下端横位ナデ 輪積み痕	ナデ(板)(口辺約4cm斜位、以下横位) 輪積み痕	10YR3/1 黒褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	外面炭化物付着
第53図3	縄文晚期	深鉢	5区	A15	SD2				刻目突帯(V)/横位条痕→ナデ 突帯上端横位ナデ	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	砂粒少	
第53図4	縄文晚期	深鉢	5区	A16	SD2				刻目突帯(O)/ナデ 突帯上端強い横位ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第53図5	縄文晚期	深鉢	5区	B15・B16・C15・C16	SD2				刻目突帯(D)/ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	突帯低平
第53図6	縄文晚期	深鉢	5区	B15	SD2				刻目突帯(V~D)/ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	突帯低平
第53図7	縄文晚期	深鉢	5区	B15・B16	SD2				刻目突帯(V~D)/ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	砂粒少	
第53図8	縄文晚期	深鉢	5区	A15・A16	SD2				刻目突帯(V)/ナデ 突帯上強い横位ナデ(板)	横位条痕	10YR4/2 灰黄褐色	2.5V7/1 灰白色	1mm以下の砂粒をやや多く含む	突帯低平
第53図9	縄文晚期	深鉢	5区	C13	SD2				刻目突帯(D)/口端~突帯および突帯下約1cmは横位ナデ、以下縦位ナデ(板) 輪積み痕	ナデ 輪積み痕	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	口端部押圧? 外面炭化物付着
第53図10	縄文晚期	深鉢	1区	B27	SD2				刻目突帯(V)/口辺約3cmは横位ナデ、以下縦位ナデ	横位~斜位条痕→横位ナデ(口辺約2cm)	10YR4/1 褐灰色	10YR5/ にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む	突帯低平
第53図11	縄文晚期	深鉢	5区	C14	SD2				刻目突帯(V~D)/ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む	突帯低平 補修孔
第53図12	縄文晚期	深鉢	5区	B15	SD2				刻目(刺突)突帯/ナデ	ナデ 輪積み痕	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む	突帯低平 刺突は先端が2つに分かれた棒状工具による

挿図 番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			文様/調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第53図13	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(V~D)/口端~突帯上端 および突帯下約2cmは横位ナデ、 以下、縦位ナデ(板)	横位ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 をやや多く含む	
第53図14	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16・ B16	SD 2				刻目(刺突)突帯/横位ナデ	横位ナデ 指頭圧痕	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む	突帯低平 刺突は半截竹管状工具による 外面炭化物付着
第53図15	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				刻目突帯(D)/ナデ 突帯下に爪状 圧痕	ナデ 輪積み痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 をやや多く含む	突帯は粘土紐を二重に貼り 付けて成形
第53図16	縄文晩期	深鉢	6区	A23	SD 2				刻目突帯(D)/横位ナデ 口端~突 帯上端強い横位ナデ 輪積み痕	ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	
第53図17	縄文晩期	深鉢	5区	D13	SD 2				刻目(刺突)突帯/ナデ	ナデ 口辺約2cm以下は強い横位ナ デ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	突帯低平 刺突は右斜め方向から施す
第53図18	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD 2				刻目突帯(D)/ナデ	横位ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	
第53図19	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD 2				刻目(刺突)突帯/突帯上横位ナデ、 以下、縦位ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	砂粒少	
第53図20	縄文晩期	深鉢	5区	A16	SD 2				刻目(押圧)突帯(O)/横位ナデ	口辺約1cmは横位ナデ、以下は斜位 ナデ 指頭圧痕	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	突帯低平
第53図21	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16	SD 2				刻目突帯(V)/口辺約2cmは横位ナ デ、以下は縦・斜位ナデ	横位ナデ(板)	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む 角閃石含む	外面炭化物付着
第53図22	縄文晩期	壺?	5区	C15	SD 2				刻目突帯(D)/口辺約2cmは横位ナ デ、以下は縦位ナデ(板)	横位ナデ	10YR3/1 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	3mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	
第53図23	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(D)/横位ナデ	ナデ	10YR2/1 黒色	10YR5/6 黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	外面炭化物付着
第53図24	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15	SD 2				刻目突帯(D)/口辺約3cmは横位ナ デ、以下は縦位ナデ(板) 輪積み痕	ナデ	10YR3/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	突帯低平 外面炭化物付着
第53図25	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(O)/縦位ナデ(板)	ナデ 指頭圧痕 輪積み痕	2.5YR3/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	
第53図26	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				刻目突帯(D)/縦位ナデ(板) 輪積 み痕	横位ナデ(板)	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	外面炭化物付着
第53図27	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(V)/口辺約2cmは横位ナ デ、以下は縦位ナデ(板)	横位ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む	
第53図28	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(V)/横位ナデ	横位ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	突帯低平
第53図29	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目(刺突)突帯/口辺約1.5cmは横 位ナデ、以下は斜位ナデ 輪積み痕	横位ナデ 指頭圧痕 輪積み痕	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	刺突は管状工具による
第53図30	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(O)/縦位条痕→ナデ	口辺約4cmは横位ナデ(板)、以下は 縦位条痕 輪積み痕	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	
第53図31	縄文晩期	深鉢	1区	B28	SD 2				刻目突帯(D)/横位ナデ(板)	口端沿いに浅い沈線(段)/ナデ 指 頭圧痕	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂粒少 3mm大 の小礫を含む	内外面に径2mm以下の黒斑 多数あり
第53図32	縄文晩期	深鉢	5区	A16	SD 2				刻目突帯(D)/ナデ	横位ナデ(板)	N2/ 黒色	10YR4/1 褐灰色	1mm以下の砂粒 少量含む	外面炭化物付着
第53図33	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(O)/縦・斜位条痕→突帯 沿い横位ナデ	横位ナデ(板) 輪積み痕	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒 少量含む	内外面炭化物付着
第53図34	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16	SD 2				刻目突帯(V)/横位ナデ(板)	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/1 褐灰色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む 石英多	
第53図35	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				刻目突帯(D~O)/横位ナデ	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒 をやや多く含む 石英多	外面炭化物付着
第53図36	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD 2				刻目突帯(V)/縦位条痕	ナデ 指頭圧痕	10YR5/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	突帯低平 突帯上端に沿って細く浅い 沈線
第53図37	縄文晩期	深鉢	6区	A20	SD 2				刻目突帯(V)/ナデ	ナデ 輪積み痕	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 褐灰色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	刻目は二枚貝か 内外面に径2mm以下の黒斑 あり
第53図38	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD 2				刻目(刺突)突帯/ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	
第53図39	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				刻目突帯(D)/ナデ	ナデ 指頭圧痕	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/2 灰白色	1mm以下の砂粒を 多量含む 3~5 mmの礫混 石英多	
第53図40	縄文晩期	深鉢	5区	A16	SD 2				刻目突帯(D)/横位ナデ 輪積み痕	ナデ 指頭圧痕	10YR6/2 褐灰色	N2/ 黒色	3mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	内外面炭化物付着

第5章 遺物

挿図 番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			文様/調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第53図41	縄文晩期	深鉢	5区	B14・B15	SD 2				刻目突帯(D~O)/ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む	磨滅顕著
第53図42	縄文晩期 ~ 弥生前期	壺?	5区		SD 2				刻目突帯(D~O)/ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	
第53図43	縄文晩期	深鉢	5区	B14・B15	SD 2				刻目突帯(D)/横位条痕→ナデ	ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒 をやや多く含む	
第53図44	縄文晩期	深鉢	5区	A16	SD 2				刻目突帯(V~O)	ナデ	10YR3/1 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英多	外面炭化物付着
第54図 1	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				無刻目突帯/横位ナデ	横位ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂粒少	内外面炭化物付着
第54図 2	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				無刻目突帯/横位ナデ	口辺約2cmは横位ナデ、以下は斜位 ナデ	10YR5/2 にぶい黄褐色	10YR5/2 にぶい黄褐色	砂粒少	外面炭化物付着
第54図 3	縄文晩期	深鉢	5区	C14	SD 2				無刻目突帯/ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む 石英やや多	
第54図 4	縄文晩期	深鉢	5区	B16	SD 2				無刻目突帯/縦位条痕→突帯下ナデ	ナデ	10YR6/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む 石英多	
第54図 5	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16	SD 2				無刻目突帯/横位ナデ	横位ナデ 輪積み痕	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 にぶい黄褐色	砂粒少	
第54図 6	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				無刻目突帯/横位ナデ	横・斜位ナデ	10YR6/1 褐灰色	2.5Y7/1 灰白色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む 石英多	
第54図 7	縄文晩期	深鉢	5区	B14	SD 2				無刻目突帯/ナデ 突帯上下に指頭圧痕	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石英多	
第54図 8	縄文晩期	深鉢	5区	B15	SD 2				無刻目突帯/ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm以下の砂粒 を多量含む 雲 母・石英やや多	
第54図 9	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2				無刻目突帯/横位ナデ	ナデ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/3 浅黄色	1mm以下の砂粒 をやや多く含む 雲 母・石英やや多	
第54図10	縄文晩期	深鉢	5区	A16	SD 2				無刻目突帯 押圧文/横位ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	内面炭化物付着
第54図11	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				無刻目突帯/縦位ナデ(板)→突帯沿 い横位ナデ 突帯上下に指頭圧痕 輪積み痕	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	3mm以下の砂粒 を多量含む 石 英多	
第54図12	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				刻目突帯?/突帯下約2cmは横位ナ デ、以下は縦位ナデ 輪積み痕	横位ナデ 輪積み痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	3mm以下の砂粒 をやや多く含む 石英やや多	外面炭化物付着
第54図13	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD 2	24.60			横走平行沈線/ナデ	ナデ	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	砂粒少	
第54図14	縄文晩期	浅鉢	5区	B14	SD 2				沈線によるレンズ状意匠/ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	砂粒少 4mm大の礫混	
第54図15	縄文晩期	浅鉢	5区	A15・A16・ B16	SD 2				沈線によるレンズ状意匠/ナデ	横位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む	外面炭化物付着
第54図16	縄文晩期	浅鉢	5区	A16	SD 2				沈線によるレンズ状意匠/ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒 をやや多く含む	外面炭化物付着
第54図17	縄文晩期	浅鉢	5区	B14	SD 2				沈線によるレンズ状意匠/ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	
第54図18	縄文晩期	浅鉢	6区		SD 2				横走平行沈線 円形押圧文/ミガキ	ミガキ	2.5Y2/1 黒色	2.5Y3/1 黒褐色	1mm以下の砂粒 をやや多く含む	沈線内赤彩の痕跡あり 外面炭化物付着
第54図19	縄文晩期	浅鉢	5区	B15・B16	SD 2				横走平行沈線 列点文/ナデ	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/1 灰白色	砂粒少	外面炭化物付着
第54図20	縄文晩期	鉢	5区	B15	SD 2				口外帯 浮線文によるレンズ状意匠 同心円(渦巻)文/ミガキ	ミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む 石 英・角閃石多	赤彩の痕跡あり 21と同一個体
第54図21	縄文晩期	鉢	5区	B15	SD 2				同心円(渦巻)文		10YR5/2 灰黄褐色	5Y2/1 黒色		赤彩の痕跡あり 20と同一個体
第54図22	縄文晩期		5区	B15	SD 2				横走平行沈線/ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂粒少	磨滅顕著
第54図23	縄文晩期	浅鉢	6区	A23	SD 2				沈線/ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒 を多量含む	
第54図24	縄文晩期	浅鉢	5区	A16	SD 2				斜行沈線/ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	

挿図 番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			文様/調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第54図25	縄文晩期		5区	C13	SD2				多岐竹管状工具による縦走・弧状沈線、列点文/ナデ(板)	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石英多	
第54図26	縄文晩期	浅鉢	5区	C13・D13	SD2				横走平行凹線文/横位ナデ	横位ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む	
第54図27	縄文晩期	鉢	5区	A15・A16・ B16	SD2				横走平行沈線/斜位ナデ	横位ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む	
第54図28	縄文晩期	深鉢	5区	B14・B15	SD2				縦位条痕	横位条痕→ナデ	10YR6/1 褐灰色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第54図29	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD2				斜位条痕	横位条痕(二枚貝)	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石英・雲母多	内外面炭化物付着
第54図30	縄文晩期	深鉢	5区		SD2				斜位条痕	横位条痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第54図31	縄文晩期	深鉢	1区	B28	SD2				斜位条痕	横位条痕→ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石英・雲母やや多	内外面炭化物付着
第54図32	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD2				斜位条痕	横位条痕→ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石英・雲母やや多	外面炭化物付着
第54図33	縄文晩期	深鉢	5区	C14	SD2				斜位条痕→ナデ	横位条痕(二枚貝)→ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母やや多	内面炭化物付着
第54図34	縄文晩期	深鉢	5区	B14・B15	SD2				横位条痕→ナデ	横位条痕(二枚貝)	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第54図35	縄文晩期	深鉢	1区	B28	SD2				縦～斜位条痕	横位条痕(二枚貝)	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第54図36	縄文晩期	深鉢	6区	A23	SD2				縦位条痕	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第54図37	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD2				口辺約4cm横位条痕、以下、縦位条痕	ナデ 輪積み痕	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第55図1	縄文晩期	深鉢	5区	A15・A16・ B16	SD2				口辺約3cm横位ナデ(板)、以下、縦位条痕	斜位ケズリ→ナデ	7.5YR6/6 褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒を やや多く含む	
第55図2	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16	SD2				斜位条痕	横位条痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒を やや多く含む 雲母・石英やや多	外面炭化物付着 3と同一個体
第55図3	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16	SD2				斜位条痕	横位条痕	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	2と同一個体
第55図4	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16・ C15・C16	SD2				縦位条痕	縦位条痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第55図5	縄文晩期	深鉢	5区	A15	SD2				斜位条痕	横位ナデ	N3/ 暗灰色	N3/ 暗灰色	砂粒少 雲母多	内外面炭化物付着
第55図6	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD2				横位条痕	横位条痕→ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第55図7	縄文晩期	深鉢	5区	C15	SD2				斜位条痕	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第55図8	縄文晩期	深鉢	5区	B15・B16	SD2				縦位条痕(二枚貝)→口辺約1.5cm以下横位ナデ(板)	横位ナデ	10YR5/1 褐灰色	10YR5/1 褐灰色	砂粒少	
第55図9	縄文晩期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD2				口端部押圧により小波状/縦位条痕→口辺約6cm横～斜位ナデ(板)	横～斜位ナデ(板)	2.5Y4/1 黄灰色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む	外面炭化物付着
第55図10	縄文晩期	深鉢	5区	C14	SD2				口辺約4.5cm横位ナデ、以下縦位条痕	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む	外面炭化物付着
第55図11	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	6区	A20	SD2				横位条痕	口辺約1.5cm横位ナデ、以下斜位条痕(二枚貝)	2.5Y7/1 灰白色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第55図12	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺?	5区	B15・B16	SD2				横位条痕→ナデ		2.5Y6/2 灰黄色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm以下の砂粒を やや多く含む 石英やや多	
第55図13	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	B15・B16	SD2				横～斜位条痕→口辺約1.5cmナデ	横位条痕→ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	
第55図14	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15	SD2				肥厚口縁 ナデ	ナデ 指頭圧痕	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/1 褐灰色	1mm以下の砂粒を 多量含む	
第55図15	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD2				縦位条痕→ナデ	横位条痕→ナデ	2.5YR3/1 黒褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石英・雲母多	

第5章 遺物

挿図番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			文様/調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第55図16	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・A16・ B16	SD 2				斜位条痕→縦位条痕	斜～横位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	17と同一個体
第55図17	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				横～斜位条痕→縦位条痕	斜位ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	16と同一個体
第55図18	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				斜位条痕→横位ナデ 輪積み痕	斜～横位ナデ	10YR3/1 黒褐色	10YR7/1 灰白色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第55図19	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	6区	A24	SD 2				斜位条痕(二枚貝)	斜位条痕→縦位条痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	
第55図20	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15	SD 2				縦位ケズリー頭部横位ナデ→一部縦位条痕 輪積み痕	横位ナデ(板) 輪積み痕	10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/2 灰褐色	3mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図21	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15	SD 2				縦位条痕	縦位条痕(二枚貝)→斜位ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR4/1 灰褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第55図22	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	6区	A24	SD 2				縦位条痕(二枚貝)	斜位ナデ(板)	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図23	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	C14	SD 2				縦位条痕	横位ナデ	10YR4/1 褐灰色	10YR3/1 黒褐色	1mm以下の砂粒を多量含む 雲母多	内外面炭化物付着
第55図24	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・A16・ B16	SD 2				斜位条痕	縦位・斜位ナデ(板) 輪積み痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着 25・26と同一個体
第55図25	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・A16・ B16	SD 2				横位・斜位条痕	斜位ナデ 輪積み痕	10YR4/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着 24・25と同一個体
第55図26	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・B15・ B16	SD 2				斜位条痕	斜～縦位ナデ(板) 輪積み痕	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着 24・25と同一個体
第55図27	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	5区	C14	SD 2				頸：横位条痕(二枚貝) 胴：縦位羽状条痕(二枚貝)	ナデ?	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図28	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	C14	SD 2				縦位条痕(二枚貝)	縦位ナデ 強い横位ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図29	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	6区	A23	SD 2				横位条痕(二枚貝)	横位ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図30	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15	SD 2				斜位条痕(二枚貝)	斜位ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図31	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・A16・ B16	SD 2				縦位条痕	斜位ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第55図32	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15	SD 2				ナデ	ナデ 指頭圧痕 輪積み痕	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	外面炭化物付着
第56図1	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	B25	SD 2				押圧突帯/横位条痕(二枚貝)→ナデ	横位条痕→ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	2.5YR7/3 浅黄色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	内外面に径2mm以下の黒斑多数あり 2～6と同一個体
第56図2	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	B25	SD 2				横位条痕(二枚貝)	横位ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	2.5Y7/4 浅黄色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	1・3～6と同一個体
第56図3	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	B25	SD 2				横位条痕(二枚貝)	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	1・2・4～6と同一個体
第56図4	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	B25	SD 2				横位条痕(二枚貝)	ナデ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	1～3・5・6と同一個体
第56図5	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	B25	SD 2				横位条痕(二枚貝)	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	1～4・6と同一個体
第56図6	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	B25	SD 2				横位条痕(二枚貝)	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	1～5と同一個体
第56図7	弥生前期	甕	1区		SD 2				横走平行沈線 4条	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒を多量含む	調整不明瞭
第56図8	弥生前期	壺	5区	C14	SD 2				刻目突帯?/ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む	調整不明瞭
第56図9	弥生前期	壺	6区	A20	SD 2				横走沈線 段/ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英多	
第56図10	弥生中期	壺	5区	D14	SD 2				櫛描直線文	ハケ・指頭圧痕	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒を多量含む 石英や多	調整不明瞭
第56図11	弥生前期 ～ 中期	無頸壺	5区	C14	SD 2	11.60			ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	2mm以下の砂粒を多量含む 石英・雲母多	頸部に円孔2箇所あり 内外面に径2mm以下の黒斑多数あり

挿図 番号	時期	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			文様/調整		色調		胎土	備考
						口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		
第56図12	弥生前期 ～中期	壺	6区	B25	SD2	24.00			ナデ・突帯	ミガキ	2.5Y5/2 暗灰黄色	2.5Y5/3 黄褐色	2mm以下の砂粒 を少量含む 雲 母含む	突帯ほぼ剥落 内外面に径2mm以下の黒斑 多数あり
第56図13	縄文晩期		5区	A15・B 15・B16	SD2			丸底	側：縦位ナデ(板) 底：横位ケズリ→ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 を多量含む	
第56図14	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・A 16・B16	SD2			8.65	側：縦位条痕→横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR6/1 褐灰色	2.5Y6/1 灰白色	2mm以下の砂粒 を多量含む 石 英・雲母多	
第56図15	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	C14	SD2			6.40	側：横位ナデ 底：ナデ 指頭圧痕	ナデ	10YR6/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 雲 母・角閃石含む	
第56図16	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A16	SD2			6.30	側：縦位条痕→横位ナデ 底：ナデ	側：縦位条痕	10YR7/2 にぶい黄褐色	2.5Y7/1 灰白色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石 英・雲母多	
第56図17	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A16	SD2			5.85	側：縦位ナデ(板)→横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 5 mm以下の石英含む	
第56図18	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	C14	SD2			6.60	側：縦位条痕→横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石 英・雲母多	
第56図19	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A16	SD2			7.00	側：斜位・縦位条痕→ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英・雲母多	
第56図20	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A15・B 15・B16	SD2			7.70	側：ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR7/1 灰白色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英・雲母多	
第56図21	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	B16	SD2			7.00	側：斜位条痕→ナデ 底：ナデ	側：斜位条痕→ナデ	2.5Y6/1 黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英・雲母多	
第56図22	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	B15	SD2			6.80	側：横位条痕→ナデ 底：ナデ	ナデ 指頭圧痕	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英多	
第56図23	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	B16	SD2			7.00	側：斜位条痕→横位ナデ 底：ナデ	側：斜位条痕 底：ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英・雲母多	
第56図24	縄文晩期 ～ 弥生前期	壺	6区	A23	SD2			11.00	側：横位ナデ 底：ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英やや多	
第56図25	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	C13	SD2			4.80	側：ナデ 底：ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒を 多量含む 石 英多	
第56図26	縄文晩期 ～ 弥生前期	深鉢	5区	A16	SD2			5.30	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	4mm以下の砂粒を やや多く含む 石 英やや多	底部穿孔途中
第76図10	縄文後期	深鉢	7区	L10・M10	SD92				円形貼付文 沈線 刺突文	ナデ	7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	2mm以下の砂粒を やや多く含む 石 英・雲母やや多	円形貼付文一部剥落
第77図1	縄文後期	浅鉢	3区	N13		33.00			口端部小突起 同心円(弧)文 横走沈線帯(縄文LR充填)/ナデ ミガキ?		10YR7/3 にぶい黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm以下の砂粒を やや多く含む	
第77図2	縄文後期	深鉢	3区	N13					波頂部押圧(巻貝?) 垂下蛇行沈線 横走沈線帯(縄文RL充填)/ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR5/6 明褐色	1mm以下の砂粒を やや多く含む	外面磨減顕著 3～4と同一個体
第77図3	縄文後期	深鉢	3区	N13					横走沈線帯(縄文RL充填)/ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/4 褐色	1mm以下の砂粒を やや多く含む	外面磨減顕著 2・4と同一個体
第77図4	縄文後期	深鉢	3区	N13					垂下蛇行沈線 横走沈線帯(縄文RL 充填)/ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR4/4 褐色	1mm以下の砂粒を やや多く含む	外面磨減顕著 2・3と同一個体
第78図	縄文晩期	浅鉢	6区	D25					浮線文によるレンズ状意匠	ナデ	5Y2/1 黒色	10YR5/4 にぶい黄褐色	1mm以下の砂粒を 多量含む	磨減顕著

第5表 土器観察表2 (弥生時代後期以降の土器・陶磁器)

【凡例】底径には、高台径・脚径も含む。なお、高台径は接地面で、平高台は外縁部より計測している。底面の調整は、蓋・高坏・器台以外の、高台を含む底部外面の調整を記載している。残存率は、12分割した同心円上に遺存部位を置いて計測している。

押図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第42図1	弥生土器	高坏	6区	C22	SH1	30.00			0.50		ナデ	ナデ		5YR7/4 にぶい橙色	2.5YR6/4 にぶい橙色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図2	弥生土器	壺	6区	C22	SH2 SP2616	14.80			0.70		ナデ・ハケ	ナデ		10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図3	弥生土器	壺	6区	C22	SH1・2 SD96	15.00			1.50		ナデ	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図4	弥生土器	高坏	6区	C22	SH1・2 SD96						ハケ	シボリ		5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第42図5	弥生土器	蓋	6区	C22	SH1・2 SD96						ナデ	ナデ		7.5YR8/3 浅黄褐色	7.5YR8/3 浅黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図7	弥生土器	甕	6区	B19	SH4 SD69	21.00			0.70		櫛描刺突列点文・ 刺突列点文			2.5Y5/3 黄褐色	5Y6/2 灰オリーブ 色	良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第42図8	弥生土器	甕	6区	B19	SH5 SD68	20.00			0.80		擬凹線			7.5YR6/3 にぶい褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図9	弥生土器	甕	6区	B18・B19	SH5 SD67	17.00			1.60		ナデ・ハケ・擬凹 線・刺突列点文	ナデ・ケズリ		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR8/2 灰白色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第42図10	弥生土器	高坏	6区	B18・B19	SH5 SD67						ミガキ	シボリ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部に円孔を有 する 調整不明瞭
第42図11	土師器	甕	3区	M11・M12	SB13 SP665						ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図12	土師器	甕	2区	D20	SB7 SP312						ハケ			7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図13	弥生土器	高坏	2区	D20	SB8 SP315									5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	やや 不良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第42図14	弥生土器	甕	2区	D20	SB8 SP308						ナデ・刻み目文	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/2 灰白色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を多量 に含む	
第42図15	須恵器	脚台	4区	J3	SB18 SP1003			9.80	1.40					N6/ 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第42図16	弥生土器	壺	5区	G15	SB23 SP1641	14.00			1.40		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ		7.5YR7/3 にぶい褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第42図17	須恵器	蓋	4区	H7	SB19 SP1114	11.00	2.85		0.60		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N7/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第42図18	須恵器	蓋	4区	H7	SB19 SP1113						回転ナデ	回転ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	やや 不良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第42図19	須恵器	坏	4区	H7	SB19 SP1111	10.00	4.20	4.00	0.30	2.30	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ	ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	
第44図1	土師器	皿	5区	K14	SA1 SP2155	8.00	1.20	6.50	1.00	2.50	マワシナデ	マワシナデ		5YR7/4 にぶい褐色	5YR7/4 にぶい褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図2	土師器	皿	5区	K15	SA1 SP2176	8.00	1.30	6.00	1.00	2.60	マワシナデ	マワシナデ	指頭圧痕	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図3	土師器	皿	5区	K15	SA1 SP2176	12.00	2.40	8.00	1.50	2.50	マワシナデ	マワシナデ		10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図4	土師器	皿	5区	K15	SA1 SP2176	12.00	2.70		2.80		マワシナデ	マワシナデ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図5	土師器	皿	5区	K14	SA1 SP2177	12.00	2.30	8.00	1.00	2.00	マワシナデ	マワシナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図6	土師器	皿	5区	K15	SA1 SP2178	10.00	2.20	6.00	0.60	3.70	マワシナデ	マワシナデ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図7	土師器	皿	5区	K15	SA1 SP2178	12.30	3.35	10.00	10.50	12.00	マワシナデ	マワシナデ・指頭 圧痕	指頭圧痕	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	やや 良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	

押図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第44図 12	須恵器	坏	3区	N10	SE1						回転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N7/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図13	土師器	皿	3区	N10	SE1	9.00	1.30	8.00	2.50	2.60	マワシナデ	マワシナデ	指頭圧痕	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図14	須恵器	壺	3区	O13	SE2			7.40		12.00	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	5PB6/1 青灰色	5PB6/1 青灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図15	須恵器	壺	3区	O13	SE2			11.50		5.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ・指 頭圧痕	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	10mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図20	陶磁器	椀	7区	N9	SK62	9.60		4.20		12.00	回転ナデ	回転ナデ		露胎 N8/ 灰白色 釉調 2.5Y7/ 灰白色		良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	体部外面に草花文、 底部外面・高台外面 に界線を描く
第44図21	土師器	皿	4区	I7	SP1135	12.00	2.10	9.00	3.70	3.50	マワシナデ	マワシナデ	指頭圧痕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/1 褐灰色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	口縁部に灯芯油 痕あり
第44図22	須恵器	平瓶	4区	L2・M2	SX9	6.70			3.90	3.00	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図23	弥生土器	高坏	4区	I4	SK33							シボリ・ハケ		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第44図24	弥生土器	甕	4区	K4・K5	SX10	14.00				3.00	ナデ・ハケ・櫛描 直線文・櫛描刺突 列点文	ナデ・ケズリ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第44図25	越前	甕	4区	I7	SP1135						ナデ・花押状線刻 文	ナデ		7.5YR6/2 灰褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	6mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図1	須恵器	坏蓋	5区	G11・H11	SD1	12.10	3.45		5.50		回転ヘラ切り・回 転ナデ・擦痕	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y8/1 灰白色	やや 良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	軟質
第46図2	須恵器	坏蓋	5区	G14・H14	SD1	11.80				4.20	回転ナデ	回転ナデ		N7/ 灰白色	N6/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図3	須恵器	坏蓋	5区	G13	SD1	12.80	3.05		6.60		回転ヘラ切り・回 転ナデ・擦痕	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	やや 良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図4	須恵器	坏蓋	5区	G14	SD1	12.00	3.75		5.70		回転ヘラ切り・回 転ナデ・擦痕	回転ナデ		5PB5/1 青灰色	5PB5/1 青灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり
第46図5	須恵器	坏蓋	5区	G12	SD1	11.80	3.60		1.20		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図6	須恵器	坏蓋	5区	G14・H14	SD1	12.80	3.80		6.20		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図7	須恵器	坏蓋	2区	E20	SD1	11.80	3.75		9.20		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図8	須恵器	坏蓋	5区	G11・H11	SD1	10.50	3.95		0.60		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ		N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図9	須恵器	坏蓋	5区	G11	SD1	9.24	3.40		11.50		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		N7/ 灰白色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図10	須恵器	坏蓋	5区	G11・H11	SD1	10.10	3.30		5.60		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図11	須恵器	坏蓋	5区	G11・H11	SD1	10.20	3.00		1.50		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N7/ 灰白色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	
第46図12	須恵器	坏蓋	5区	G12・H12	SD1	10.00	3.15		5.20		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ		7.5Y5/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図13	須恵器	坏蓋	5区	G12・H12	SD1	10.90	3.40	5.50	1.80	12.00	回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ	ナデ	7.5Y5/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	やや 良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第46図14	須恵器	坏蓋	4区	F8・G8	SD1						回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		5Y8/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	不良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図15	須恵器	坏蓋	5区	G14	SD1	9.80			4.00		回転ナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図 16	須恵器	無台 坏	5区	G13	SD1	13.90	3.65	10.60	1.80	3.50	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	7.5Y5/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	

第5章 遺物

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第46図17	須恵器	無台 坏	2区	E20	SD1 a	12.00	3.80	7.60	3.95	7.50	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5B5/1 青灰色	5B5/1 青灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図18	須恵器	無台 坏	2区	E20・F20	SD1 a	12.60	3.50	7.50	4.90	6.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5B5/1 青灰色	5B5/1 青灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図19	須恵器	無台 坏	5区	G12・H12	SD1	11.80	3.80	6.60	6.00	7.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図20	須恵器	無台 坏	2区	E20・F20	SD1 a	12.40	4.05	7.50	4.00	5.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	N7/ 灰白色	N4/ 灰色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり
第46図21	須恵器	無台 坏	5区	G14・H14	SD1	11.00	3.25	7.50	9.60	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり
第46図22	須恵器	無台 坏	2区	F20	SD1 a	13.20	3.90	8.40	1.50	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナ デ・指頭圧痕	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図23	須恵器	無台 坏	5区	G14	SD1	12.80	3.60	7.50	2.00	4.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図24	須恵器	無台 坏	5区	G13・H13	SD1	12.80	3.90	6.00	4.50	7.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N4/ 灰色	N4/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第46図25	須恵器	無台 坏	5区	G14・H14	SD1	13.60	3.70	8.80	2.30	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり
第46図26	須恵器	無台 坏	2区	F19	SD1 a	13.00	3.70	7.70	2.60	9.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図27	須恵器	無台 坏	5区	G14	SD1	13.00	2.90	6.80	1.30	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図28	須恵器	無台 坏	5区	G14・H14	SD1	12.80	3.05	7.00	4.40	4.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第46図29	須恵器	無台 坏	5区	G14	SD1	10.00	3.10	4.60	2.60	6.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図30	須恵器	無台 坏	5区	G13	SD1	11.20			3.70		回転ナデ	回転ナデ		10YR4/1 褐灰色	7.5Y5/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図31	須恵器	無台 坏	5区	G13	SD1	9.40	4.00	7.00	4.70	5.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	N3/ 暗灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図32	須恵器	無台 坏	5区	G12・H12	SD1	8.00	3.10	4.80	0.50	5.00	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図33	須恵器	坏	5区	G13	SD1	8.20	3.30	5.00	3.00	10.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・板目 痕	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図34	須恵器	坏	5区	G12	SD1	9.60	3.20	6.40	2.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図35	須恵器	坏	1区	E27	SD1 表土	11.60			5.60		回転ナデ	回転ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図36	須恵器	坏	5区	G12	SD1	9.00	3.32	4.80	0.50	2.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図37	須恵器	有台 坏	5区		SD1	14.80	5.20	10.30	5.20	6.30	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第46図38	須恵器	有台 坏	5区	G14・H14	SD1	14.80	4.40	10.70	4.80	1.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図39	須恵器	有台 坏	5区	G13	SD1	13.80	4.75	8.70	2.10	3.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	10Y6/1 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図40	須恵器	有台 坏	2区	E20・F20	SD1 a	14.50	4.25	7.80	6.30	7.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N7/ 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図41	須恵器	有台 坏	5区	H11	SD1	14.00	5.05	8.80	3.00	4.00	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5Y6/1 黄灰色	N7/ 灰色	良	8mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図42	須恵器	有台 坏	2区	G19	SD1 a			9.00		0.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	7.5Y6/1 灰色	2.5GY6/1 灰オリーブ色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第46図43	須恵器	有台 坏	5区	G14	SD1	13.80	3.80	9.20	2.40	1.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図44	須恵器	有台 坏	5区	G14	SD1	15.00	3.90	9.60	2.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図45	須恵器	有台 坏	5区	G13	SD1	15.00	4.05	10.00	1.40	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図46	須恵器	有台 坏	2区	F20	SD1 a			10.10		3.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	やや 不良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図47	須恵器	無台 坏	5区	G14・H14	SD1	13.70	3.60	10.20	10.20	11.50	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ケズリ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	底部内面に 「十」のヘラ記 号
第46図48	須恵器	坏蓋	2区	E20・F20	SD1 a	17.10	3.65			5.50	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ・ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図49	須恵器	坏蓋	5区	G14・H14	SD1	17.10				3.50	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ・ナデ		N5/ 灰色	N7/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図50	須恵器	坏蓋	5区	G14・H14	SD1	17.80				2.10	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ・ナデ		N6/ 灰色	N7/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図51	須恵器	坏蓋	2区	F19・G19	SD1 a	17.00				7.50	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ		N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり
第46図52	須恵器	坏蓋	2区	E20・F20	SD1 a	17.80	2.60			2.40	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ・ナデ		N7/ 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図53	須恵器	坏蓋	2区	E20・F20	SD1 a	19.30				11.20	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ・ナデ		5PB7/1 明青灰色	5PB6/1 青灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第46図54	須恵器	坏蓋	5区	G13	SD1	14.00	1.85			8.80	回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	天井部外面に墨書 字句不明 「黒」か
第46図55	須恵器	無台 坏	5区	H14	SD1	13.00	4.20	7.10	6.30	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	5Y6/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	底部内面にヘラ 記号あり
第46図56	須恵器	皿	5区	H13	SD1	14.40	2.90	7.70	2.20	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	底部外面に「黒 田」の墨書
第46図57	須恵器	円面 硯	5区	G13・H13	SD1			16.20		6.70	回転ナデ	回転ナデ		N4/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	長方形の透かし 孔を有する。
第47図1	須恵器	提瓶	5区	G12	SD1			丸底		11.50	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	肩部にボタン状 の耳を有する
第47図2	須恵器	高坏	5区	G12・H12	SD1	12.40				5.00	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図3	須恵器	高坏	5区	G14・H14	SD1	12.00				5.50	回転ナデ	回転ナデ		N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図4	須恵器	高坏	5区	G14・H14	SD1	11.25	7.00	7.00	2.60	2.20	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		N5/ 灰色	2.5Y4/1 黄灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり
第47図5	須恵器	高坏	4区	F7・G7	SD1						回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		N5/ 灰色	N6/ 灰色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図6	須恵器	提瓶	2区	E20	SD1 a			丸底			回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	やや 不良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図7	須恵器	提瓶	2区	F19	SD1 a						回転ナデ・カキ目	回転ナデ		N5/ 灰色	7.5YR5/2 灰褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	半環状の耳貼り 付け
第47図8	須恵器	甕	5区	G12・H12	SD1	12.20				2.00	回転ナデ・カキ 目・沈線	回転ナデ		5Y5/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図9	須恵器	甕	5区	G16	SD1			5.20		12.00	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ	ハケ	5B6/1 青灰色	5B6/1 青灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図10	須恵器	壺	5区	G14	SD1			8.40		3.50	回転ナデ・回転ケ ズリ・平行タキ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図11	須恵器	鉢	5区	G14・H14	SD1	19.60				2.40	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	焼き歪みあり

第5章 遺物

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第47図12	須恵器	甕	5区	G13	SD1	23.20			3.30		回転ナデ・平行タ タキ・カキ目・沈 線	回転ナデ・同心円文 当具痕		2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図13	須恵器	甕	5区	G14・H14	SD1	23.40			1.20		回転ナデ・平行タ タキ・カキ目・回 転ヘラケズリ	回転ナデ・同心円文 当具痕		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第47図14	須恵器	甕	2区	F19	SD1 a	19.40			0.50		回転ナデ・平行タ タキ・カキ目	回転ナデ・同心円文 当具痕		5B5/1 青灰色	5B5/1 青灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図1	須恵器	甕	5区	G14・H14	SD1	26.00			3.30		回転ナデ・平行タ タキ・カキ目	回転ナデ・同心円文 当具痕・ナデ		N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図2	須恵器	甕	2区	F19・E20	SD1 a	42.20			0.80		回転ナデ・平行タ タキ・カキ目・櫛 描波状文	回転ナデ・同心円文 当具痕		7.5YR4/1 灰色	N4/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	別個体の須恵器 片が附着
第48図3	須恵器	甕	1区	D26・D27・ E26・E27	SD1	16.00			10.00		回転ナデ・平行タ タキ	回転ナデ・同心円文 当具痕		7.5Y4/1 灰色	N5/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図4	須恵器	横瓶	5区	G11・H11	SD1	11.00			1.80		回転ナデ・平行タ タキ・カキ目	回転ナデ・同心円文 当具痕		N7/ 灰色	N7/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図5	須恵器	平瓶	5区	H12	SD1						回転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	5P5/1 紫灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図6	須恵器	平瓶	5区	G13・H12・ H13	SD1						回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図7	須恵器	壺	4区	F7・G7	SD1 表土	6.50					回転ナデ・回転ヘ ラケズリ・沈線	回転ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第48図8	須恵器	把手 付鉢	5区	G13・H13	SD1	19.00			4.90		回転ナデ・ハケ・ 沈線	回転ナデ・同心円文 当具痕		2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	胴部に牛角状の 把手を有する 軟質
第49図1	土師器	鉢	5区	G12・H12	SD1	38.00			4.30		ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ		5YR6/6 橙色	2.5Y7/4 浅黄色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第49図2	土師器	碗	5区	H11	SD1	14.00			2.30		ナデ・ケズリ	ナデ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第49図3	土師器	碗	5区	G12	SD1	12.80	3.82	5.00	3.70	5.50	回転ナデ・ケズリ	回転ナデ	ケズリ	2.5Y6/3 にぶい黄色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第49図4	土師器	碗	5区	G13	SD1	14.40			2.50		回転ナデ・ミガキ	回転ナデ・ミガキ		2.5Y6/2 灰黄色	7.5Y2/1 黒色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	口縁部外面から体 部内面にかけて黒 色処理を施す
第49図5	土師器	高坏	5区	G13・H13	SD1	16.30	10.75	11.80	1.30	7.80	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ		5Y4/1 灰色	2.5Y8/2 灰白色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	坏部外面から脚 部内面にかけて 黒色処理を施す
第49図6	土師器	碗	5区	G14・H14	SD1	12.80	4.20	7.80	6.60	11.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第49図7	土師器	碗	5区	G12・H12	SD1	13.40		6.20	3.20	3.00	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第49図8	土師器	高坏	5区	G12・H12	SD1	16.80			10.00		ナデ・ハケ	ナデ		2.5Y7/3 浅黄色	10YR8/3 浅黄褐色	やや 良	6mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第49図9	土師器	高坏	6区		SD1 b			8.65	9.10		ハケ	ナデ・ハケ		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第49図10	土師器	皿	5区	G13	SD1	9.60	2.35	3.60	2.40	6.10	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2.5Y6/3 にぶい黄色	10YR5/2 灰黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	口右回りか
第49図11	土師器	碗	5区	H12・H13	SD1			6.10	7.00		回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2.5Y7/4 浅黄色	5Y2/1 黒色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	内黒碗 口右回り
第49図12	土師器	甕	5区	G13・G14・ H14	SD1	20.00			8.70		ナデ	ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第49図13	土師器	甕	5区	G13	SD1	25.80			1.90		回転ナデ・ハケ	回転ナデ・ケズリ		10YR5/6 黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	段々口縁
第49図14	土師器	甕	5区	H13・G13	SD1	27.60			7.60		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		2.5YR6/8 橙色	2.5YR5/8 明赤褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	段々口縁
第49図15	須恵器	皿	5区		SD1	20.00	2.00	15.20	1.20	1.70	回転ナデ	回転ナデ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	生焼け

挿入番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第49図16	土師器	高坏	5区	G13	SD1	24.00			1.80		回転ナデ	回転ナデ		5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 橙色	やや良	2mm以下の砂粒を中量含む	
第50図1	製塩土器		5区	G11・H11	SD1						輪積み痕	ナデ		7.5Y6/1 褐灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	8mm以下の砂粒を中量含む	口縁部の成形が不整形
第50図2	製塩土器		5区	G11・H11	SD1						輪積み痕	ナデ		7.5Y5/1 褐灰色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	9mm以下の砂粒を中量含む	口縁部の成形が不整形
第50図3	製塩土器		5区	G11	SD1						輪積み痕	ナデ		5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良	4mm以下の砂粒を中量含む	
第50図4	製塩土器		5区	G11・H11	SD1						輪積み痕	ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良	5mm以下の砂粒を中量含む	口縁部の成形が不整形
第50図5	製塩土器		5区	G11・H11	SD1						輪積み痕	ナデ		7.5YR6/5 にぶい橙色	7.5YR6/5 にぶい橙色	良	6mm以下の砂粒を中量含む	口縁部の成形が不整形
第50図6	製塩土器	深鉢	5区	G13	SD1	24.00			4.00		ナデ・輪積み痕	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	不良	1mm以下の砂粒を多量に含む	
第50図7	製塩土器	深鉢	5区	G11	SD1						ナデ・輪積み痕	ナデ		N6/ 灰色	7.5Y6/1 灰色	良	5mm以下の砂粒を中量含む	須恵質
第50図8	製塩土器		5区	G11	SD1						輪積み痕	ナデ		7.5YR6/6 橙色	10YR5/2 灰黄褐色	良	8mm以下の砂粒を中量含む	一部須恵質
第50図9A	土師器	移動式置電	5区	G13・H13	SD1	35.20		1.00			ナデ・ハケ	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の砂粒を中量含む	
第50図9B	土師器	移動式置電	5区	G13	SD1						ナデ・ハケ	ナデ		2.5Y7/4 浅黄色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	底あり
第50図9C	土師器	移動式置電	5区	G13	SD1						ナデ・ハケ	ナデ		2.5Y7/4 浅黄色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	
第57図1	弥生土器	甕	6区	B25	SD2	17.00			4.40		ナデ・ハケ・櫛描 刺突列点文・櫛描 直線文	ナデ・ハケ		7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第57図2	弥生土器	甕	5区	B14・C14	SD2	18.00			2.85		ナデ・ハケ・櫛描刺 突列点文・櫛描直線 文・櫛描波状文	ナデ・ハケ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第57図3	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	18.00	28.30	3.80	0.10	10.40	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第57図4	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	19.60			8.70		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	
第57図5	弥生土器	甕	5区	B15・B16	SD2	17.40			4.80		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズ リ・指頭圧痕		10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第57図6	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	17.60			7.00		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/3 にぶい黄色	良	3mm以下の砂粒を中量含む	調整不明瞭
第57図7	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	15.60			5.70		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	良	4mm以下の砂粒を中量含む	
第57図8	弥生土器	甕	6区	A24	SD2	15.60			4.30		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズ リ		2.5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第57図9	弥生土器	甕	1区	B27	SD2	17.00	21.65	3.20	8.30	12.00	擬凹線・ナデ・ハ ケ	ナデ・ケズリ	ハケ	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	7mm以下の砂粒を中量含む	
第57図10	弥生土器	甕	1区	B28	SD2	16.80			11.00		ナデ・ハケ・擬凹 線・刺突列点文	ナデ・ケズリ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	4mm以下の砂粒を中量含む	
第57図11	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	18.60			5.50		ナデ・ハケ・擬凹 線・刺突列点文	ナデ・ハケ・ケズ リ		5YR6/6 橙色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	5mm以下の砂粒を中量含む	
第57図12	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	24.60			4.30		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズ リ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第57図13	弥生土器	甕	6区	A20	SD2	19.00			4.50		ナデ・ハケ	ハケ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第57図14	弥生土器	甕	6区	B20	SD2	16.00			9.70		ナデ・ハケ・刺突 列点文	ナデ・ケズリ		10YR6/3 にぶい黄色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

第5章 遺物

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第57図15	弥生土器	台付 甕	6区	A25	SD2	11.70	15.40	8.40	3.00	8.60	ナデ・指押さえ	ナデ・ケズリ・ミガ キ		7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良	8mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第58図1	土師器	甕	1区	B27	SD2	28.20				8.60	ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ナデ・ハケ		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良	4mm以下の 砂粒を多量 含む	
第58図2	土師器	甕	6区	A23	SD2	25.00				1.00	ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ハケ		7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第58図3	土師器	甕	5区	C14	SD2	13.70				7.40	ハケ	ハケ・ケズリ		7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR4/2 灰褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第58図4	土師器	甕	1区	B28	SD2	14.80	17.50	4.50	4.00	12.00	ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ハケ・ケズリ	ケズリ	10YR7/3 にぶい黄褐色	5YR6/4 にぶい褐色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第58図5	土師器	甕	6区	A25	SD2	17.80	25.50	18.00	6.90	8.00	ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ・指頭 圧痕	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第58図6	土師器	甕	6区	A25	SD2	14.40	21.30	3.80	8.90	1.50	ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ハケ・ケズリ		5YR6/6 橙色	5YR6/6 褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第58図7	土師器	甕	6区	A25	SD2	18.15				8.90	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	
第58図8	土師器	甕	6区	A24	SD2	15.20	19.60	1.90	1.10	12.00	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	焼成前に穿孔	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第58図9	土師器	甕	6区	A24	SD2	16.70				7.00	ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ハケ・ケズリ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図1	弥生土器	壺	1区	B27	SD2	15.40	30.30	6.20	11.50	8.00	ナデ・ハケ・ミガ キ・指頭圧痕	ミガキ・ケズリ・指 頭圧痕	ハケ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図2	弥生土器	壺	5区	B15・C15	SD2	16.20				2.70	ナデ・ハケ・擬凹 線・線刻文	ハケ・ケズリ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	頸部に線刻文あり
第59図3	弥生土器	壺	6区	B25	SD2	10.60				11.00	ハケ・ミガキ・擬 凹線	ハケ・ケズリ		7.5YR5/6 褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図4	弥生土器	壺	5区	C14	SD2	11.00				3.40	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・指頭 圧痕		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	6mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図5	弥生土器	壺	6区	B25	SD2	11.80				4.50	ナデ・ハケ	ナデ・指頭圧痕		10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	頸部に円孔を有 する
第59図6	弥生土器	甕	5区	C14	SD2						ハケ・線刻文	ハケ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	胴部外面にヘラ 描きの線刻文あり
第59図7	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	13.90				6.70	ナデ・ハケ・ミガ キ・擬凹線・線刻 文	ナデ・ミガキ・ケズ リ・指頭圧痕		10YR5/3 にぶい黄橙 褐色	10YR5/3 にぶい黄橙 褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	頸部外面の2箇 所にヘラ描きの 線刻文あり
第59図8	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	13.40				6.90	ナデ・ハケ・線刻 文	ナデ・ケズリ・指頭 圧痕		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR4/1 褐灰色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	頸部と胴部の外 面2箇所線刻文あり
第59図9	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	11.00				9.40	ハケ・指頭圧痕	ハケ・ケズリ・線刻 文		7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	口縁部内面に線 刻文あり
第59図10	弥生土器	台付 小壺	6区	B25	SD2	8.40	11.20	6.00	2.70	3.20	ナデ・ハケ・ミガ キ・沈線・指頭 圧痕	ナデ・ハケ・指頭 圧痕		10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図11	弥生土器	壺	6区	A25	SD2	10.10				2.80	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・指頭 圧痕		7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図12	弥生土器	壺	1区	B28	SD2	19.40				6.00	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ・指頭 圧痕		7.5YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	やや 不良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図13	弥生土器	壺	6区	A21	SD2	11.80				0.10	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	やや 良	7mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第59図14	弥生土器	壺	5区	A20	SD2	16.30				10.30	ハケ	ハケ・ケズリ		2.5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6 褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図15	弥生土器	甕	5区	C14	SD2			3.50		10.40	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/1 にぶい黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図16	弥生土器	壺	5区	C14	SD2	12.00				3.60	ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ケズリ・ミガ キ		10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第59図17	土師器	壺	5区	C13	SD2	11.60			9.50		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第59図18	弥生土器	壺	6区	A24・B24	SD2	10.40			5.10		ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図19	土師器	壺	6区	A25	SD2		15.40	丸底	12.00		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ ・指頭圧痕		7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第59図20	弥生土器	壺	6区	A20	SD2			4.90	11.20		ハケ	ナデ	焼成後に穿孔	5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/1 褐灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図1	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	14.20			2.80		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		7.5YR6/6 橙色	5YR6/6 褐色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第60図2	弥生土器	壺	6区	A19	SD2	14.00			3.60		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図3	弥生土器	壺	6区	A22	SD2	14.00			6.60		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		7.5YR6/6 橙色	10YR6/6 明黄褐色	良	6mm以下の 砂粒を中量 含む	
第60図4	弥生土器	壺	6区	A24	SD2	14.00			1.70		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ミガキ・ケズリ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	
第60図5	弥生土器	壺	6区	B25	SD2	12.80			2.00		ナデ・ハケ・ミガ キ・擬凹線	ナデ・ハケ・ミガ キ・ケズリ・指頭圧 痕		5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図6	弥生土器	壺	6区	A24	SD2	14.50			9.00		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		5YR7/6 褐色	5YR7/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図7	弥生土器	壺	6区	A25	SD2	12.90	21.90	4.80	8.50	12.00	ハデ・ハケ・半環 状浮文	ナデ・ハケ・ケズリ	ケズリ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図8	弥生土器	壺	6区	A22	SD2	12.40			8.00		ナデ・ミガキ・櫛 描波状文	ミガキ		5YR6/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	
第60図9	弥生土器	壺	1区	B27・B28	SD2	30.40			4.20		ミガキ・擬凹線・ 円形浮文・竹管文	ハケ		7.5YR5/2 灰褐色	10YR4/2 灰黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	外面に赤彩の痕 跡あり 生駒西産
第60図10	弥生土器	壺	6区	A22	SD2	18.60			7.70		ナデ・ミガキ・擬 凹線・円形浮文・ 竹管文	ミガキ		2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/3 にぶい黄色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図11	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	16.20			8.70		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図12	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	18.40			9.70		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ハケ・ミガ キ		7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図13	弥生土器	壺	6区	B20	SD2	15.50			8.90		ナデ・擬凹線	ナデ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	頸部に円孔を 有する 調整不明瞭
第60図14	弥生土器	壺	5区	B15・C15	SD2	14.80			2.00		ナデ・ハケ・ミガ キ・擬凹線・円形 浮文・竹管文・刻 目英帯文・櫛描 直線文・櫛描刺突 列点文	ナデ・ハケ・ミガ キ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図15	弥生土器	壺	6区	A24	SD2	9.70	14.20	3.30	8.30	12.00	ミガキ・擬凹線	ミガキ・ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5YR6/3 にぶい黄色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	肩部に半環状把 手を有する
第60図16	弥生土器	壺	5区	B15	SD2	11.20			5.00		ナデ・ハケ・櫛描 刺突列点文	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図17	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	12.40			6.70		ナデ・ハケ・円形 浮文・刺突文	ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄褐色	2.5Y7/4 浅黄色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図18	弥生土器	壺	1区		SD2	14.60			5.00		ナデ・ハケ・櫛描 直線文・櫛描刺突 列点文・指頭圧痕	ナデ・ハケ		7.5YR8/4 浅黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図19	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	12.60			4.60		ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ナデ・ハケ・ケズ リ		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図20	弥生土器	壺	6区	A20	SD2	17.30			12.00	11.10	ナデ・ハケ・ミガ キ・刻目英帯文	ナデ・ハケ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	良	6mm以下の 砂粒を少量 含む	
第60図21	弥生土器	壺	5区	C14	SD2	12.60			5.40		ナデ・ハケ・ミガ キ・指頭圧痕	ナデ・ハケ・指頭 圧痕		10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図1	弥生土器	高坏	5区	C13・D13	SD2	25.40			8.60		ナデ・ハケ・ミガ キ	ナデ・ハケ・ミガ キ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	

第5章 遺物

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第61図2	弥生土器	高坏	6区	B25	SD2	22.80			3.20		ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部に円孔を有 する
第61図3	弥生土器	高坏	6区	A24	SD2	24.70			6.50		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図4	弥生土器	高坏	6区		SD2	27.00			1.60		ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ		7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第61図5	弥生土器	高坏	5区	A16	SD2			10.80	1.20		ハケ	ナデ・ハケ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第61図6	弥生土器	高坏	6区	B25	SD2						ハケ	ナデ・ハケ		2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図7	弥生土器	高坏	1区	B28	SD2	15.00			5.00		ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図8	弥生土器	高坏	6区	A23	SD2			11.80	3.20		ナデ・ミガキ	シボリ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部に円孔を有 する
第61図9	弥生土器	高坏	6区	A24・B24・ B25	SD2	28.70			3.30		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図10	弥生土器	高坏	5区	D13	SD2	26.20			3.80		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図11	弥生土器	高坏	6区	A20	SD2	24.50	24.80	15.30	3.10	4.30	ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ・ハ ケ・シボリ		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	9mm以下の 砂粒を中量 含む	
第61図12	弥生土器	高坏	6区	A24	SD2	21.60			10.70		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図13	弥生土器	高坏	1区	A27	SD2	21.00			2.50		ナデ・ハケ・ミガ キ	ナデ・ミガキ		5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図14	弥生土器	高坏	6区	A20	SD2	27.80			10.40		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第61図15	弥生土器	高坏	6区	A20	SD2	24.15			7.80		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図16	弥生土器	高坏	6区	A24	SD2	24.60			7.00		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ		10YR8/3 浅黄褐色	2.5Y7/4 浅黄色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図17	弥生土器	高坏	6区	A20・B20	SD2	24.20			3.00		ナデ	ナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	やや 良	10mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第61図18	弥生土器	高坏	6区	B25	SD2	21.20			2.60		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図19	弥生土器	高坏	1区	B28・B29	SD2	25.00			2.50		ナデ・ハケ・ミガ キ・突帯	ナデ・ハケ・ミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙色	5YR6/6 橙色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図20	弥生土器	高坏	6区	B25	SD2			13.80	5.10		ハケ・ミガキ	シボリ・ナデ・指頭 圧痕		10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図21	弥生土器	高坏	6区	B25	SD2			13.90	11.50		ナデ・ミガキ	シボリ・ハケ		2.5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図22	弥生土器	高坏	6区	A24	SD2			12.40	7.30		ミガキ	シボリ・ナデ		7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図23	弥生土器	高坏	5区	C14・C15	SD2	16.40	12.10	9.80	6.40	9.20	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第61図24	弥生土器	器台	6区	A20	SD2			17.80	4.30		ナデ・ミガキ	シボリ・ミガキ		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部4箇所に円 孔を有する
第61図25	弥生土器	高坏	6区	A20	SD2			21.00	2.70		ミガキ	ナデ・ハケ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部4箇所に円 孔を有する
第61図26	弥生土器	高坏	1区	B28	SD2	11.20	14.00	11.80	4.00	3.60	ナデ・ハケ・ミガ キ	ハケ・ナデ		10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	脚部4箇所に円 孔を有する
第62図1	弥生土器	有孔 鉢	6区	A24	SD2	18.70	18.25	1.40	8.60	8.00	ハケ	ハケ・ケズリ	焼成前に穿孔	10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第62図2	弥生土器	鉢	5区	D14	SD2	5.00	4.30	1.50	5.30	12.00	ハケ・ミガキ	ハケ・ナデ		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図3	弥生土器	鉢	6区	A23	SD2	19.00			4.60		ハケ	ハケ		5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/ にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図4	弥生土器	鉢	6区	A25	SD2	16.00	15.90	3.90	7.60	11.40	ハケ・ミガキ・指 頭圧痕	ナデ・ケズリ・指頭 圧痕	ハケ	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図5	弥生土器	鉢	6区	A24	SD2	13.70	14.40	2.70	6.50	2.00	ハケ・指頭圧痕	ナデ・指頭圧痕		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図6	弥生土器	鉢	6区	A20	SD2	20.00			3.80		ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR6/3 にぶい褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図7	弥生土器	鉢	6区	A24	SD2	14.60	13.35	3.60	1.60	1.60	ハケ	ハケ		7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第62図8	弥生土器	鉢	1区	B27	SD2	14.60			10.70		ナデ・ミガキ・擬 凹線	ナデ・ミガキ		7.5YR7/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	やや 良	3mm以下の 砂粒を中量 に含む	
第62図9	弥生土器	鉢	5区	C14	SD2	10.70			1.10		ナデ・ハケ・擬凹 線	ナデ・ケズリ		7.5YR6/6 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	
第62図10	弥生土器	鉢	6区	A24	SD2	12.00	9.20	3.80	3.00	12.00	ハケ	ハケ・指頭圧痕		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/6 褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第62図11	弥生土器	鉢	6区	A20	SD2	23.00			3.10		ナデ・擬凹線	ナデ・ケズリ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図12	弥生土器	鉢	1区	B28	SD2	22.00	10.20	6.00	5.00	2.70	擬凹線・ナデ・ミ ガキ	ナデ・ミガキ		5YR7/4 にぶい褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図13	弥生土器	鉢	6区	A25	SD2	21.00			2.90		ナデ・ミガキ・ハ ケ・擬凹線	ハケ・ミガキ		10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第62図14	弥生土器	鉢	1区	B28	SD2	20.00	8.90	3.60	2.00	12.00	ナデ・ミガキ	ナデ・ケズリ・ミガ キ	棒状工具圧痕	2.5Y6/3 にぶい黄色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図15	弥生土器	鉢	1区	B27・B28	SD2	18.00			2.90		ナデ・ハケ	ナデ・ミガキ		7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	やや 良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	
第62図16	弥生土器	鉢	6区	A20	SD2	17.30			6.00		ナデ・ハケ・櫛描 直線文・櫛描刺突 列点文	ナデ・ハケ		10YR3/2 黒褐色	10YR3/2 黒褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図17	弥生土器	把手 付鉢	6区	A21	SD2	18.40	8.40	4.60	5.70	12.00	ハケ	ミガキ		2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/4 にぶい黄色	良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	胴部に半環状の 把手を有する 調整不明瞭
第62図18	弥生土器	鉢	1区	B27	SD2	20.00			3.00		ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・指押 さえ		7.5YR8/3 浅黄褐色	7.5YR8/3 浅黄褐色	やや 不良	4mm以下の 砂粒を中量 含む	
第62図19	弥生土器	鉢	1区	B27	SD2	19.00	12.00	丸底	1.50	12.00	ハケ・指押さえ	ハケ・指押さえ		10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	やや 良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第62図20	弥生土器	鉢	5区	C14	SD2	10.60	4.40	2.70	1.60	8.50	ハケ・指頭圧痕	ハケ	ハケ	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第62図21	弥生土器	鉢	6区	A22・A23	SD2	13.00	9.50	1.40	11.00	12.00	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/6 褐色	良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	
第62図22	弥生土器	鉢	1区	B28	SD2	15.60	9.80	4.60	10.00	9.00	ナデ・ハケ	ナデ		7.5YR6/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	やや 不良	5mm以下の 砂粒を中量 含む	調整不明瞭
第62図23	弥生土器	有孔 鉢	5区	A16	SD2	14.70	11.50	1.10	3.60	12.00	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	焼成前に穿孔	7.5YR6/6 褐色	7.5YR6/6 褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図24	弥生土器	鉢	6区	A24	SD2	9.10	7.90	4.00	5.10	8.50	ナデ・ハケ	ナデ・指押さえ		2.5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	5mm以下の 砂粒を多量 に含む	調整不明瞭
第62図25	弥生土器	鉢	5区	C14	SD2	8.60	6.50	2.00	3.40	1.00	ナデ	ナデ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	やや 良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第62図26	弥生土器	鉢	1区	B28	SD2	10.20	9.80	3.00	1.00	12.00	ナデ・ハケ・櫛描 直線文・櫛描刺突 列点文	ナデ・ハケ・ケズリ		7.5YR7/6 褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	やや 良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	
第62図27	弥生土器	鉢	6区	A20	SD2	12.60	9.80	3.60	8.20	12.00	ナデ・ハケ・ミガ キ・擬凹線	ナデ・ケズリ	ハケ・ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	頸部に円孔を有 する

第5章 遺物

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第62図28	弥生土器	鉢	6区	A24	SD2	10.70	8.55	3.00	11.20	12.00	ハケ・刻み目文	ハケ・指頭圧痕	ナデ	7.5YR5/2 灰褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を中量 含む	
第62図29	弥生土器	把手 付鉢	5区	C13	SD2	10.90	8.35	4.60	0.80	7.00	ナデ・ミガキ	ナデ・ケズリ・ミガ キ	ケズリ	10YR5/6 黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	良	4mm以下の 砂粒を中量 含む	半環状の把手を 有する
第62図30	弥生土器	鉢	5区	C14	SD2	12.60					ミガキ	ミガキ・ケズリ・指 頭圧痕		5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第62図31	弥生土器	台付 鉢	5区	C14	SD2	9.20					ハケ・ミガキ	ハケ・シボリ		5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第62図32	弥生土器	台付 鉢	6区	A20	SD2	7.60					ハケ・ミガキ	ハケ・ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	6mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図1	弥生土器	器台	6区	A20	SD2	25.40					ナデ・ハケ・ミガ キ・擬凹線	ハケ・ミガキ・シボ リ		7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図2	弥生土器	裝飾 器台	1区	B27	SD2						擬凹線・ナデ	ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	やや 不良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図3	弥生土器	器台	6区	A20	SD2			20.80		10.00	ナデ・擬凹線	ナデ・ハケ		2.5YR3/ 淡黄色	10YR8/4 浅黄褐色	良	4mm以下の 砂粒を中量 含む	
第63図4	弥生土器	器台	5区	C13	SD2	18.60	16.80	16.00	1.70		ハケ	ハケ		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部に円孔を有 する
第63図5	弥生土器	裝飾 器台	5区	C14	SD2	14.80					ナデ	ハケ・ナデ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	頸部に三段の円 孔あり
第63図6	弥生土器	器台	6区	A22	SD2			16.00		2.10	ミガキ・沈線	ナデ・ケズリ		10YR6/2 灰黄褐色	7.5Y6/1 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	外面を赤彩の痕 跡あり 円孔あり
第63図7	弥生土器	器台	6区	A24	SD2			15.60		6.30	ハケ	ハケ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	
第63図8	弥生土器	器台	6区	A24	SD2						ミガキ・刻み目突 帯文	ハケ・ミガキ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	脚部の4箇所 にレンズ形の透 かし孔あり
第63図9	弥生土器	台付 鉢	6区	A25	SD2	13.00	9.80	8.00	2.00	11.30	ミガキ	ナデ・ミガキ		7.5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図10	弥生土器	台付 鉢	6区	A24	SD2	10.00	6.70	5.00	3.90	7.20	ナデ・指押さえ			5YR7/3 にぶい褐色	5YR7/3 にぶい褐色	やや 良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図11	弥生土器	台付 鉢	6区	A22・A24	SD2	9.80	7.55	4.90	1.60	11.80	ナデ・指押さえ			10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	やや 良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図12	弥生土器	台付 鉢	6区	B25	SD2	12.10	8.20	5.80	6.00	11.00		ハケ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図13	弥生土器	台付 鉢	6区	A24	SD2	11.00	8.80	5.80	4.30	12.00	ハケ・指押さえ	ハケ		5YR6/6 褐色	7.5YR5/2 灰褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図14	弥生土器	高坏	5区	B16	SD2	11.50	10.00	6.80	11.00	7.50	ハケ・ミガキ	ハケ・ミガキ		7.5YR7/3 にぶい褐色	5YR5/6 明赤褐色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図15	弥生土器	高坏	6区	B25	SD2	12.10	13.70	10.00	3.00	8.10	ナデ・ハケ	ミガキ・シボリ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図16	土師器	器台	6区	A22・A23	SD2	9.60	9.00	9.60	1.50	0.40	ナデ・ハケ・ミガ キ	ナデ・ハケ・指頭圧 痕		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図17	土師器	器台	6区	A22・B22	SD2	9.40	8.70	11.40	12.00	3.00	ミガキ・ナデ	ミガキ・ハケ		2.5YR5/6 暗赤褐色	2.5YR5/6 暗赤褐色	良	6mm以下の 砂粒を中量 含む	脚部の3箇所に 円孔を有する
第63図18	土師器	器台	6区	A23	SD2	9.50	8.80	10.80	11.00	4.30	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ		7.5YR5/6 明褐色	7.5YR5/6 明褐色	良	7mm以下の 砂粒を中量 含む	
第63図19	弥生土器	器台	6区	A25	SD2	9.80	8.60	10.60	1.60	5.50	ナデ・ミガキ	ナデ・ハケ		2.5Y7/3 浅黄色	10YR7/4 にぶい黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図20	土師器	台付 鉢	6区	A20	SD2			9.80		10.50	ハケ・指頭圧痕	ハケ		10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/3 にぶい褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図21	弥生土器	器台	6区	A24	SD2						ナデ・ミガキ	シボリ・ケズリ		10YR7/4 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	良	2mm以下の砂 粒を少量含 む	上下二段の3箇 所に円孔を有す る

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第63図22	弥生土器	脚台	6区	B25	SD2			8.30		2.60	ナデ	ナデ		10YR5/6 黄褐色	10YR5/6 黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図23	弥生土器	蓋	6区	A20	SD2	12.80	8.20		5.30		ハケ	ハケ・指頭圧痕		5YR6/4 にぶい橙色	5YR5/1 にぶい橙色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図24	弥生土器	蓋	6区	A20	SD2	12.80	8.40		3.70		ナデ・ハケ・指押 さえ	ナデ・ハケ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	7mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図25	弥生土器	蓋	6区	A20	SD2	14.10	5.20		5.50		ナデ・ハケ・ミガ キ・指押さえ	ハケ		7.5YR4/4 褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図26	弥生土器	蓋	6区	A24	SD2	14.15	5.95		7.70		ナデ・ハケ・指押 さえ	ハケ		5YR5/4 にぶい赤褐 色	5YR6/4 にぶい赤褐 色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図27	弥生土器	蓋	6区	A20	SD2	13.40	5.50		2.00		ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ		7.5YR7/ 褐色	7.5YR7/6 褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図28	弥生土器	蓋	6区	A24	SD2	16.80	7.20		1.20		ナデ・ハケ・指押 さえ	ナデ・ハケ		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図29	弥生土器	蓋	6区	A24	SD2	15.80	8.30		7.70		ナデ・ハケ・指押 さえ	ナデ・ハケ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図30	弥生土器	蓋	5区	D13	SD2	11.10	5.50		7.60		ナデ・指押さえ	ナデ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図31	弥生土器	蓋	5区	D13	SD2	10.50	3.60		7.90		ミガキ・指押さえ	ミガキ		2.5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図32	弥生土器	蓋	6区	A25	SD2	13.20	5.80		7.70		ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	調整不明瞭
第63図33	弥生土器	蓋	6区	A24	SD2	12.60	4.40		12.00		ナデ・ハケ・指押 さえ	ナデ・ハケ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第63図34	弥生土器	蓋	5区	C14	SD2	12.00	5.00		1.00		ナデ・ハケ・指頭 圧痕	ナデ・ハケ・指頭 圧痕		10YR6/6 明黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図1	須恵器	坏蓋	5区		SD2	14.80	3.20		2.60		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ・ナデ		N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	13mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図2	須恵器	坏蓋	5区	D13・D14	SD2	12.60	2.15		2.20		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ・ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図3	須恵器	坏蓋	5区	C15	SD2	12.60	1.45		4.00		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図4	須恵器	坏蓋	5区	B16	SD2	11.80	0.90		2.30		回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図5	須恵器	坏蓋	5区	B15・B16	SD2	15.20			1.90		回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図6	須恵器	無台 坏	6区		SD2	14.40	4.00	9.00	2.80	5.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	やや 不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	軟質
第64図7	須恵器	無台 坏	5区	A16	SD2	13.20	4.65	8.20	4.50	9.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y5/1 灰色	5Y4/1 灰色	やや 良	8mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図8	須恵器	無台 坏	2区	A17	SD2	14.30	3.75	8.40	8.00	6.90	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N5/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	内外面に墨が付着一 部に墨書らしきもの があるが、不鮮明
第64図9	須恵器	無台 坏	5区	A16	SD2	13.40	3.95	7.50	0.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	10YR5/2 灰黄褐色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図10	須恵器	無台 坏	5区		SD2	12.80	3.90	7.10	6.00	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図11	須恵器	無台 坏	5区	A16	SD2	12.70	3.35	9.40	4.00	6.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図12	須恵器	皿	5区	D13・D14	SD2	16.40	2.45	12.40	2.30	2.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図13	須恵器	皿	5区	D14	SD2	15.00	2.40	12.00	1.50	2.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	

第5章 遺物

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第64図14	須恵器	皿	5区	C15	SD2	13.80	2.20	10.00	2.50	3.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図15	須恵器	皿	5区	B15	SD2	13.90	1.95	11.00	3.00	7.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図16	須恵器	皿	5区	A16	SD2	13.90	1.98	10.20	3.50	6.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5Y6/1 黄灰色	5Y7/1 灰白色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	漆付着
第64図17	須恵器	皿	5区	A16	SD2	13.50	2.05	10.00	6.00	5.90	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図18	須恵器	皿	5区	C15	SD2	13.40	2.10	10.60	4.80	9.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図19	須恵器	皿	5区	C15	SD2	15.00	2.00	10.80	0.40	3.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/2 暗灰黄色	やや 不良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	軟質
第64図20	須恵器	皿	5区		SD2	13.90	1.65	11.00	4.00	4.30	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図21	須恵器	皿	5区	D13・D14	SD2	15.20	1.45	11.00	0.60	2.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図22	須恵器	皿	5区	D13・D14	SD2	13.70	2.25	10.00	2.00	2.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	7.5Y6/1 灰色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図23	須恵器	皿	5区	B14	SD2	13.90	2.55	11.00	5.70	5.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	軟質
第64図24	須恵器	無台 坏	2区	A17	SD2	14.60	2.80	7.60	3.00	5.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	5Y7/1 灰白色	N6/ 灰色	やや 良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	内外面に墨が付 着
第64図25	須恵器	無台 坏	5区	A16	SD2	12.60	2.70	8.00	10.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図26	須恵器	有台 坏	5区		SD2	13.30	4.98	8.50	1.20	10.80	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図27	須恵器	有台 坏	5区		SD2	12.50	4.25	7.80	4.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図28	須恵器	有台 坏	5区		SD2	13.00	4.90	7.00	2.10	2.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図29	須恵器	有台 坏	5区	D13・D14	SD2	11.90	3.90	8.10	1.70	2.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図30	須恵器	有台 坏	5区	A16	SD2	13.90	6.10	8.10	0.50	6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図31	須恵器	有台 坏	5区	A16	SD2	14.10	5.60	7.40	12.00	11.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	7.5Y4/1 灰色	7.5YR4/1 灰褐色	良	6mm以下の 砂粒を中量 含む	
第64図32	須恵器	椀	5区	A16	SD2	14.40	6.25	6.40	4.00	6.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N6/ 灰色	N7/ 灰白色	良	8mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図33	須恵器	椀	5区	A15・B15・ B16	SD2	12.75	4.90	6.80	10.60	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	N7/ 灰白色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	外面に鉄輪 (5Y3/1 オリーブ 黒色)を施す
第64図34	須恵器	椀	2区	A17	SD2	13.00	4.10	7.40	4.10	11.80	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	やや 良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	ロクロ右回り
第64図35	須恵器	椀	5区	A16	SD2			7.25		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	ロクロ右回り
第64図36	須恵器	椀	5区	C14	SD2	13.30	3.75	7.10	3.60	2.30	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図37	須恵器	椀	5区		SD2	12.60	4.15	6.90	1.40	4.50	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰色	N7/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図38	須恵器	椀	5区	A16	SD2	13.70	4.50	7.60	4.30	6.00	回転ナデ	回転ナデ		5Y4/1 灰色	5Y4/1 灰色	やや 良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図39	須恵器	椀	5区	A16	SD2	13.60				4.00	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	2.5Y6/1 黄灰色	良	2mm以下の 砂粒を多量 に含む	

挿図 番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第64図40	須恵器	椀	2区	A17	SD2			6.50		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	ロク右回り
第64図41	須恵器	椀	2区	A17	SD2			6.60		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	ロク右回り
第64図42	須恵器	皿	5区	B15・B16	SD2	13.30	2.30	5.20	2.30	4.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図43	須恵器	皿	5区	A16	SD2	14.00	3.00	6.40	3.50	0.60	回転ナデ・回転ヘ ラケズリ	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰色	2.5Y6/2 灰黄色	やや 良	6mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図44	須恵器	椀	5区		SD2	13.70	3.40	6.20	2.80	3.50	回転ナデ・回転ケ ズリ	回転ナデ	回転ケズリ・回転ナ デ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図45	須恵器	椀	2区	A17	SD2			6.80		4.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N3/ 黄灰色	5Y7/1 灰白色	やや 良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	軟質 外面に鉄軸 (N3/ 暗灰色) を施す
第64図46	須恵器	椀	5区	A16	SD2			5.40		7.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰色	N6/1 灰色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図47	須恵器	椀	5区		SD2			6.40		6.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図48	須恵器	椀	2区	A17	SD2			6.50		8.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰色	N5/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図49	須恵器	椀	5区		SD2			5.00		10.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰色	N7/ 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図50	須恵器	有台 坏	5区	B15	SD2	14.20	4.75	9.70	5.10	4.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図51	須恵器	有台 坏	5区	A16	SD2	12.90	5.00	6.50	2.90	3.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰色	5Y7/1 灰白色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図52	須恵器	有台 坏	5区	B15・B16	SD2	13.00	5.00	6.40	3.90	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良	5mm以下の 砂粒を少量 含む	外面に鉄軸 (N2/ 黒色) を 施す
第64図53	須恵器	有台 坏	5区	A16	SD2	12.10	4.60	7.40	1.70	11.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	不良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	外面に鉄軸 (N2/ 黒色) を施す 生焼け
第64図54	須恵器	椀	5区		SD2	18.90			1.50		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	良	3mm以下の 砂粒を中量 含む	
第64図55	須恵器	椀	2区	A17	SD2	19.50	7.00	7.50	4.60	11.40	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	内外面に鉄軸 (5Y3/1 オリーブ 黒色) を施す
第64図56	須恵器	椀	6区	A18	SD2	13.60	4.85	5.40	2.10	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第64図57	須恵器	椀	1区	A17	SD2	15.30	5.55	7.80	1.40	1.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	
第65図1	須恵器	坏蓋	5区	A16	SD2	15.20	2.15			7.20	回転ヘラ切り・回 転ナデ・ナデ・擦 痕	回転ナデ・ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の 砂粒を少量 含む	天井部外面に 「松尾」の墨書
第65図2	須恵器	坏蓋	5区		SD2	12.45	1.45			5.50	回転ヘラ切り・回 転ナデ・板状圧痕	回転ナデ・ナデ		5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	良	2mm以下の 砂粒を少量 含む	天井部外面に 「口屋」・ 「唐口」の墨書
第65図3	須恵器	有台 坏	5区		SD2	11.30	4.60	5.60	2.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	N6/ 灰色	N7/ 灰白色	良	4mm以下の 砂粒を少量 含む	底部外面に墨書 字句不明
第65図4	須恵器	坏蓋	5区	B15・B16・ C15・C16	SD2	18.20	2.60			0.40	回転ヘラ切り・回 転ナデ	回転ナデ・ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	9mm以下の 砂粒を中量 含む	天井部外面に墨 書 字句不明
第65図5	須恵器	皿	5区	C15	SD2	13.00	1.80	10.30	3.60	5.10	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N5/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	底部外面に墨書 字句不明 「口家」か
第65図6	須恵器	椀	5区	B15	SD2			5.40		12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転 ナデ	5Y6/1 灰色	5Y7/1 灰白色	良	7mm以下の 砂粒を少量 含む	底部外面に「松 尾」の墨書
第65図7	須恵器	有台 坏	5区		SD2	13.80	5.30	6.40	3.20	4.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の 砂粒を少量 含む	底部外面に「松 尾」の墨書 その他は字句不明
第65図8	須恵器	皿	5区	A16	SD2	14.70	1.70	11.60	7.20	8.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナ デ・板状圧痕	N7/ 灰色	N7/ 灰色	良	8mm以下の 砂粒を少量 含む	底部外面に墨書 字句不明 漆付着

第5章 遺物

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第65図9	須恵器	椀	2区	A17	SD2			6.50		7.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	N6/灰色	N6/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「松尾」の墨書
第65図10	須恵器	皿	5区	A16	SD2			10.00		3.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/灰色	N6/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書字句不明「衣」か
第65図11	須恵器	有台坏	5区	B15	SD2			6.60		6.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1灰色	5Y6/1灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に墨書字句不明「木」か
第65図12	須恵器	皿	2区	A17	SD2	14.60	3.30	6.50	5.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	5Y6/1灰色	5Y6/1灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	底部外面に「松尾」・「黒田」の墨書
第65図13	須恵器	瓶	6区	A18	SD2						回転ナデ	回転ナデ		7.5Y6/1灰色	2.5Y6/黄灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	外面に「口敷」の線刻を有する
第66図1	須恵器	甕	5区	C14	SD2	39.60			1.10		回転ナデ・突線	回転ナデ・同心円文当具痕		5Y7/1灰白色	N7/1灰白色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第66図2	須恵器	甕	5区	B15	SD2	19.20				0.70	回転ナデ・平行タタキ・沈線	回転ナデ・同心円文当具痕		10YR7/1灰白色	10YR7/1灰白色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第66図3	須恵器	甕	5区	C14・C15	SD2	49.00			1.60		回転ナデ・沈線・櫛描波状文	回転ナデ		N3/暗灰色	N4/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第66図4	須恵器	壺	5区		SD2	11.70			1.50		回転ナデ	回転ナデ		5Y5/2灰オリーブ色	5Y5/2灰オリーブ色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第66図5	須恵器	壺	5区	B16・C16	SD2	9.50			2.50		回転ナデ	回転ナデ		N4/灰色	N5/灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第66図6	須恵器	壺	2区	A17	SD2	7.70			0.60		回転ナデ	回転ナデ		N6/灰色	N6/灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第66図7	須恵器	甕	5区	B15・B16	SD2			3.60		8.00	回転ナデ・回転ケズリ・沈線・円孔	回転ナデ	回転ケズリ	N6/灰色	N6/灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第66図8	須恵器	双耳壺	2区	A17	SD2						ケズリ・ナデ	ナデ		2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	耳に2箇所の円孔あり
第66図9	須恵器	高盤	1区	B28	SD2			9.80		5.80	回転ナデ	回転ナデ		2.5Y6/1黄白色	2.5Y7/1灰白色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第66図10	須恵器	壺	5区	A16	SD2			9.00		3.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y5/1黄灰色	N5/灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第66図11	須恵器	壺	2区	A17	SD2			6.90		9.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1灰白色	2.5Y7/1灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	外面に鉄軸(N3/暗灰色)を施す
第66図12	須恵器	壺	5区	A16・B16	SD2			8.20		5.60	回転ケズリ・平行タタキ・回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰色	N6/灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第67図1	緑釉陶器	皿	6区		SD2	13.70	3.02	6.40	2.00	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 5Y5/1 灰色 釉調 7.5Y4/2 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第67図2	緑釉陶器	皿	5区	A16・B16	SD2	14.70	2.40	6.80	2.70	4.60	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 2.5Y7/3 浅黄色 釉調 5Y5/2 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第67図3	緑釉陶器	皿	5区	B16	SD2			6.90		4.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 2.5Y8/3 淡黄色 釉調 10Y5/2 オリーブ灰色		やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第67図4	緑釉陶器	皿	5区	A16	SD2			5.90		9.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 2.5Y8/1 灰白色 釉調 2.5Y6/2 灰黄色		やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第67図5	緑釉陶器	皿	5区	A15・B15・B16	SD2	13.40				0.80	回転ナデ	回転ナデ		露胎 2.5Y8/2 灰白色 釉調 5Y5/2 灰オリーブ色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第67図6	緑釉陶器	椀	2区	A17	SD2			8.60		2.10	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 0YR7/2 にぶい黄橙色 釉調 2.5Y5/3 黄褐色		やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第67図7	土師器	椀	1区	C28	表土	12.80	3.90	5.40	3.20	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・ナデ	2.5Y7/3 浅黄色	10YR7/2 にぶい黄橙色	やや良	1mm以下の砂粒を少量含む	口縁部に灯芯油痕あり ロクロ左回り
第67図8	緑釉陶器	椀	5区		SD2	12.40	3.80	5.30	3.00	11.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 5Y5/1 灰色 釉調 2.5Y4/1 暗オリーブ灰色		良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第67図9	灰釉陶器	皿	2区	A17	SD2			7.20		4.70	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第67図10	土師器	椀	2区	A17	SD2			6.80		10.50	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	体部外面に墨書判読不能 ロクロ右回り
第67図11	灰軸陶器	椀	4区		表土	14.00	5.50	7.00	3.00	11.20	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り・回転ナデ	露胎 5Y6/1 軸調 5Y6/2	灰色 灰オリーブ	良	3mm以下の砂粒を少量含む	ロクロ右回り
第67図12	白磁	椀	5区	C13・C14	SD2	17.00				3.60	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		露胎 5Y8/1 軸調 5Y7/1	灰白色 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第76図1	弥生土器	甕	1区	C27	SD5	20.00				1.30	ナデ・擬回線	ナデ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第76図2	弥生土器	裝飾器台	1区	C27・C28	SD5									10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	やや良	5mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭 受け部に透かし孔の痕跡を有する
第76図3	弥生土器	高坏	1区	B27	SD5						ミガキ	シボリ・ハケ		5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第76図4	須恵器	坏	2区	J20	SD13	13.50	3.90	6.20	4.00	12.00	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N5/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第76図5	須恵器	無台坏	2区	C18	SD15	13.00	3.40	6.60	0.40	5.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	N7/ 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第76図6	須恵器	無台坏	2区	H18	SD24	13.00	3.30	8.10	1.95	4.80	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・指頭圧痕	N6/ 灰色	2.5GY6/1 灰オリーブ色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第76図7	須恵器	坏蓋	3区	L10・L11	SD26	10.00	2.90			3.00	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ・板目状圧痕	回転ナデ		N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第76図8	須恵器	無台坏	4区	L2・M2	SD61	12.20	3.80	6.80	4.60	9.50	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	
第76図9	土師器	椀	7区	L10・M10	SD92	12.00	4.40	5.60	6.00	11.60	ナデ	ナデ・ミガキ		5YR4/6 赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良	4mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第79図1	須恵器	短頸壺	2区	C21	排水溝	11.70				2.00	回転ナデ	回転ナデ		7.5Y4/1 灰色	7.5Y4/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第79図2	須恵器	無台坏	4区	F7・G7	表土	12.80				4.80	回転ナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰白色	N7/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第79図3	須恵器	皿	2区	C21	排水溝	17.00	2.25	14.20	3.80	2.20	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第79図4	須恵器	有台坏	5区		表土	11.40	4.85	6.30	2.10	10.30	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	5mm以下の砂粒を少量含む	
第79図5	須恵器	無台坏	5区	H16	表土	11.80	3.00	6.40	1.50	3.30	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第79図6	須恵器	無台坏	4区		表土			9.60		5.50	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	不良	2mm以下の砂粒を少量含む	調整不明瞭
第79図7	須恵器	坏蓋	1区	E27	表土	12.60	4.00			3.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第79図8	須恵器	坏	1区	D27・E27		10.00	3.55	4.10	4.70	5.00	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	回転ヘラ切り・ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第79図9	須恵器	坏蓋	5区		排水溝	10.60	2.95			8.50	回転ヘラ切り・回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ		5PB6/1 青灰色	5PB6/1 青灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第79図10	須恵器	坏	4区	G4・G5		9.10	3.45	6.00	10.50	12.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り	10Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	良	3mm以下の砂粒を少量含む	
第79図11	須恵器	無台坏	4区	F7・G7	表土	11.80	3.45	8.40	2.00	4.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切り・回転ナデ	N6/ 灰色	N6/ 灰色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第79図12	白磁	皿	4区	K4	表土			3.40		12.00	回転ケズリ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 2.5Y8/1 軸調 7.5Y8/1	灰白色 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第79図13	青磁	椀	5区	G16	攪乱			3.10		8.00	回転ナデ	回転ナデ	回転ケズリ	露胎 2.5Y7/2 軸調 5GY6/1	灰黄色 オリーブ	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第79図14	白磁	椀	4区		表土	16.20				0.90	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ		露胎 7.5Y8/1 軸調 7.5Y7/1	灰白色 灰白色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	漆付着

第5章 遺物

挿図番号	種別	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (cm)			残存率 (/12)		調整・文様			色調		焼成	胎土	備考
						口径	器高	底径	口縁部	底部	外面	内面	底面	外面	内面			
第79図15	越前	甕	5区	K11	表土						回転ナデ・欄描文	回転ナデ		7.5V6/1 灰色	7.5V6/1 灰色	良	2mm以下の砂粒を中量含む	
第79図16	青磁	椀	5区	J16・J17	表土	18.00			0.20		鋳蓮弁文			露胎 釉調 7.5V6/2 ブ色	灰白色 灰オリーブ色	良	1mm以下の砂粒を少量含む	
第79図17	白磁	椀	4区		表土			5.80		11.80	回転ケズリ	回転ナデ・圏線	回転ケズリ	露胎 釉調 7.5V8/1 10V8/1	灰白色 灰白色	良	2mm以下の砂粒を少量含む	
第79図18	瓦器	鍋	1区	E26	遺構面上	30.00			1.20		ナデ・指押さえ	ナデ・ハケ		2.5V7/1 灰白色	2.5V7/1 灰白色	良	1mm以下の砂粒を中量含む	
第79図19	越前	播鉢	5区	K11・K12				17.60		1.50	回転ナデ・縄掛け痕	回転ナデ・播り目		2.5V7/4 浅黄色	2.5V7/4 浅黄色	やや良	2mm以下の砂粒を少量含む	

第6表 石器観察表

挿図番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (遺存値: cm・g)				遺存状況	石材	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第42図6	磨石類	6区	B20	SH3 SP2471	13.5	10.1	5.0	984.0	完形	砂岩	端部に凹凸の少ない敲打痕 全面摩耗
第44図26	石核	4区	I4	SK33	14.5	5.7	2.8	258.5	完形	ガラス質安山岩	サヌカイト 角礫を節理で分割した板状素材
第51図1	二次加工のある剥片	2区	E20	SD1a	2.4	4.1	0.7	7.1	残欠	ガラス質安山岩	剥片の一边に浅い両面調整
第51図2	打製石斧	5区	H14	SD1	12.6	5.5	2.3	160.0	完形	デイサイト	短冊形 偏刃
第51図3	磨石類	5区	G13	SD1	18.6	7.4	5.5	1157.9	完形	安山岩	両主面磨痕 周縁敲打痕
第51図4	磨石類	5区	H15・H16	SD1	11.8	6.0	3.8	412.4	完形	安山岩	周縁の一部に敲打痕
第51図5	磨石類	6区		SD1	9.1	8.7	3.9	457.7	完形	安山岩	片主面と周縁に敲打痕 周縁には面形成 両主面摩耗
第51図6	磨石類	1区	D27・E27	SD1	9.5	9.0	3.8	482.1	完形	安山岩	両主面に敲打痕・凹部形成 周縁敲打痕・面形成
第51図7	磨石類	5区	G11	SD1	11.8	10.2	8.0	1097.9	完形	安山岩	両主面・周縁敲打痕
第68図1	スクレイパー類	5区	C15	SD2	9.4	7.3	1.0	70.3	完形	ガラス質安山岩	片側面に両面調整で刃部作出
第68図2	二次加工のある剥片	5区	A15・B15・A16	SD2	11.0	8.4	1.2	148.7	残欠?	ガラス質安山岩	実測図下端が欠損なのか素材面(自然面)なのか判然としない
第68図3	スクレイパー類	6区	A25	SD2	10.4	6.4	2.6	41.6	完形	頁岩	縁面に微細剥離 両面摩耗・線状痕
第68図4	スクレイパー類	5区		SD2	5.9	4.9	0.7	18.5	完形	ガラス質安山岩	素材剥片の打点側背面に二次加工
第68図5	スクレイパー類	5区	B14・B15	SD2	7.9	3.1	0.6	25.3	完形	粘板岩	円礫から板状に剥離した素材 刃部やや内湾 全面摩耗
第68図6	打製石斧	5区	B15・B16・C15・C16	SD2	12.9	5.6	2.1	183.7	完形	砂岩	短冊形 偏刃 刃部再生
第68図7	打製石斧	5区	B15	SD2	13.0	5.7	1.6	126.6	基部一部欠	片岩	略分銅形 欠損部は節理面
第68図8	打製石斧	1区	B28	SD2	10.3	6.8	2.1	141.8	刃部一部欠	ホルンフェルス	撥形 全面著しく風化
第68図9	磨製石斧	5区	C16	SD2	6.6	6.1	4.0	307.9	刃部欠	安山岩	片主面平坦
第68図10	石剣未成品?	5区	B16・C16	SD2	10.4	6.4	2.6	209.5	残欠	頁岩	片面自然面 片面平坦剥離
第68図11	石刀・石剣	5区		SD2	11.0	3.8	2.2	130.7	残欠	頁岩	表面剥落

挿図 番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量（遺存値：cm・g）				遺存状況	石材	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第69図1	磨石類	6区	B25	SD2	11.2	10.5	6.0	999.8	完形	デイサイト	両主面敲打痕・凹部・磨痕 周縁敲打痕 凹部内摩耗
第69図2	磨石類	6区	A24	SD2	9.4	9.6	4.6	604.2	略完形	砂岩	両主面敲打痕・凹部・磨痕 周縁敲打痕 被熱により周縁の一部剥落 片主面半円形に黒化
第69図3	磨石類	6区	A23	SD2	8.3	7.6	3.8	375.6	残欠	砂岩	両主面敲打痕・磨痕（砥面？） 片主面凹部 側面敲打痕
第69図4	磨石類	6区	B25・B26	SD2	8.4	7.7	3.1	298.6	完形	安山岩	端部敲打痕 全面摩耗
第69図5	磨石類	6区	B25	SD2	11.0	9.6	4.7	638.1	完形	安山岩	両主面敲打痕 全面摩耗
第69図6	磨石類	1区	B27	SD2	11.3	9.4	5.7	925.4	完形	閃緑岩	両主面敲打痕・凹部 端部敲打痕 全面摩耗
第69図7	磨石類	5区	B16	SD2	13.9	9.0	6.7	1229.2	略完形	閃緑岩	端部敲打痕 片主面端部剥落 全面摩耗
第69図8	磨石類	5区	A15・B15・ A16	SD2	8.6	7.3	7.0	650.0	完形	閃緑岩	多面体 各面敲打痕・磨痕？
第69図9	磨石類	6区	A23	SD2	7.9	8.9	4.0	471.3	残欠	安山岩	片主面敲打痕 端部敲打痕 全面摩耗
第69図10	磨石類	1区		SD2	8.8	5.0	4.4	274.6	完形	安山岩	端部敲打痕・面形成
第69図11	磨石類	6区	A24	SD2	12.4	5.3	6.1	570.5	完形	凝灰岩	方柱状に成形 各面敲打痕 溝状の凹部
第69図12	磨石類	5区		SD2	6.6	8.3	5.8	413.1	残欠	デイサイト	端部敲打痕・面形成 黒色付着物 被熱
第69図13	石皿	6区	A24	SD2	20.8	19.8	9.8	5670.0	残欠	安山岩	両面磨痕
第69図14	砥石	5区	A16	SD2	18.5	10.5	7.0	1852.7	残欠	砂岩	方柱状に成形 両主面・両側面を砥面とする 砥面は緩やかに窪む 長軸方向に線状痕 片主面に断面V字の溝形成
第69図15	砥石	6区	A23	SD2	10.7	9.3	3.0	443.7	残欠	砂岩	板状 両主面・片側面を砥面とする 長軸方向に微かな線状痕
第70図	石皿	5区		SD2	72.4	47.0	8.1	44010.0	略完形	安山岩	片主面磨痕 使用面は緩やかに窪む 両端僅かに欠損
第77図5	打製石斧	3区	N13	遺物出土 集中地点	10.5	3.8	2.0	123.8	完形	デイサイト	短冊形
第77図6	打製石斧	3区	N13	遺物出土 集中地点	12.4	4.4	1.3	84.3	完形	頁岩	短冊形 刃部摩耗・長軸方向の線状痕
第77図7	打製石斧	3区	N13	遺物出土 集中地点	12.1	6.3	1.9	144.0	完形	砂岩	短冊形
第80図1	スクレイパー類	3区	M15	トレンチ	4.1	3.7	0.7	12.6	完形	チャート	石礫等の未成品か
第80図2	スクレイパー類	4区	H5	表土	10.2	3.9	1.4	68.3	完形	頁岩	片側面は自然面 表面剥落
第80図3	二次加工のある 剥片	4区			6.7	5.4	1.4	56.3	完形	頁岩	
第80図4	打製石斧	5区		排土	9.6	4.1	1.4	71.5	完形	安山岩	短冊形 刃部摩耗 側面つぶれ
第80図5	打製石斧	4区		遺構面上	8.9	4.5	1.7	57.7	刃部欠	頁岩	略分銅形
第80図6	打製石斧	2区	F24	攪乱	23.7	8.8	3.5	800.3	完形	デイサイト	短冊形
第80図7	打製石斧	4区	I8	表土	14.7	8.6	2.6	297.2	完形	頁岩	撥形

第5章 遺物

挿図番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (遺存値: cm・g)				遺存状況	石材	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第80図8	打製石斧	4区		排土	11.3	8.2	1.8	189.8	刃部・側辺一部欠	頁岩	撥形 片面剥落
第81図1	磨石類	4区		表土	11.9	6.8	3.7	479.1	完形	ひん岩	片主面磨痕 側面に指掛け線の凹み作出
第81図2	磨石類	4区	L 7		13.0	11.0	6.4	1336.0	完形	閃緑岩	両主面敲打痕・凹部 端部敲打痕 被熱赤化
第81図3	磨石類	3区	M14	トレンチ	11.1	10.3	5.6	983.3	完形	閃緑岩	両主面敲打痕・凹部 端部敲打痕
第81図4	磨石類	4区	I 3		5.9	6.9	3.6	195.3	残欠	安山岩	両主面敲打痕・凹部 周縁敲打痕・凹部 主面摩耗

第7表 木製品観察表

挿図番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (遺存値: cm)				樹種	木取り	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第43図1	柱根	2区	D21	SB 7 SP318	28.20	16.50	17.60		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭	
第43図2	柱根	4区	I 7	SB19 SP1109	23.20	13.70	12.30		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭	
第43図3	礎板	4区	I 7	SB19 SP1109	26.20	17.55	3.15		板目	下端を両側面から切り落とす	
第43図4	柱根	4区	H 7・I 7	SB19 SP1110	34.30	12.10	11.00		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭	
第43図5	柱根	4区	H 7	SB19 SP1113	59.35	14.50	13.80		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭	
第43図6	柱根	4区	H 7	SB19 SP1114	53.50	18.80	16.40		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭 器表面の一部が炭化	
第43図7	柱根	4区	G 9	SB17 SP980	31.50	22.20	18.20		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭 横断面略方形	
第43図8	柱根	4区	G 9	SB17 SP984	30.30	27.80	23.60		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭	
第43図9	柱根	3区	M11	SB45 SP788	22.20	20.80	18.90		芯持ち材	底面に加工痕あり	
第43図10	柱根	5区	J 12	SB55 SP2000	28.60	24.10	20.20		芯持ち材	底面に加工痕が認められるが、風蝕のため不明瞭 横断面略六角形	
第44図8	漆器皿	5区	K15	SA 1 SP2178			0.40	1.30	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	横木取り	黒漆地に朱漆にて、菊花の型押し(スタンプ)文を施す
第44図9	板材	5区	K16	SA 1 SP2182	14.20	4.60	1.06		柁目		
第44図10	板材	5区	K16	SA 1 SP2182	14.30	3.70	3.65		柁目		
第44図11	柱根	5区	L 16	SA 1 SP2230	44.90	15.60	14.30		芯去り材	器表面を面取り 横断面略八角形	
第52図1	下駄	1区	E27	SD 1	20.10	9.30	1.35	3.20	ヒノキ科アスナロ属	柁目	連歯式の下駄 鼻緒を装着する円孔有する 最大厚は、器体中央を計測
第52図2	火鉢白	1区	D28	SD 1	14.70	2.05	1.45		板目	右側面に発火用の窪みを4箇所設ける	
第52図3	加工棒材	1区		SD 1	82.70	2.15	1.05		板目	下端を削り、尖らせる	
第52図4	加工棒材	1区		SD 1	86.25	2.35	1.50		板目	下端を削り、尖らせる	
第71図1	皿	6区	A20	SD 2	口径24.80		1.40	4.70	スギ科スギ属スギ	横木取り	外面に細かな削りを施す 底部内面に焦痕あり

挿図 番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (遺存値: cm)				樹種	木取り	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第71図2	容器底板	5区	C14	SD2	径8.10		0.70		板目	一部欠損	
第71図3	容器底板	5区	A16	SD2	径11.30~12.00		0.70		板目	一部欠損	
第71図4	容器底板	6区	B25	SD2	28.40	8.45	1.10		板目	全体の約1/4が遺存	
第71図5	加工板材	5区	C14	SD2	32.25	7.60	1.40	スギ科スギ属スギ	板目	器体中央に切り込みを入れ、上端に方形孔を有する	
第71図6	奇串	1区	B28	SD2	18.30	1.70	1.00		板目	右側縁に切り込みを入れる	
第71図7	杓状具	5区	C13	SD2	19.40	8.40	3.30	スギ科スギ属スギ	板目	棒状の突起を有する 先端欠損	
第71図8	杵材	5区	C14	SD2	32.70	1.10	1.30		芯持ち材	細い枝材を利用し、端部の削って鋭く仕上げる	
第71図9	接合材	6区	A22	SD2	17.25	2.50	1.80		柱目	器体の上下および中央に、紐掛け用の溝を有する	
第71図10	柄	6区	A20	SD2	34.65	径3.30		スギ科スギ属スギ	柱目	上端に半環状の突起を有する	
第71図11	篋状具	6区	A23	SD2	36.00	24.00	1.30	スギ科スギ属スギ	柱目	下端を長楕円形の篋状を呈し、上端は直下を浅く削って突起状にしあげる	
第71図12	栓材	6区	B25	SD2	17.00	5.30	3.40	スギ科スギ属スギ	板目	上端には円頭状の突起を削出し、器体下部には円孔を有する	
第72図1	桶	1区	A27	SD2		19.05	1.30	16.05	スギ科スギ属スギ	縦木取り	器体下端に目釘有り
第72図2	桶	5区	B14	SD2		19.15	2.50	31.50	スギ科スギ属スギ	縦木取り	器体下端に目釘有り
第72図3	桶	6区	A20	SD2		31.05	1.75	35.70	スギ科スギ属スギ	縦木取り	把手あり 内面に一部焦痕あり
第72図4	槽	5区	C13	SD2	27.90	14.80	1.35	8.70	スギ科スギ属スギ	横木取り	底部に削り出しの脚を有する 最大厚は、器体中央を計測
第72図5	槽	5区	C14	SD2	48.80	22.30	0.08	6.60	スギ科スギ属スギ	横木取り	最大厚は、器体中央を計測
第72図6	槽	1区	B27	SD2	40.80	21.80	0.75	6.30	スギ科スギ属スギ	横木取り	平面形が長方形を呈する 最大厚は、器体中央を計測
第72図7	槽	1区	B27	SD2	53.80	23.30	0.04	5.20	スギ科スギ属スギ	横木取り	最大厚は、器体中央を計測
第73図1	槽	6区	B25	SD2	91.25	20.60	0.09	11.00	スギ科スギ属スギ	横木取り	底部に削り出しの脚を有する 最大厚は、器体中央を計測
第73図2	脚付板材	6区		SD2	48.90	10.50	2.30	6.80	スギ科スギ属スギ	板目	底部に削り出しの脚を有する 槽の底部か 最大厚は、器体中央を計測
第73図3	加工棒材	1区		SD2	113.70	3.60	2.30		柱目	器体下半に焦痕あり	
第73図4	加工板材	5区	C14	SD2	85.30	22.80	1.20	スギ科スギ属スギ	板目	器体上端から右側縁にかけて斜めに切り落とす	
第73図5	加工板材	1区	B28	SD2	92.80	18.00	2.15	スギ科スギ属スギ	板目	器体上部に長方形の欠き込みを有する	
第73図6	加工板材	6区		SD2	79.70	5.90	4.10		柱目	器体上部に方形孔を有する 下端を削って鋭く仕上げる	
第73図7	加工板材	1区		SD2	87.25	9.10	2.90	スギ科スギ属スギ	板目	器体上部に方形孔を有する 裏面を中心に焦痕を有する	
第74図1	扉板	5区	D13	SD2	141.70	66.20	3.80	スギ科スギ属スギ	板目	右側縁に方形孔を有する	

第5章 遺物

挿図 番号	器種	地区	グリッド	出土地	法量 (遺存値: cm)				樹種	木取り	備考
					全長	最大幅	最大厚	重量			
第74図2	刻み梯子	5区	C14	SD2	134.95	15.05	6.50		スギ科スギ属スギ	板目	4段分の足掛け部が遺存
第74図3	加工板材	6区	B25	SD2	112.70	16.20	2.40		スギ科スギ属スギ	板目	器体中央に方形孔を有する
第75図1	加工板材	6区	B25	SD2	62.25	9.80	1.40			柱目	器体上部に方形孔を有する
第75図2	加工板材	6区		SD2	47.25	4.50	1.10			板目	器体上部に方形孔を有する
第75図3	加工板材	6区	B25	SD2	27.20	11.65	6.25			板目	欠き込み仕口を有する 平梁の転用材か
第75図4	加工板材	5区	D13	SD2	35.40	7.15	1.65			板目	器体下部右側縁を斜めに切り落とす
第75図5	加工板材	6区	B25	SD2	68.40	5.50	1.50			板目	下端を削って鋭く仕上げる
第75図6	加工板材	5区	C14	SD2	67.90	6.10	1.60			柱目	下端を削って鋭く仕上げる
第75図7	加工棒材	6区	A22	SD2	58.10	1.80	1.75		スギ科スギ属スギ	板目	器体上端に小さな鉤状の突起を作り出す 弓か
第75図8	木樋	1区	B28	SD2	74.40	10.00	1.70	11.45	スギ科スギ属スギ	板目	器体下端に方形孔を有する 最大厚は、器体中央を計測
第75図9	加工板材	5区	C13・C14・ D13・D14	SD2	30.00	6.75	3.70			板目	上端を斜めに切り落とし、その下部の角を削る
第75図10	加工棒材	5区	C13・D13	SD2	57.30	3.80	5.00			柱目	上端を斜めに切り落とし、裏面の角の一部を削る